

会 議 録

会議の名称		第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会（第3回会議）		
開催日時		令和4年（2022）2月1日（火） 開会 13:30 閉会 15:30		
開催場所		オンライン（Zoom）		
事務局（担当課）		市民部市民活動課国際交流室		
出席者	委員	浅見委員、飯野委員、シェイニー委員、小林委員、シン委員、平良委員、唐委員、中島委員、布浦委員、ベントン委員、星野委員、前田委員、皆川委員、茂在委員、吉田委員、渡邊委員		
	その他			
	事務局	横田市民部長、大久保市民部次長、大木市民活動課長、村山国際交流室長、藤田主査、磯主任、佐々木主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議題		第2次つくば市グローバル化基本指針の骨子（案）について		
会議次第	1 開会			
	2 議事	第2次つくば市グローバル化基本指針の骨子（案）について		
	3 その他			
	4 閉会			

<審議内容>

1 開会（午後1時30分開始）

オンライン会議についての説明を事務局より説明。その後、横田市民部部長からの挨拶を行った。

その後、事務局より、会議の公開非公開について、「つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例」に基づき説明。

○事務局

【本懇話会の会議の公開非公開について、以下の2点を説明】

- ・本条例の懇話会に該当するため、原則公開であること
- ・ただし、原則公開であっても、会議内容によって会議の全部または一部を非公開とすることができるとしており、そのような場合は、その都度、審議に諮り、公開の可否を決定すること。

⇒承認

2 議事

第2次つくば市グローバル化基本指針の骨子（案）について

○事務局

【資料に基づき、つくば市の「国際化」と「グローバル化」及び第1章から第4章まで説明】

以下、事務局からの報告に対する質疑、意見

○ベントン委員

外国人のアンケートでは、かなりの回答数が得られ、結構いい結果が出たことは本当によかったと思う。これは、外国人の方への初めての調査なのか。過去のもので比較できるものはあるのか。

○事務局

当室で把握している限り、外国人市民意識調査をこれほど大々的に行った

のは、恐らく初めてだと思う。過去に比較できるデータがないため、今回を初回として、今後、隔年なのか3年おきなのか分からないが、継続して取っていきたいと思っている。

○ベントン委員

皆さんに、つくばは住みやすい、つくばに住み続けたいと回答していただいたことは本当によかったと思う。また、つくば市には外国人留学生がたくさんおり、皆様から聞くのは、日本に住みたい、住み続けたい、特に、つくばに住み続けたいという人が多い。卒業前から就職活動をしており、マッチングも結構大変であるが、つくば市も力を入れていることはとてもいいと思う。そこで質問であるが、36-37ページの7つのチャレンジ目標があったページの中に、外国人の就職はどこに入れているかを聞きたい。

○事務局

外国人の就職という形では、こちらには入っていない。

○ベントン委員

今後、日本も18歳人口が減る中、色々な都市が若い人を呼ぶために競争している。若い留学生がせっかくつくばに来ており、また、今後も増えてくると思う。筑波大学も2・3倍ぐらい留学生を増やす計画なので、その人たちがつくばの企業で働けるように積極的な政策を入れられるとよいと思うが、いかがか。

○事務局

今、課題の中に、外国人や外国人留学生の就職支援という文言を明記していないが、この後に御説明する、第5章の具体的な取組や事業例の中に、留学生の就職支援というのを明記しているので、そちらとしていくか、今いただいた御提案をもとに、この課題の中にも入れるべきかどうかを、検討させていただきたいと思う。

○ベントン委員

どこもそうであるが、ちゃんと書かないと忘れる可能性もあるので、できれば考えていただければいいと思う。

○布浦座長

若い人口が増える中で、留学生がさらに増えるという点では、その先を見越した就職のことも深刻な問題となっていくのではないかということ非常に強く感じる。

○シェイニー委員

このアンケートはすごくよくできていると思う。すべてを理解しているわけではなく、私がついていけない部分もあったが、私から3点、コメントさせていただきたい。

1点目は、20ページの外国人市民が求めている情報について、イベントの情報をみんな知りたいというのは、私は驚かなかった。日本語が分かる人であっても、どんなイベントがある、いつそういうイベントがあるといった情報が非常に少ないような気がする。もちろん、広報つくばには書いてあるかもしれないが、何かもう少し面白く見せるようなニュースや何かが、以前、つくば文化振興財団かノバホールかどこかでカピオとかが出したニュースがあったが、それも含めて、つくばでどんなところでもイベントがあるというようなニュースがあると、日本人に対しても、外国人に対してもすごくいいと思う。私は、つくばにイベントがあるということは分かっているが、イベント自体がないように考えている外国人が多いかと思う。つくばには文化がない、みたいなことを言ってしまう人もいる。私はいつも言っているが、そういった情報がないことにより、文化がない、ここには何もない、この街はつまらないとなってしまうが、イベントはきちんとあると思うので、情報だけを提供すれば、もっと住みやすいとか、ここにずっと住みたいと思う人が増えるかと思う。

それと関連して、情報をどのように手に入れるかという点について、私は、実は福島県会津若松市の国際交流協会で勤めた経験があるが、そこでは毎月、ユーザーの皆さんにメールを送っていた。そこは、外国人の人口がつくばに比べて非常に少なく、600人とか700人しかいなかったが、そのニュースの評判が非常に良く、色々な大切なタイムリーな情報をみんなに送ることができた。地震等の災害からどのように身を守るか、病院はどこが空いているか等の情報もメールで送れば、その人はどこかに転送することもある。なので、情報をウェブサイトにはただアップするだけではなく、それを発信することが非常に大事だと思う。

最後に、39ページに書いてある、54%の方が「これからもつくばに住みたい」と回答しており、その目標が84%となっているが、これは個人的な意見であるが、つくばに住みたいと思っても、どうしようもないこともあると思う。元々つくばに来たのが、例えば大学のためとか、ちょっと日本に遊びに来て、その後自分の国に帰って結婚するとか、他の仕事をするとかという状況の人も多くいるかと思うので、これはあまり気にしなくてもいいかなと思う。もう少し高くてもいいかもしれないが、どうしようもない理由の方も入っているかと思うので、住んでいて住みやすいか、そうではないか、というのが一番大事だと私は思う。

○事務局

イベント情報に関して、私も国際室に来るまでは観光等の部署にいたが、そういった部署ではイベント情報を欲しているだろうなという意識でいた。今は逆に、外国人生活支援みたいところに特化するとか、そこを重点的にやるようになると、イベント情報がどうしても二の次になってしまうようなところが正直ある。ただやはり、今シェイニー委員がおっしゃったように、イベントがあることを知らないということで、つくば市がつまらない、面白くないと思っている方がいらっしゃるということであれ

ば、イベント情報を積極的に発信できる方法について、考えていきたいと思った。

メールのニュース配信についても、あまり想定していなかった、というよりも、考えたことがなかったので、実現できるかどうか少し考えさせていただきたいと思う。

居留意向の54%のところは、本当におっしゃるとおりで、どうしようもない方もたくさんいらっしゃると思う。大事なのは住みやすさという御意見を今、頂戴したので、指標としてどうするか、事務局で宿題にさせていただきたいと思う。

○渡邊委員

意見を2点、述べさせていただきたいと思う。

基本指針のスローガンは、知の集積という言葉が入ったことで、非常につくばらしさが出て、いいスローガンの案になったのかなと感じた。他方、39ページにある目標指標について、ここで挙げられている目標指標がこのスローガンの達成を指し示すような形の目標仕様に必ずしもなっていないのかなと思う。関連性というのが、そんなに強くないのかなと感じる。これは現状値が必要なので、すでにあるデータ中で選ばなければいけないというところからこういう形になるのかと思うが、多様な人々のつながりとか、知の集積とか、市民がともに作るとか、そういった部分については、現状の目標指標の居住満足度と、国際化に対する満足度というところでは、計れないのかなと感じる。

何かもう少し、スローガンと直接つながるような感じの目標指標というのを考えられないものか。特に外国人市民とつくば市民、双方分けた指標というわけではなく、共に見る指標というのはないものかということを感じた。これがいいのではないかと今持っているわけではないが、意見として述べさせていただく。

それから御説明の中で、法的サービス、公的セクターの情報提供が行われているが、媒体自身がなかなか認識されていない、周知徹底が必要だという話が何度か出たと思うが、これも言うは易し、なかなか難しいだろうなと思うが、何かつくば市の方で妙案をお持ちなのかどうか、伺いたい。

○事務局

1つ目のスローガンについては御指摘のとおりで、耳が痛い限りである。どうしても現状値があるものをベースに考えたため、スローガンとのリンク性が低いというのは本当にそのとおりである。例えば、現状値は今ないけれども、今後、何かの調査等で拾えるような、現状値0で、目標値だけを作るようなものを入れられるかどうか、何か今おっしゃった外国人市民と日本人市民を分けて考えるのではなく、共に見られるような指標を何か設定できるか、また宿題にさせていただきたいと思う。また、委員の皆様の中で、もし何か妙案があれば、ぜひ御提案いただきたいと思う。

2点目の媒体の認知度不足について、何か妙案があるかという御質問であるが、現状、ない状況である。思いつくことはなるべく小さなことでもやっているつもりだが、なかなか認知度が上がっていかないというのが現状である。本当に地道に、今、留学生や、そういったウェブ上のネットワークやコミュニティに働きかけるようなところを模索し始めたところなので、これに関しても、何か具体的なアイデアがある委員の方がいらっしゃれば、今この場でなくてもよいので、御提案いただくと大変ありがたい。

○中島委員

38 ページの基本指針のスローガンは、私は大変よくできていると思う。今の重要なキーワードの多様性やインクルーシブといった、SDGsに書かれていることを確実に読み取れるような指針になっていると思う。

その上で一つ意見を申し上げたいのは、スローガンの最初にある、多様な人々というところについてであるが、10 ページの国籍・地域別外国人数の

円グラフを見ると、アジアとブラジルがほとんどであるという様に見えてしまうと思う。むしろ、朱書きされている多様な都市という意味で、全体で135、134と書いてある部分もあったが、これだけの数の国籍の方がいらっしゃるといのは、実はあまりない都市だと思っている。例えば、日本のブラジルとかリトルインディアといった、特定のコミュニティが多いことを特徴にしている都市とは対極で、世界、確か196カ国ぐらいしかないと思うが、そのうちの135の国の方がつくばに住んでいらっしゃるところは、つくばの特徴として非常に重要だと思っているし、施策をむしろそこに少しフォーカスしたほうが良いと考えている。

具体的な意見を言うと、10ページの円グラフの「その他」というところは、「その他」で済ませてはちょっとまずいかなと、実は思っている。こういうレアな国々からの方も居住しているところを、何か資料でもいいので付けていただくとか。外国人と言ってもひとくくりにするのはまずいかなというのが、私が見させていただいて感じたところである。要するに、コミュニティがきちっとできている国の方と、ごく少人数、場合によっては1人2人しかいらっしゃらないような国というのものもあるはずなので、そういった外国人同士の同じ国のコミュニティができていない、作れない国の方たちに対するフォロー、そこをサポートするような施策というのを、目に見える形で書き込んでいただけるのが私はいいかと思う。それが要するに、1人も取りこぼさない、インクルージョンにつながると思っている。具体的には、多言語化は、そういうところを目的としているということ、もう少しはっきり分かるような文章表現にさせていただくのがいいと思っている。

○事務局

今、御指摘いただいた、「その他」の2,000人を超える方たちを「その他」とするのはいかなものかという御意見については、本当にそのとおりで、

御指摘いただくまで気づかなかったことを恥ずかしく思う。「その他」の部分だけ、別のグラフなのか表なのか、表現方法を検討し、「その他」の内訳のような形でこの中に組み込みたいと思う。

また、書き込みの部分で、インクルージョン、誰 1 人取り残さないという点について、目に見えるように表現してはという御意見について、少数でコミュニティができない、恐らく言語としても英語とか中国語とか、そういった言語ではない方たちに対して、例えば、当室で行っている外国人相談窓口は今、13 言語で相談対応できるようになっているが、まさにそういった方々をサポートできるようにと始めているものなので、そういった点が目に見えるような書き込みに変更させていただきたいと思う。

○浅見委員

11 ページの年齢別外国人数はとても興味深いグラフだが、母数がよくわからない。パーセンテージがあるが、外国人市民は外国人市民全体の 85.4% などに対し、日本人市民は日本人市民全体の 64.1%、と表現した方が分かりやすいのではないかと思う。これはとても興味深いデータで、少子高齢化社会の問題の解決策の、ある意味、モデルになるのではないかと思った。これも結構アピールするポイントではないかと思う。

それから、31 ページの災害に対する備えについて、私どもの大学でも、つくばで一人暮らしをしている学生が多いため、災害に対する備えが意外とできていないというので、緊急な課題であると感じた。水や食べ物を準備しているというのが多いが、まだ 25%未満であり、避難場所がどこか確認しているという方が 15%しかおらず、一人暮らしの留学生にとってみると結構問題かなと思った。私どもの大学でも留学生に周知したいと思うが、市の方でも、何らかの手段で早急に手当をしていただけるとありがたいなと思う。

○事務局

11 ページの、分母を分かりやすくすることで、その特徴性を際立たせると
いう御意見について、そのように修正してみたいと思うので、また御覧い
ただきたいと思う。

災害に対する備えについてであるが、国際交流室で年に 4 回発行している
外国語広報紙があり、9 月 1 日、日本では防災の日と言われているが、秋
口に出している広報紙の発行に合わせて、災害時の備えや、そういった記
事を出すようにはしている。しかしながら、そもそもその媒体自体の周知
が足りていなければ、そこを見ていただくことができないので、そういっ
た啓発を引き続き行うとともに、なるべく多くの方に手に取っていただ
けるような、目に止めていただけるような方法を進めていきたいと考えてい
る。

○平良委員

先程、事務局の話の中で、もし何かいい案があれば教えていただきたいと
いうことが多かったと思うが、どういう部分に対して案をもらえたらいい
かというのを、リスト等にしてみんなに見えるようにして、本懇話会の委
員が思いついた時に書き込めるようなものを作ったほうがよいのではない
かと思った。もちろん、運営側の業務の内容次第だとは思いますが、そうす
ることによって、年に 4 回しかない本懇話会の間にも議論を進められる上、
参加したい人だけ参加できるという環境にもなるので、より良いかなと思
う。

○事務局

今、自分で御説明していても、委員の皆様の御意見を頂戴したいなと思
う点が多くあるが、このように投げかけても、メールで送っていただくのは
難しいと思う。早急にできるかどうかは分からないが、現時点で、事務局
として皆様から御意見いただきたいところをリストのような形でフォーマ

ットを作り、共有させていただくことを考えさせていただきたいと思う。いつまでにということは現時点で申し上げられないが、思いついたことを気軽に事務局の方に御提案いただけるようなシステムを作らせていただきたいと思いますので、その際は御協力いただきたい。

○平良委員

一番早いのは Google スプレッドシートで、懇話会に参加している方のメールアドレスを全部登録すれば、10分以内に作れると思う。また御相談いただきたい。

○ベントン委員

先程、色々な方からコミュニケーションの問題、情報発信の問題が出てきたと思う。また、このアンケート調査の中でもフェイスブックやツイッターをあまり見られてない結果があり、情報が来ていないということです。私が以前、つくば市の総合計画の委員だった際、最初の方ではつくば市のフェイスブックの日本語版もあまり見られていないということがあった。そこでやはり、もうちょっとフレキシブルに、例えば若いつくば市の職員に任せて、自由な、色々面白い情報発信の仕方をし、もっと色々な人が興味を持つようなものを発信できれば、人が見たりすることもできると思う。フェイスブックやツイッターの使い方、運用の仕方をもう少し考えれば、もっとアトラクティブになると思う。日本語版も英語版も、運用次第で本当に色々な人が毎日のように見られるようになると思う。お考えいただければと思う。

○事務局

市職員が、例えば SNS 等で情報発信をする際に、実は結構縛りというか、制約が多く、なかなか難しいところではあるが、確かに、特に若い職員が、普段思っているようなことや自分が面白いと思うようなことを共有できるようになると、同世代が多い外国人市民の方に対しては、とても魅力的な

情報になるかなと思うので、そこは全庁的な話になるかもしれないが、一旦、宿題とさせていただければと思う。

○ベントン委員

前の前の総合計画でも同じことを言われたのでよく分かっている。そのルールは筑波大学もそうであるが、やはりルールをもっと自由に、若い者を信じて、特に3、4年ぐらい働いている職員は多分、どういう情報を発信すればいいか分かると思うので、ある程度、任せてもいいかなあという方向に持っていった方がいいかなと私は思っている。

○シン委員

1点、意見を言わせていただきたいと思う。スローガンが決まり、文句を言うようで大変申し訳ないが、「知の集積」という言葉について、少し引っかけた。「知の集積」という言葉がつくば市らしいということは、私的にはすごくしっくりきたが、同時に、集積という言葉は、普段あまり使わない言葉でもあり、それがみんなに通用するかということ考えた時に、それはどうだろうということも考えた。今、少し調べていたところ、集積という言葉は、日本語を勉強している外国人がよく目指している、日本語能力試験などにもあまり入ってきていない言葉であった。また、知の集積自体がつくば市らしさを感じさせる言葉という理由や、知の集積＝研究とか、知の集積≡つくば市というのが、私としては、それに対してあまりしっくり来ない人も、中にもいるのではないかと思う。

知の集積という言葉自体がつくば市を意味しているということを、どれぐらいの外国人市民が、そうだね、と思うのかということ考えた。スローガンを見て、みんなが頑張ろうと思わないかもしれないが、せっかくグローバル化基本指針なので、外国人から見ても分かりやすく、納得しやすいスローガンだったらいいなと思ったので、知の集積という言葉をもう少し考えてもいいと思った。

○事務局

以前の会議の際も、シン委員の日本語のアンケートを追加したらいいと思うとの御意見を伺い、本当に目から鱗であったが、今回についても同様に目から鱗である。知の集積については、漠然とつくば市のイメージとして捉えてしまっているところがあったので、非常に貴重な御意見である。どのような言い換えがいいのか、例えば、指針の概要版は一定の言語数で多言語化し、外国人市民の皆さんにもお伝えしたいと思っているが、多言語化するからこそ、知の集積という日本人が分かる文言のままがいいのか、さらに噛み砕いた表現がいいのかという点について、宿題とさせていただき、検討させていただきたいと思う。

○皆川委員

アンケート調査や事務局の分析でも課題として挙がっていた、国際交流拠点の整備という点について、やはり情報発信もかなり不足しているということがあるので、もちろんSNS等や広報つくば等の媒体を使って発信していくのも重要であるが、リアルな場所での情報発信ということも非常に大切かなと思う。そういう意味で、今、つくばセンター地区のリニューアルが進んでいるが、国際交流拠点として、その場所をどの程度整備していく予定であるか、具体的にどういった機能を持たせるか、また、どういう使い方をしていく予定かといった点については、今は詰めている段階ということでよろしいか。内容でもし御紹介いただける部分があれば、お願いしたい。

○事務局

国際交流拠点の整備については、この後、第5章の方でも少し出てくるが、基本的には学びの場と交流の場というようなコンセプトで、つくばセンタービルのリニューアルで新たにできる市民活動拠点の中に、機能として組み込みたいということで調整している。具体的には、今、国際交流協会の

事務局がイノベーションプラザの中に入っているが、事務局には再度、新しい市民活動拠点の中に入れていただき、「国際交流拠点の運営」という表現が正しいかは分からないが、そこを担っていただくようなイメージでいる。また、日本語講座等の様々な学びの場として活用できるように、優先して使える講座室のような形で、新しい建物の中にスペースを確保するというので、今調整させていただいている状況である。

○皆川委員

祭りやイベントの情報がほしいという声も結構あるので、例えばチラシ類を単純に設置したり、日本人と外国人の方の交流の場ということもあるので、そういう交流ができるような工夫等を、具体的に盛り込んでいけるようにしていったらいいのかなと感じた。日本語教室も拡充していくということなので、拡充という意味では、あの拠点だけではなく、別の場所がさらに必要なのかといった点についても、この場で御意見をいただいてもよいと思う。この会議の中で、そういった交流の場とか、日本語教室の拡充という点についても、もし御意見をいただけるようであれば、議論を進めていければと思った。

○事務局

今、御提案いただいたようなイベントのチラシや我々が発行している広報紙、相談窓口、その他に、ゴミの案内や健康増進に関する情報がまとめられたライフプランすこやか等、色々な課の情報がかなり多言語化はされている中で、今はそれらをまとめて受け取れる場所がなかなかなく、各課の窓口を設置されていたりという状況である。それが国際交流拠点の整備によって一元化され、かなり利用しやすくなると思っている。

センタービルのリニューアル後、交流センターや市民活動センターと一緒になれば、日本人の方がさらに利用するスペースになると思う。そこに外国人市民の方も普通に入れて、当たり前のように一緒にいられるような、

そういうイベントなのかもしれないし、色々なフリースペースでの利用かもしれないが、そこから自然発生的に国際交流ができるような場となるよう仕掛けるのが、今の私たちの役目かなと思っている。そこに関して、国際交流協会とももちろん連携を図りながら、進めていきたいと考えている。

○布浦座長

私どもも国際交流協会と市の方で、色々な議論を交わしながらすり合わせて、より良い拠点づくりを目指したいと考えている。

○前田委員

説明と資料を拝見させていただき、私が知の集積を入れたらどうかということを行ったために、ちょっとあれだったかなあと反省しながら聞いていたが、私、1枚、作った資料があるので、簡単に説明させていただきたいと思う。

【前田委員作成の資料をもとに、前田委員が説明】

最初に、私がアンケートを見ながら考えていたことについてお話したい。私は今、この市民委員は別に、企業内での女性活躍推進の一環で、企業内でどうしたら女性活躍、インクルージョンを高めることができるかというところで、大学の先生と研究ボランティアを行っている。その中で、アンケートを約200人、我々の会社も含めて企業に取ってみると、要は仕事の中での話であるが、相互依存を高めると、インクルージョンが高まるということが分かってきた。

従って、今、基本方針の話をしていたのを聞いて私が思ったのは、ここに書いたとおり、多様な背景を持つ人々のつながりと知の集積を結びつけるのは、確かに少し無理やり感もあるかなと思った。お互いの特性を補完し合うことで、市民とともに未来を創るまち、というようなものと考えてはどうかと思い、こちらに絵を載せた。英語で言うと、インディペンデントではなくて、インターディペンデントという形になってしまうのかもしれ

ないが、相互依存ができる関係を持つというのが大事なのかなと思う。なぜこのように思ったかと言うと、アンケートの結果から、求めている情報、また、生活の困りごとということで、それぞれトップ5を並べてみたところ、求めている情報として、税金の話やビザの話、日本語の話、医療の話とある。一方で、地域活動や街づくりへの参画意向の問いに対して、地域まちづくりの参加で国際交流したいだとか、ごみ拾い・祭りに参加したいだとか、外国人を助けたいだとか、災害時の通訳ボランティアをしたいとかという方もおり、要するに、困っていることもあれば、やりたいという思いの方もいるということである。そうすると、それを上手く結びつけられれば、行政は、税金だとか医療だとか、行政が確実にサービスをしなればいけないことに集中できるのかなと思ったので、相互依存ということ考えた。

もう1点、外国人特有のニーズと日本人のニーズというところでも同様のことがあり、外国人市民意識調査において、日本語を勉強したいだとか、就労支援だとか、文化交流イベントとか技術や語学の地域貢献をしたいとのコメントがあった一方で、日本人の市民意識調査では、国際理解教育をしてほしいだとか、外国人と交流・協働したいだとか、市民の生活支援、外国人市民の生活支援をしたいと考えている方が結構いた。よって、これも同じように、日本人でやりたいと思っている方もいるし、外国人の中にもやりたい、もしくは助けてほしいとおっしゃっている方がいる。これもうまく結びつけられれば、行政はイスラム教の給食の問題とか、街灯の問題とか、非常にそういうインフラ的なところに関わってくるところに、もっと特化できるのではないかと思った。

では、市は何をやればいいのかという点に関しては、私は市があまり関与しないで、仕組みなり基盤なりを作り、その他は市民同士で作っていく、補完し合う形をとって、正確な情報の発信だとか、行政がしなければいけ

ないもの、例えば税金の話だったりビザの話だったり、医療の話だったり、災害の話だったり、そういうところはフェイクニュースになってしまうと大変なことになってしまうので、そういった正確な情報を伝えなければいけないものは、もちろん市がやらなければならない。しかしながら、それ以外のところは、もっと市民同士でやるようにした方がいいのではないかなと思う。

せっかく広報紙なりを作っても、見ている人はほとんどいないという残念な結果にもなっているので、そこはある意味、割り切ってしまうのもいいのかなと思った。それだけやるのは無駄ですと書いている方や、つくば市は税金が高くて困りますと書いている方も多数見受けられたので、その点からも、要は、もう少し無駄遣いをなくすところと、お金をたくさんつぎ込むところと分けて、市民と市も相互依存を深めるようにしたほうがいいのかなと思った。

○事務局

前田委員、差し支えなければ、事務局へ本資料をメールでお送りいただき、委員の皆様にも是非共有をさせていただきたいと思う。

今、御提案いただいたのは本当に理想的だと思った。人もお金も限られているので、資源を投下すべきところには投下して、できるところは相互にということでは本当にそうあるべきであり、理想的だと思っている。今、この指針にそれをどれだけ、どういう形で反映できるかについては、すぐにコメントはできないが、いただいた提案を宿題として事務局でも検討させていただきたいと思う。また、先ほど平良委員からも御提案があったが、委員の皆様にも御意見をいただくような形で投げかけさせていただければと思うので、引き続き、御提案いただければと思う。

○布浦座長

私は、アンケートの分析に加えて、個人的に書かれた筆記のところを全部

読ませていただいた。膨大な時間がかかったが、その中で、やはり今、前田さんがおっしゃったように、知らない、知らない、という声が多くあった。市の方でも協会の方でも、情報を発信しているが、それをキャッチする体制が整っていないのかなと思う。

外国で生活するという事は、自国を出た途端に別の国に住むわけであり、自助努力というものはやはり必要かなと思う。これだけ SNS も発達しているので、今後、創意工夫をしていかなければならない部分はたくさんあると思う。

○事務局

【資料に基づき、第5章を説明】

以下、事務局からの報告に対する質疑、意見

○ベントン委員

47 ページで、ハラール料理などの促進という話であったが、市役所は実際にハラール料理のできるシェフたちをご存知なのか。おつき合いはあるのか。

○事務局

現実には、直接、市で把握しているハラール対応のレストランは本当に限られており、たまにお問い合わせいただく際には、筑波大の学食を御紹介させていただいているような状態である。

○ベントン委員

それをお伝えしたかった。筑波大にはハラール対応の学食が2つあるが、筑波大の学食の中でも一番人気である。そのシェフを御紹介しようと思った。

○布浦座長

JICAさんの方で、エスニック料理を出していることは存じ上げている

が、宗教食について、何か対応されている社員食堂等はあるか。

○渡邊委員

JICA 筑波でもエスニック料理を出しており、当然、その中にハラールの料理もある。JICA 筑波は中心地から少し離れたところにあるため、農林団地や理研の研究者の方、あるいは、この近郊の企業で働いているイスラム教徒の方などがいらっしゃることが多い。今は事情があり、レストランを一般に開放はしていないが、今後、開放できるようになった際にはぜひお越しいただければと思う。

○布浦座長

現在、給食等でハラールやコシャミール等の宗教食の対応はしているのか。

○事務局

現状では、給食でのハラール対応等は恐らく行えておらず、基本的には宗教上の制限がある方は、アレルギー対応と同じような形でお弁当を持参していただく形になっていると思う。

茂在委員、もしフォローがあればお願いできればありがたい。

○茂在委員

今、御説明のあったとおり、アレルギー対応の給食の配膳はできているが、宗教食の提供はまだできていない状況である。宗教食に対応したお弁当を持ってくるお子さんもいるので、お子さんに応じて対応しているところである。

○唐委員

49 ページの施策 1 の世界へ向けた PR コンテンツの充実について、私たちつくば日中協会では、すでにつくばにある様々な人材、特にシルバー人材を中国へ紹介するという発信を行っている。グローバル化は外国人のためだけではなく、日本人市民へのグローバル化の貢献も取り入れたほうがよいのではないかと思う。

○事務局

確かに日本人市民のグローバル化というところを全然入れられていないと思っているので、具体的にどんな形で入れられるのか、今、パッと思いつかないため、メール等でも構わないので、御提案いただけると大変ありがたい。確かにその視点が欠けていたなと思っている。

○唐委員

個別に御提案させていただきたい。

○吉田委員

第5章の45ページの基本施策(3)の国際交流拠点の整備と学びの場の拡充のところ質問だが、つくば市の交通事情や地理的なことを考えると、中心部だけでなく、それぞれの場所でそういった場が拡充されていることも大切ではないかと思う。例えば子供のことをやる場合に、子供たちに中心部まで出てきなさいというのは大変であるし、親への負担も大きいので、それぞれの場で学びの場が保障されていくのがいいかなと思う。そういうことについては、特にまだ何もないと捉えてよいのか。拠点の拡充ということで、中心部だけではなく、つくば市内のあちこちでそういう場所を拡充していくことが大切ではないかと思うが。

○事務局

つくば市はかなり市域が広く、市全体でこういった取組が必要というのは、おっしゃるとおりだと思う。今、国際交流協会に、皆さんの事務局としてイノベーションプラザに入っているが、とても国際交流拠点と言えるような状況ではなく、大変申し訳なく思っているところである。

今回、ここに書いてある国際交流拠点の整備や、現時点で取り組んでいるのは、センタービルを中心とした国際交流拠点の整備である。周辺部というところまではまだ話も進んでいないような状況であり、将来的に拠点が整備できるかどうかは、今、私のレベルで言えることではないが、何らか

の形で、市の色々なところで学びの場ができるようになっていくべきだと考えている。

○布浦座長

拠点を拡充していくというのは本当に大変なことではあるが、大変必要なことだと思っている。国際交流協会で、今のところ中心部で、テストケースとして、放課後に生徒たち向けに日本語講座を開講している。

以前から、風の会さんを中心に吾妻や竹園などの中心部の人たちへの手当は行っているが、今度、市の方とお話させていただきたいと思うが、放課後、授業が終わってから中心部まで来るとするのは、親御さんの送迎も必要な子もいるかもしれないし、バスが走っていないところもあるかもしれない。このことについて、私も大分考えてきたが、学校終了後に中心部に来るということであるので、できれば、児童生徒が各学校の正門にいて、バスを出していただいて、各学校に迎えに行くことが出来ればよいと思う。お金がかかることではあるが、せっかく立ち上げた事業であるので、今やっている人数プラス、困っている人たちを救うためには、交通の問題を解消することが一番大きいかなと思っている。

本日も、活発な有意義な御意見をたくさん頂戴した。これを元にして、次の会議につなげていきたいと思う。

5 閉会（午後 3 時 30 分終了）

以 上

第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会(第3回)

議事次第

日時:令和4年(2022年)2月1日(火)
午後1時30分から
場所:オンライン(Zoom)

- 1 開会
- 2 議事
- 3 その他
- 4 閉会

【配布資料】


- ・第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会委員名簿
- ・資料1 第2次つくば市グローバル化基本指針案
- ・資料2 2021年度つくば市外国人市民意識調査結果

第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会委員名簿

(敬称略、五十音順)

No.	役 職	氏 名	ふりがな
1	筑波学院大学 教授	浅見 道明	あざみ みちあき
2	つくば市 副市長	飯野 哲雄	いいの てつお
3	市民委員	井上 里鶴	いのうえ りず
4	関彰商事株式会社 総合企画部 部長	上村 祐一	うえむら ゆういち
5	つくばインターナショナルスクール 校長	クロフォード シェイニー	くろふおーど しえいにー
6	TIVONAの会 代表 一般財団法人つくば市国際交流協会 理事 (茨城女子短期大学 教授)	小林 和子	こばやし かずこ
7	市民委員	シン イナ	しん いな
8	市民委員	平良 侑希	たいら ゆうき
9	特定非営利活動法人つくば日中協会 理事長	唐 莉莉	たん りり
10	筑波研究学園都市交流協議会 副会長 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 理事)	中島 隆	なかじま たかし
11	一般財団法人つくば市国際交流協会 理事長	布浦 万代	ふうら まよ
12	筑波大学 副学長・理事	ベントン キャロライン	べんとん きゃろらい ん
13	一般社団法人つくば観光コンベンション協会 事務局 局長	星野 弘	ほしの ひろし
14	市民委員	前田 崇行	まえだ たかゆき
15	つくば市議会 副議長	皆川 幸枝	みながわ ゆきえ
16	つくば市立吾妻中学校 校長	茂在 哲司	もざい てつじ
17	風の会 代表 一般財団法人つくば市国際交流協会 理事	吉田 麻子	よしだ あさこ
18	独立行政法人国際協力機構 筑波センター 所長	渡邊 健	わたなべ たけし

第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会
第3回会議 資料I



第2次 つくば市 グローバル化 基本指針(案)

令和5年(2023年)●月

〔対象期間〕

令和●年度(202●年度)から
令和●年度(202●年度)まで

(市長挨拶)

(目次)

第1章 指針の策定にあたって

- 1 策定の背景と目的
- 2 指針の位置づけ
- 3 指針の推進期間

第2章 社会情勢等

- 1 在留外国人の動向
- 2 国の動向
- 3 県の動向

第3章 つくば市の現状と課題

- 1 つくば市の外国人市民の状況
 - (1) 総人口に占める外国人市民の割合と人口の推移
 - (2) 国籍・地域別外国人数と推移
 - (3) 年齢別外国人数
 - (4) 在留資格別の外国人数と推移
 - (5) 居住エリア別外国人数
 - (6) 外国につながる児童・生徒数の推移
- 2 つくば市グローバル化基本指針に基づく主な取組
- 3 つくば市外国人市民意識調査結果
 - (1) 調査の概要
 - (2) 主な結果
- 4 つくば市市民意識調査結果
 - (1) 調査の概要
 - (2) つくば市の国際化に係る部分の主な結果
- 5 つくば市の課題

第4章 第2次つくば市グローバル化基本指針の方向性

- 1 スローガン
- 2 目指すまちの姿
- 3 目標指標
- 4 施策の体系
- 5 推進体制

第5章 3つの「目指すまちの姿」の実現に向けた基本施策と主な取組

- 1 日本人と外国人がともに快適で、安全安心に暮らせるまち
- 2 市民がつながり、ともに活躍できるまち
- 3 国内外との多様な連携や国際社会へ向けた情報発信によって、世界とつながるまち

資料編

- 1 第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会設置要項
- 2 第2次つくば市グローバル化基本指針懇話会委員名簿
- 3 用語集
- 4 つくば市外国人市民意識調査結果

第1章 指針の策定にあたって

1 策定の背景と目的

つくば市では、グローバル化推進に関する指針として、平成 27 年(2015 年)に「つくば市グローバル化基本指針」を策定し、3つの基本施策の柱のもと、グローバル化に資する施策を推進してきました。

この間、国では、平成 29 年(2017 年)の技能実習制度の見直し(実習期間の延長や対象職種の拡大)、平成 30 年 12 月の「外国人の受入れ・共生のための総合的対応策(関係閣僚会議決定)」の策定、また、令和元年4月の在留資格「特定技能」の創設など、外国人の受入れを拡大しつつ、共生社会の実現を推進する動きを加速化させています。そのような中、新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、国内外を巡る情勢が一変しました。さらに、新型コロナウイルス感染症の収束後も、その影響は長期化することが予想されています。

一方、つくば市では、令和 3 年(2021 年) 12 月 1 日現在、市の総人口の約4%に当たる 9,837 人、世界 134 の国籍・地域の外国人市民が居住しており、平成 27 年(2015 年)に比べて、約〇%増加するなど、年々増加傾向にあります。また、近年、従来の研究者や留学生に加え、多様な目的でつくばに居住する外国人市民も増加しており、必要とされる生活支援策も多様化しています。

つくば市では、SDGs をはじめとする取組及び当市の魅力の国内外への発信、海外都市や世界各地の研究機関や大学等との連携・交流、外国人材の受入支援など、世界に目を向けた施策を広範に展開しています。

今後、国際化の進展が一層見込まれる中で、当市が持続可能な発展を続けるため、外国人市民にとっても、地域社会で共に暮らす日本人市民にとっても、安心して暮らせるまちづくりを推進するとともに、「国際都市つくば」として、分野を越えた国際化施策を推進していくことが望まれています。また、新たな視点として、少子高齢化が進む中で、外国人市民の持つ多様な能力を資源としてまちづくりに生かし、日本人市民と対話を重ねながら、共に地域を盛り上げる仕組みづくりが重要だと考えます。


以上の点を踏まえ、変化し続けるつくば市の状況及び国際動向に対応するとともに、新たな視点を加えたグローバル化施策を市全体で一体的に推進していくため、「第2

次つくば市グローバル化基本指針」を策定しました。

2 指針の位置付け

本指針は、つくば市の最上位計画である「つくば市未来構想・第2期戦略プラン（2020年3月）」をはじめ、市の関連計画、国のプランや県の総合計画との整合性を図りながら、つくば市の国際化施策の方向性を示す指針として位置付けます。

なお、つくば市未来構想の大きな目標でもある「持続可能都市」の実現へ向けて、本指針においても、「誰一人取り残さない」という「持続可能な開発目標（SDGs）」の基本的理念を踏まえて策定しています。



相関図挿入

※SDGs:2015年9月の国連サミットにおいて採択された、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」という持続的で多様性と包摂的のある社会の実現を目指した、2030年を年限とする国際目標（17の目標と169のターゲット）。

3 指針の推進期間

本指針の推進期間は、令和〇年（202〇年）度から令和〇年（202〇年）度の5年間とします。なお、社会情勢の変化等を踏まえて、必要に応じて指針の見直しを行います。

第2章 社会情勢等

1 在留外国人の動向

日本に在留する外国人は令和元年度末時点で293万人、日本で就労する外国人も、令和元年10月末時点で166万人と、それぞれ過去最多を記録しています。加えて、平成31年(2019年)4月から、在留資格「特定技能」の創設を受けて、特定技能外国人の受入れが始まり、外国人住民の更なる増加及び定住化の進展が予想されていました。そのような中、新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大した影響を受け、令和2年は新たに入国する外国人が減少しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が収束し、国際的な人の往来の制約がなくなった後は、来日する外国人が再び増加することが見込まれています。

2 国の動向

国においては、「特定技能」の在留資格創設を踏まえ、外国人材の受入れ・共生のための取組を推進していく観点から、平成30年(2018年)12月に、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策(関係閣僚会議決定)」を取りまとめました。

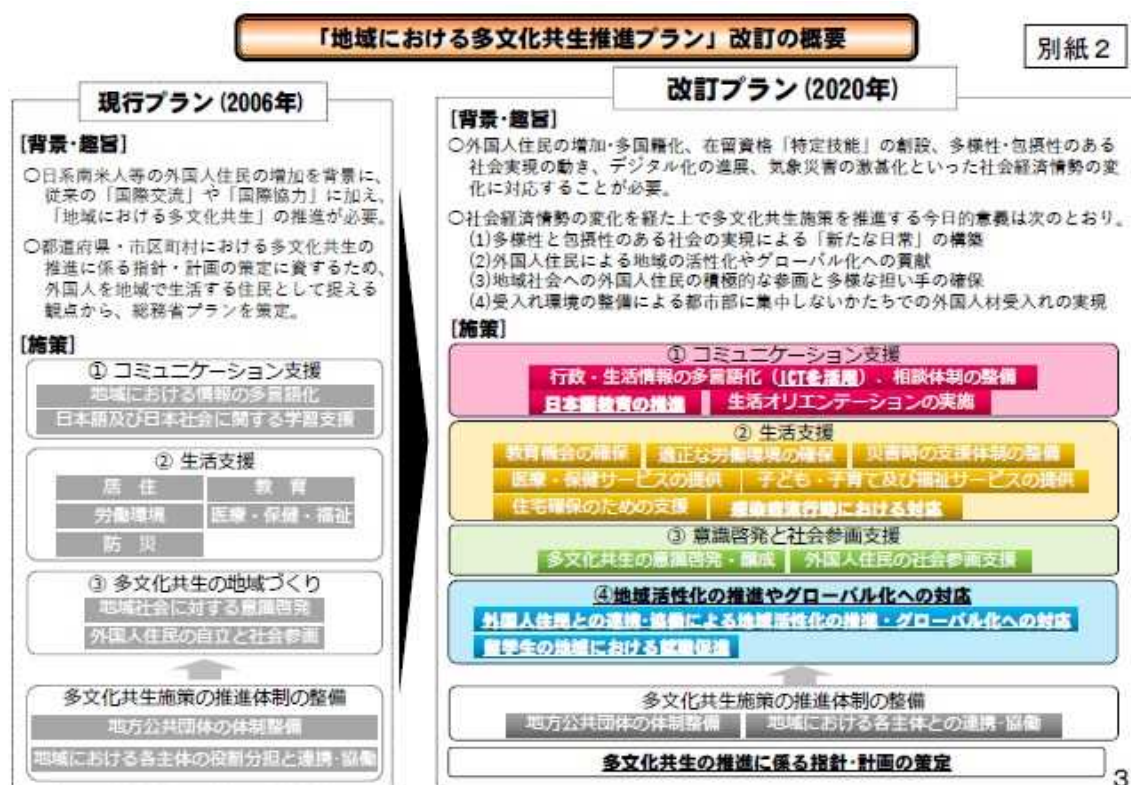
- ①外国人との共生社会の実現に向けた意見聴取・啓発活動等
- ②外国人材の円滑かつ適正な受入れの促進に向けた取組
- ③生活者としての外国人に対する支援
- ④新たな在留管理体制の構築等の施策

を実施することとし、順次改訂・拡充を図るなど、外国人の受入れと共生社会づくりに取り組んでいます。

また、総務省においても外国人住民の増加・多国籍化、在留資格「特定技能」の創設、多様性・包摂性のある社会実現の動き、デジタル化の進展、気象災害の激甚化といった社会経済情勢の変化等に対応するため、令和2年(2020年)9月、「地域における多文化共生推進プラン」の改訂を行いました。これは、「地方公共団体における多文化共生の推進に係る指針・計画」の策定に資するために平成18年(2006年)3月に策定されたもので、14年ぶりの改訂となります。社会経済情勢の変化を経た上で多文化共生施策を推進する今日的意義として、

- ①多様性と包摂性のある社会の実現による「新たな日常」の構築

- ②外国人住民による地域の活性化やグローバル化への貢献
 - ③地域社会への外国人住民の積極的な参画と多様な担い手の確保
 - ④受入れ環境の整備による都市部に集中しないかたちでの外国人材受入れの実現
- の4点を挙げており、今後、地方公共団体においては今回改訂したプランを参照しながら、地域の実情を踏まえた「多文化共生推進に係る指針・計画」の見直し等を行い、多文化共生施策の推進を促進するとしています。



出展:令和2年9月10日付総務省自治局国際室報道資料

3 県の動向

茨城県は2016(平成28)年度～2020(平成32)年度までの5年間を計画期間として、県のグローバル化にとって重要な事項を包括的にカバーする「いばらきグローバル化推進計画」を策定しました。グローバル化推進計画に入れるべき方針・施策等は茨城県総合計画に反映させていることから、2020年度末の計画期間終了後は改訂せず、現在は総合計画の下でグローバル化を推進しています。

茨城県総合計画は、時代の変化に的確に対応し、未来に希望を持つことができる「新しい茨城」づくりを県民とともに推進していくため、平成30年度からの県政運営の指針となる計画として策定されました。茨城県総合計画は「Ⅰ 新しい豊かさ」「Ⅱ 新しい安心安全」「Ⅲ 新しい人財育成」「Ⅳ 新しい夢・希望」の4つのチャレンジを柱としており、外国人材の活用推進や災害時の外国人対応体制づくり、国際理解教育の推進、外国人観光客誘客促進のためのプロモーション展開等、すべてのチャレンジにおいて、国際化に関する取組が掲げられています。

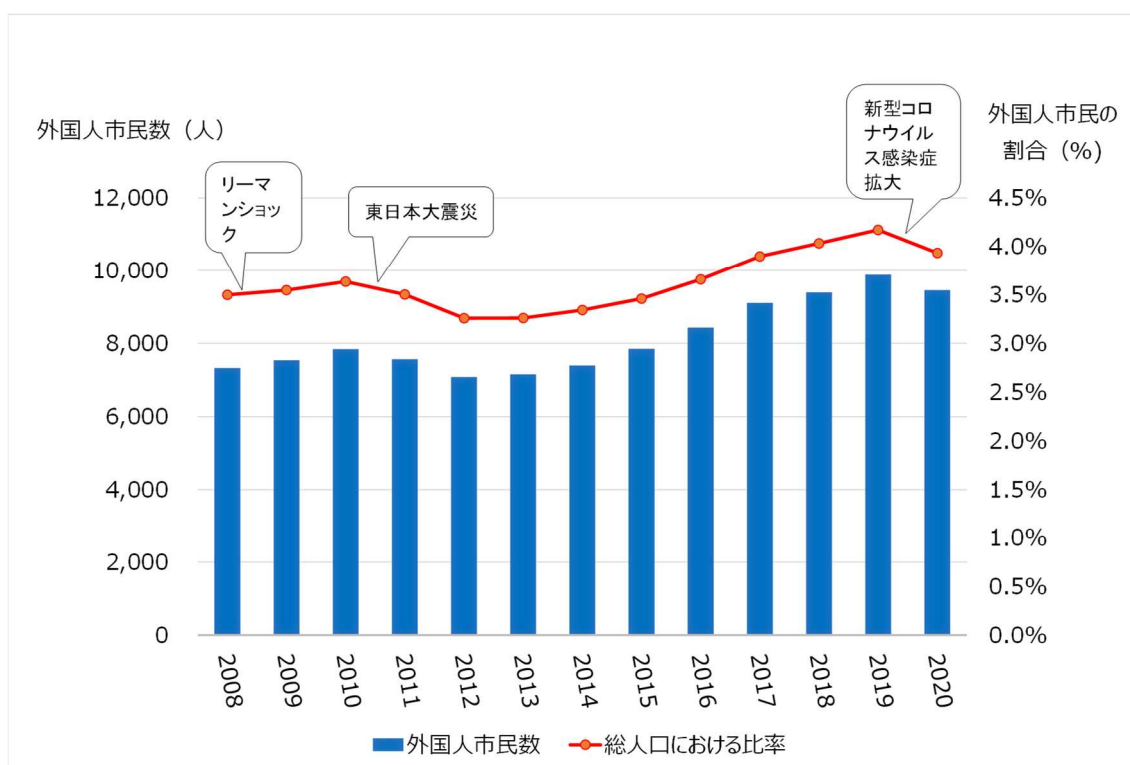
第3章 つくば市の現状と課題

1 つくば市の外国人市民の状況

(1) 総人口に占める外国人市民の割合と人口の推移

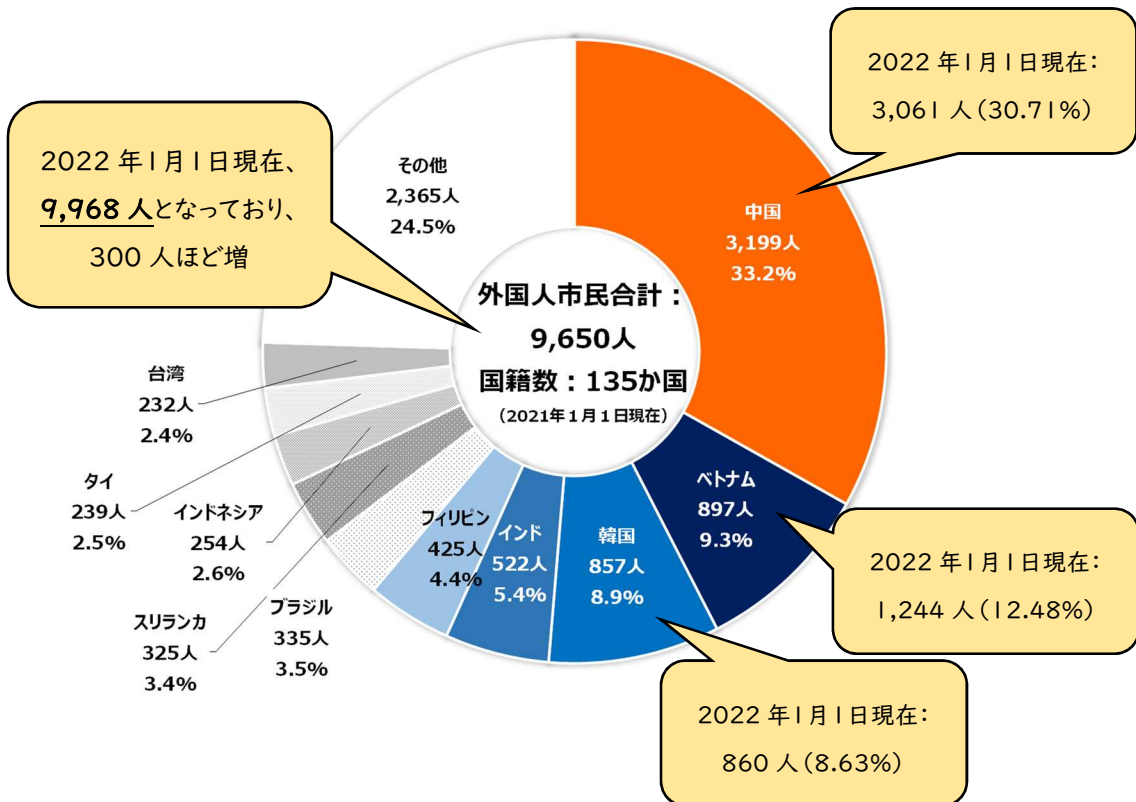
令和3年(2021年)1月1日現在、つくば市の外国人市民は9,650人、国籍・地域数は135か国となっています。つくば市の総人口は241,813人であり、総人口に占める外国人市民の割合は約4.0%です。全国平均が2.33%(2019年12月1日現在)、茨城県全体でも2.5%(2020年6月1日現在)であることから、つくば市は全国的に見ても外国人市民の割合が高い都市であるといえます。

また、外国人人口の推移を見てみると、東日本大震災を機に減少傾向となっていた外国人市民数は2013年から徐々に増加傾向に転じ、第1次つくば市グローバル化基本指針を策定した平成28年(2015年)の外国人市民数は約8,000人となっています。その後も増加傾向は続き、2020年2月には過去最高の10,136人となりましたが、2020年に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により、現在は再び減少しています。ただし、この傾向は一時的なものであり、国と同様に新型コロナウイルス感染症の収束後は、外国人市民数が再び増加に転じるものと考えています。



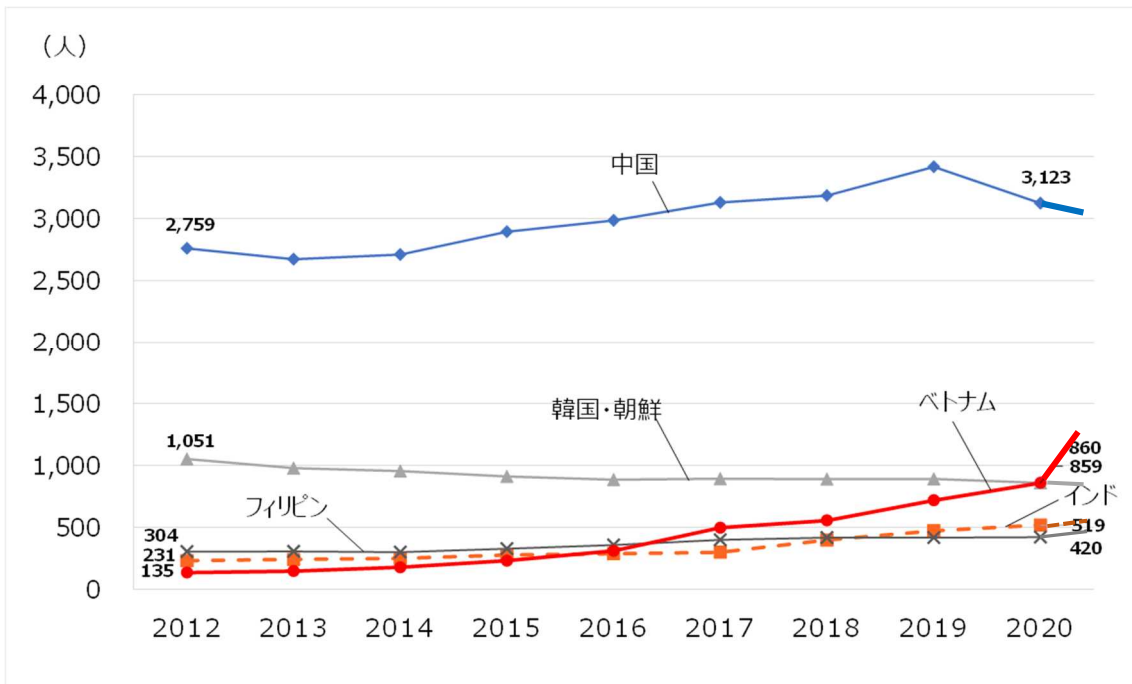
(2) 国籍・地域別外国人数と推移

国籍・地域別の外国人数を見ると、2021年1月1日現在、中国が約33%と最も多く、次いでベトナム、韓国が続いています。市民数の多い上位10か国のうち、ブラジルを除いた9か国がアジア圏の国・地域であり、全体の7割を占めています。一方で、全体では135の国籍・地域の外国人市民が居住しており、非常に多国籍です。約24万人の人口規模の都市に約140もの国籍・地域の方が居住しており、つくば市は日本有数の**多様な都市**であるといえます。



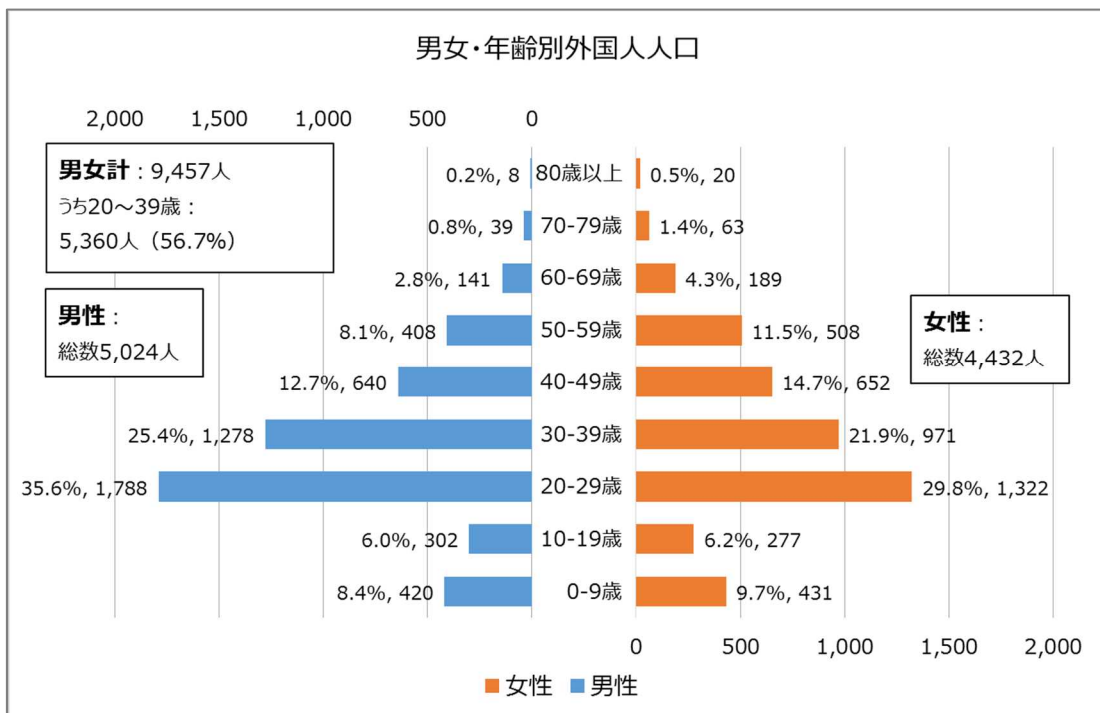
また、国籍・地域別に人口の推移を見ると、ベトナムとインドの増加傾向が顕著です。これは2017年の「技能実習法」の改正・施行による技能実習制度の適正化・拡充や2019年の「出入国管理及び難民認定法」施行による在留資格「特定技能1号・2号」創設といった国の外国人材受入政策によるものと考えられます。

2012年と比較すると、2020年にはベトナムは約6.4倍、インドは約2.3倍に増えており、今後もこの傾向は続くものと思われます。



(3) 年齢別外国人数

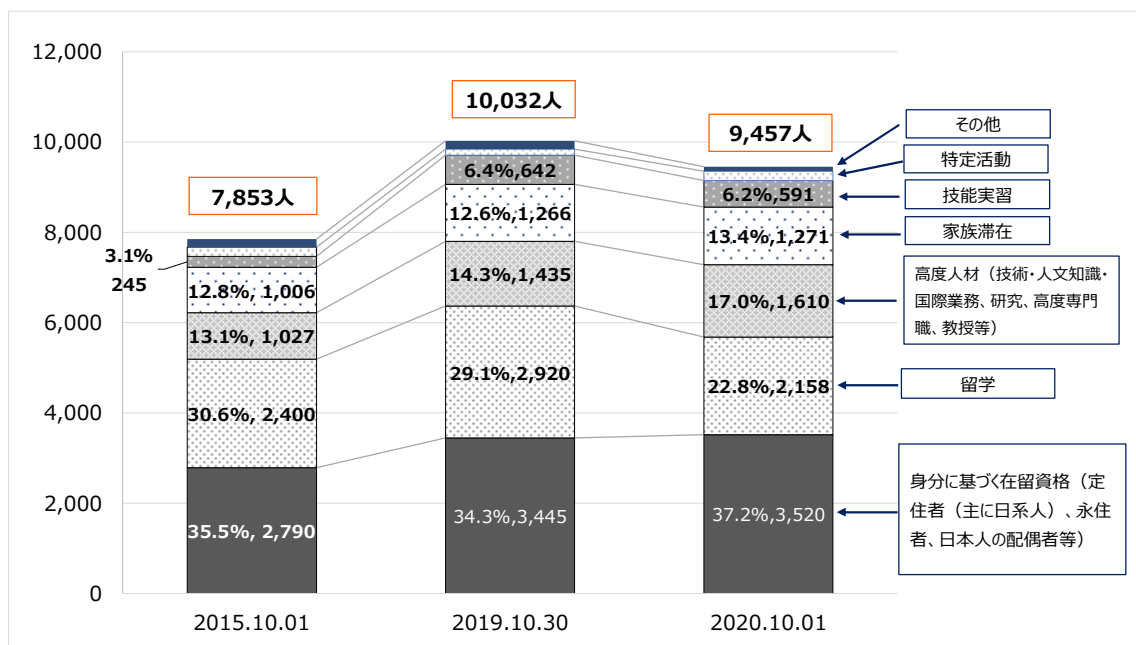
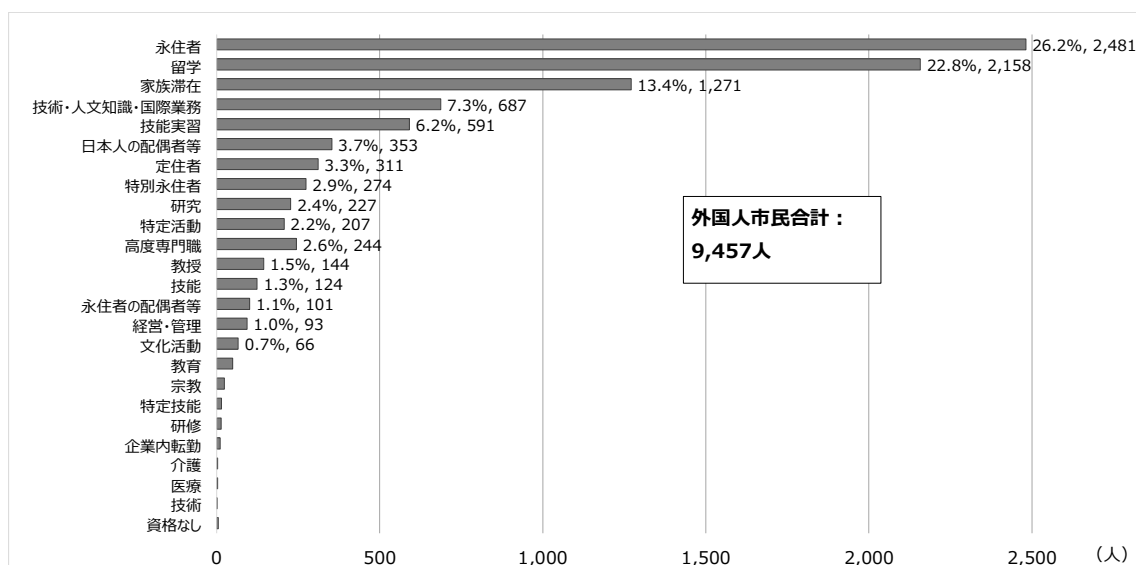
年齢別にみると、外国人市民は男女ともに20～29歳の20歳代が最も多く、20～39歳人口は全体の56.7%と半数を超えています。65歳以上の高齢者人口では、日本人が約20%なのに対し、外国人市民は2.5%です。また、15～64歳の生産年齢人口では、外国人市民は85.4%なのに対し、日本人は64.1%となっており、年齢別の人口構成は日本人と大きく異なっていると言えます。



(4) 在留資格別の人数と推移

在留資格別にみると、最も多いのは「永住者」で、「日本人の配偶者」や「定住者」などを合わせると、約3割となります。また、「留学生」が22.8%で2位となっていますが、「留学生」「技術・人文知識・国際業務」「高度専門職」などを合わせると約40%となり、**高度人材が多いことも**つくば市の特徴の一つです。

一方、技能実習は5番目に多くなっています。割合は約6%と多くはないものの、その割合は4年間で2倍に増えており、今後はさらに増加することが想定されます。



(5) 居住エリア別外国人数

つくば市は茨城県の南西部に位置し、面積は 283.72 平方キロメートルで県内4番目の広さとなっています。地区別(旧町村別)の内訳をみると谷田部地区に約 45%、桜地区に約 39%となっており、この2つ地区に外国人市民が集中していることが分かります。

外国人住民数(概要)-上位 10ヶ国-

(2021年12月1日現在)

国籍・地域	地区(旧町村)別内訳						計	国籍別割合
	谷田部	桜	大穂	豊里	筑波	荃崎		
中国	1,138	1,708	84	40	32	82	3,084	31.4%
ベトナム	604	250	76	144	46	53	1,173	11.9%
韓国	443	332	32	22	6	29	864	8.8%
インド	313	185	18	4	11		531	5.4%
フィリピン	208	110	14	34	15	59	440	4.5%
ブラジル	246	38	11	14	11	50	370	3.8%
スリランカ	144	81	32	36	5	15	313	3.2%
インドネシア	101	101	15	24	9	19	269	2.7%
タイ	88	56	30	16	18	28	236	2.4%
台湾	108	78	25	2	4	10	227	2.3%
その他	1,070	885	141	60	82	92	2,330	23.7%
計	4,463	3,824	478	396	239	437	9,837	-
地区別割合	45.4%	38.9%	4.9%	4.0%	2.4%	4.4%	-	-
	※国籍・地域の分類は、法務省の在留外国人統計の分類に基づく。							134ヶ国

(6) 外国につながる児童・生徒数の推移

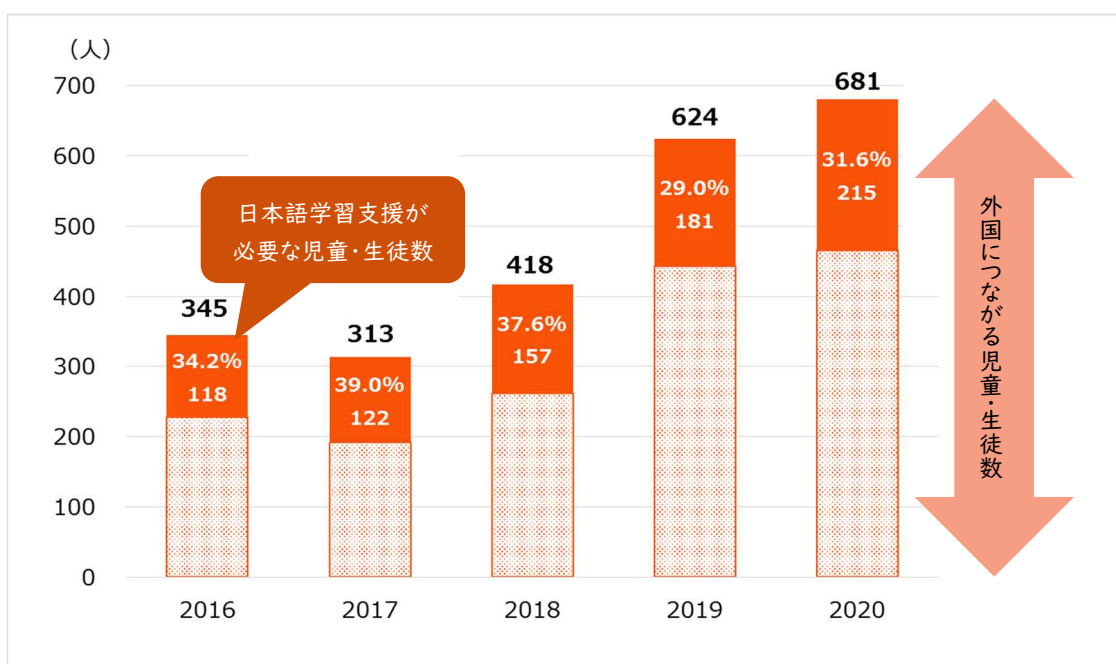
2020年5月1日現在、つくば市の公立小中学校(義務教育学校含む)には外国につながる児童・生徒が約700人在籍しています。「外国につながる児童・生徒」とは、海外に自分自身のルーツがあり、多様な言語、文化、価値観、慣習などの中で育ってきた子どものことで、「外国にルーツを持つ子ども」とも言われます。具体的には、

- ①外国籍の子ども:外国人の両親から生まれた子ども、日系人、特別永住者など
- ②日本国籍・二重国籍の子ども:両親のどちらかが外国人の子ども、外国育ちで日本国籍の子ども(帰国子女)など
- ③無国籍の子ども:難民2世など

が挙げられ、つくば市の公立小学校では8割近く、公立中学校では9割近くの学校に外国につながる児童・生徒が在籍しています。外国につながる児童・生徒数の推移をみると、生徒数は増加傾向にあり、5年間で約2倍となっています。また、そのうち日本語指導が必要な児童・生徒数も同様に増加傾向にあり、5年間で約1.8倍増となっています。

公立小中学校の状況(令和〇年〇月〇日現在)

	全在籍数	うち、外国につながる児童・生徒数	
公立小学校(義務教育学校含む)	15,110人	543人	3.6%
公立中学校(義務教育学校含む)	6,150人	138人	2.2%
計	21,260人	681人	3.2%



2 つくば市グローバル化基本指針に基づく主な取組

つくば市ではこれまで、2016年度に策定した「つくば市グローバル化基本指針」に基づき、「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」の基本理念の下、以下のとおり様々な施策に取り組んできました。

特に、法務省の外国人受入環境整備交付金を活用し、13言語での対応を可能とした「つくば市外国人相談窓口」の設置や8言語での外国語広報紙発行、外国につながる子どもたちの日本語学習・就学支援等、外国人市民の生活支援を積極的に行ってきたほか、市内小中学校での国際理解講座の開催や市民が参加可能な国際交流イベントの開催等を通じて多文化共生社会の実現に取り組んできました。また、この間、姉妹都市等の研究機関や大学、企業との交流の促進やG20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合の開催等により、世界とつながるネットワークづくりや世界に向けたつくばの魅力発信にも取り組んでいます。

基本理念:「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」

基本施策	個別施策	主な取組み
1 多文化共生社会が実現するまち	(1)外国人を対象とした相互理解の形成	①外国人への生活支援の充実
		②日本語学習機会の充実
		③公立学校におけるグローバル化
		④都市施設等のグローバル化対応の推進
		⑤国際交流イベントの推進
		⑥関係機関、市民団体等との連携の強化
	(2)市民を対象とした国際社会への適応能力の育成	①市民における多文化共生社会への意識啓発
		②地域コミュニティの活性化
		③学校における国際教育の充実
		④市民における国際感覚の涵養
		⑤姉妹都市をいかした市民交流の促進
		⑥行政のグローバル化対応
2 国際連携により、世界に羽ばたき、つながるまち	(1)世界とつながるネットワーク化の促進と人材育成	①世界とつながるネットワークづくり ②グローバルな教育環境による世界に羽ばたく人材の育成
	(2)世界をフィールドとする経済活性化の推進	①グローバルMICEの誘致推進
		②企業の海外進出支援
	3 グローバルな魅力の発信により、人や投資が集うまち	(1)つくばならではのグローバルな魅力の発信
②世界に向けたPRの推進		
(2)人や投資を呼び込みつくばの発展につなげる		①グローバル化教育の充実を世界に発信する
		②各種イベントをいかし人や投資を呼び込む
		③インバウンドに対応した環境の整備

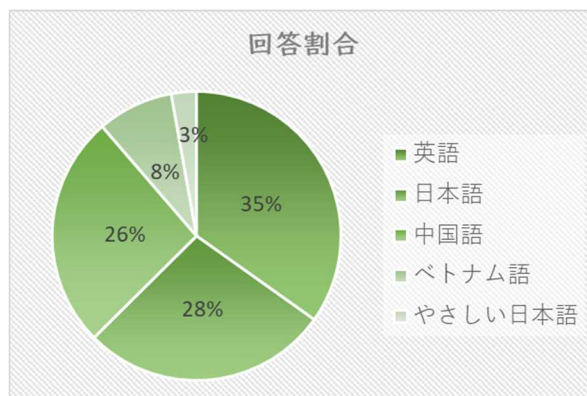
3 つくば市外国人市民意識調査結果

(1) 調査の概要

本指針策定の基礎資料とするため、令和3年7月、18歳以上の全外国人市民を対象に「つくば市外国人市民意識調査」(以下、外国人市民意識調査)を実施しました。

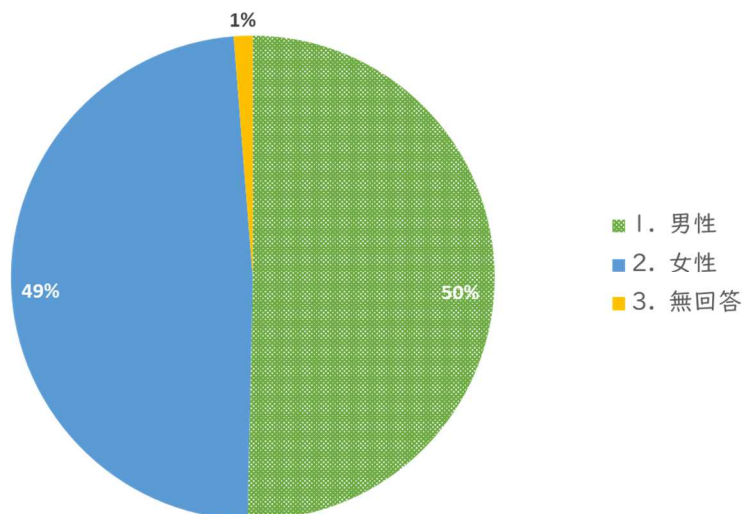
対象	令和3年5月1日現在、つくば市に住民登録のあった18歳以上の全外国人市民8,432人
実施方法	Web アンケート
実施言語	日本語・やさしい日本語・英語・中国語・ベトナム語
実施期間	令和3年6月23日～7月9日(17日間)
有効回答数	2,455件(回答率29.1%)

回答言語	回答数
英語	855
日本語	681
中国語	641
ベトナム語	209
やさしい日本語	69

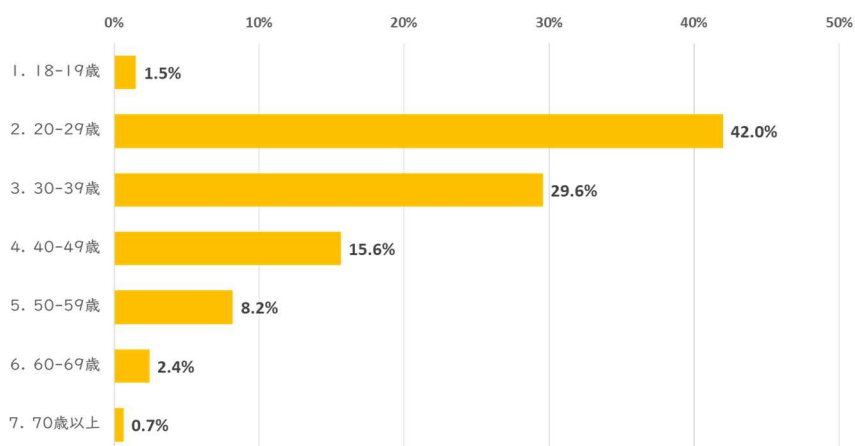


(2) 主な結果

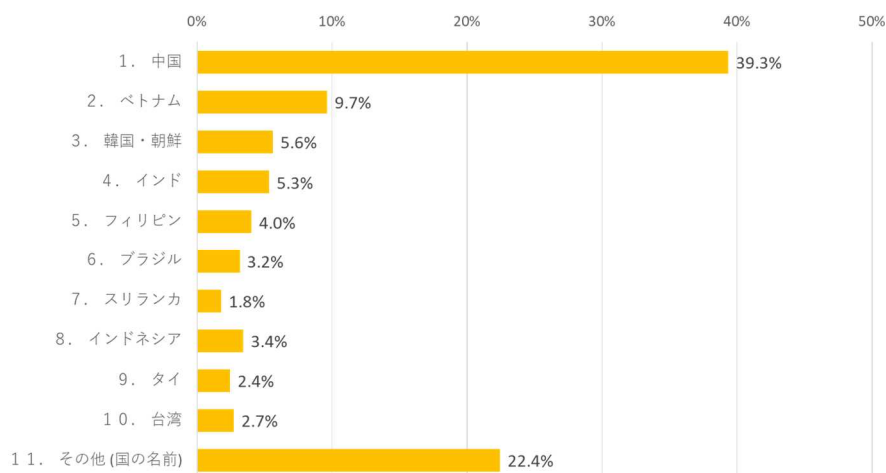
【性別】



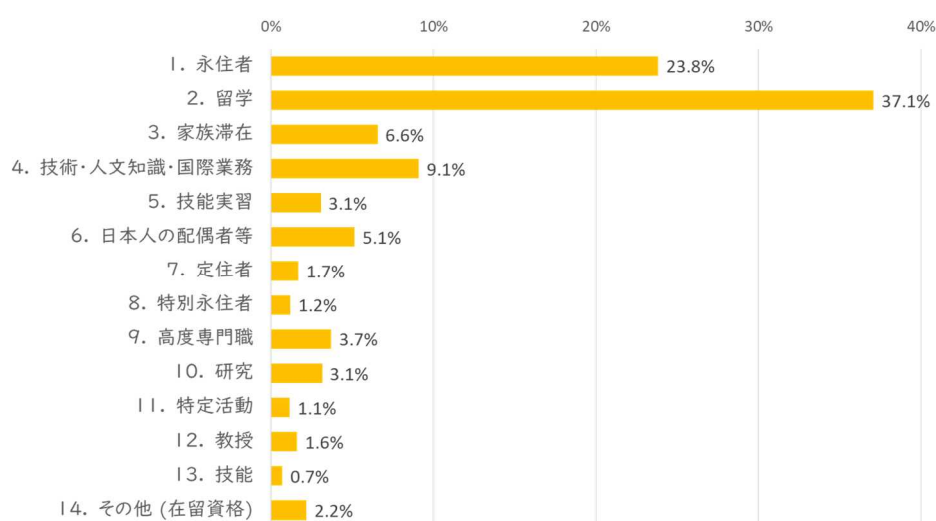
【年齢】



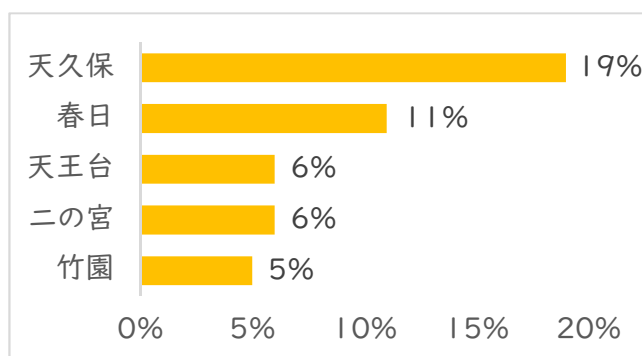
【国籍・地域】



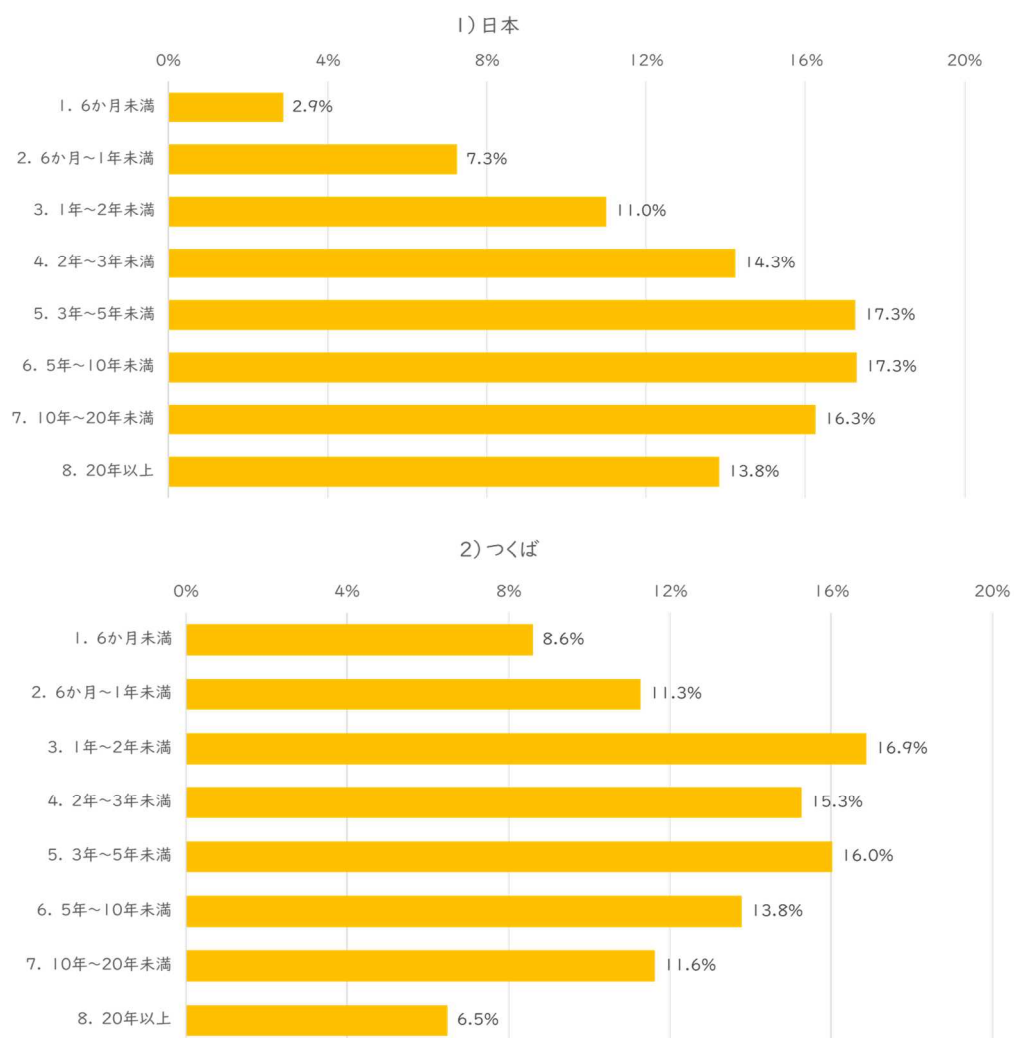
【在留資格】



【居住地域】

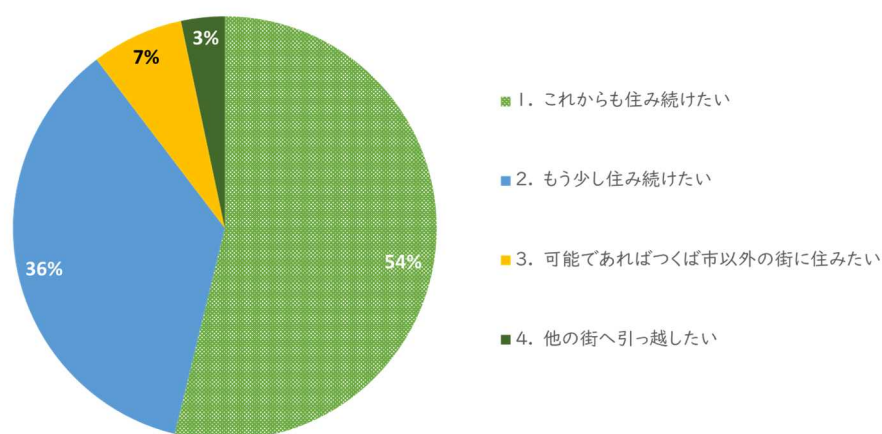
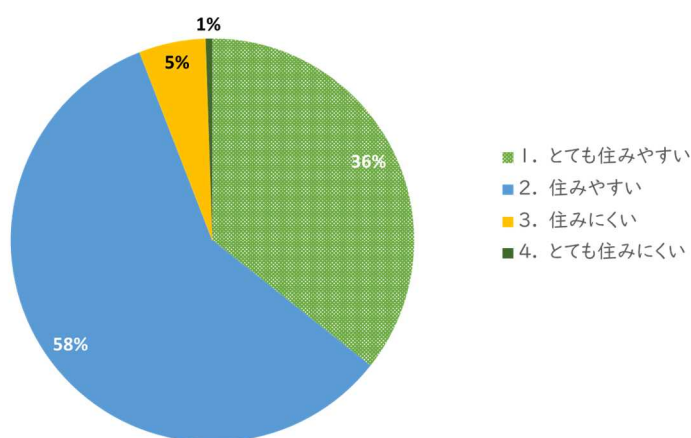


【居住期間】



回答者の在留資格が「留学」が多いことから、年齢や居住地域、日本やつくばでの居住期間にはある程度偏りが出ています。

【つくば市の居住満足度と居住意向】



「住みやすい」と感じる理由上位5位（複数回答可）

自然・公園が多い	13.6%
東京への交通アクセスがよい	10.0%
治安がよい	9.7%
街並みや街の雰囲気がよい	7.0%
買い物をできる店が多い、近い	6.7%
教育環境が充実している	6.7%

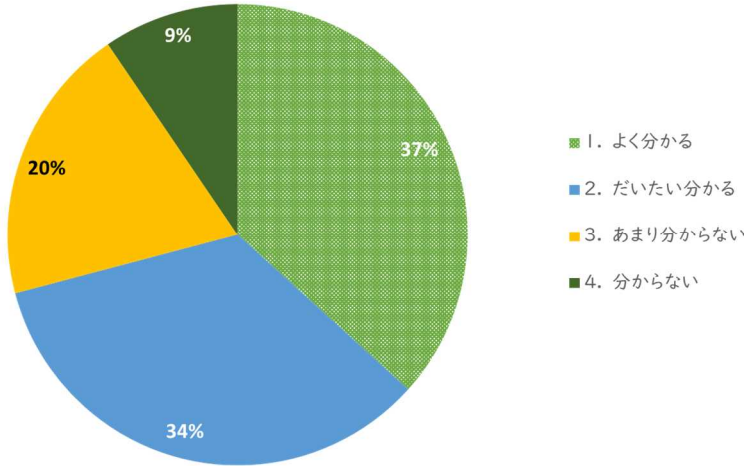
「住みにくい」と感じる理由上位5位（複数回答可）

買い物をできる店が少ない、遠い	19.5%
飲食店が少ない	12.2%
東京への交通アクセスが悪い	10.4%
仕事を見つけにくい	7.0%

街並みや街の雰囲気がよくない	5.6%
----------------	------

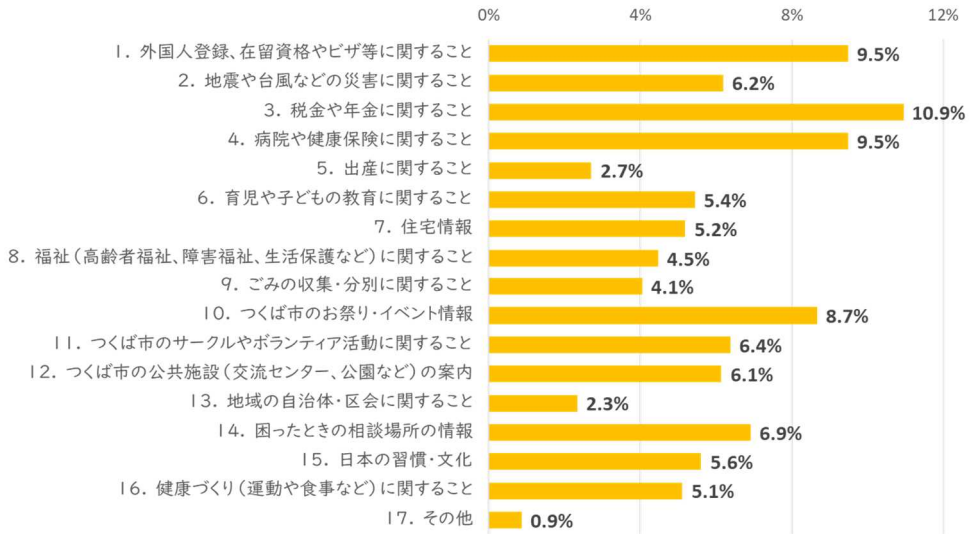
つくば市を「とても住みやすい」「住みやすい」と回答した人は94%にのぼりました。また、令和3年8月に実施したつくば市市民意識調査（以下、市民意識調査）においても「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した人が約85%であることから、国籍を問わず、多くの市民が「つくば市は住みやすい」と感じていることが分かります。いずれの調査においても、「住みやすい」理由のトップは「豊かな自然」でした。

【つくば市からの情報提供】



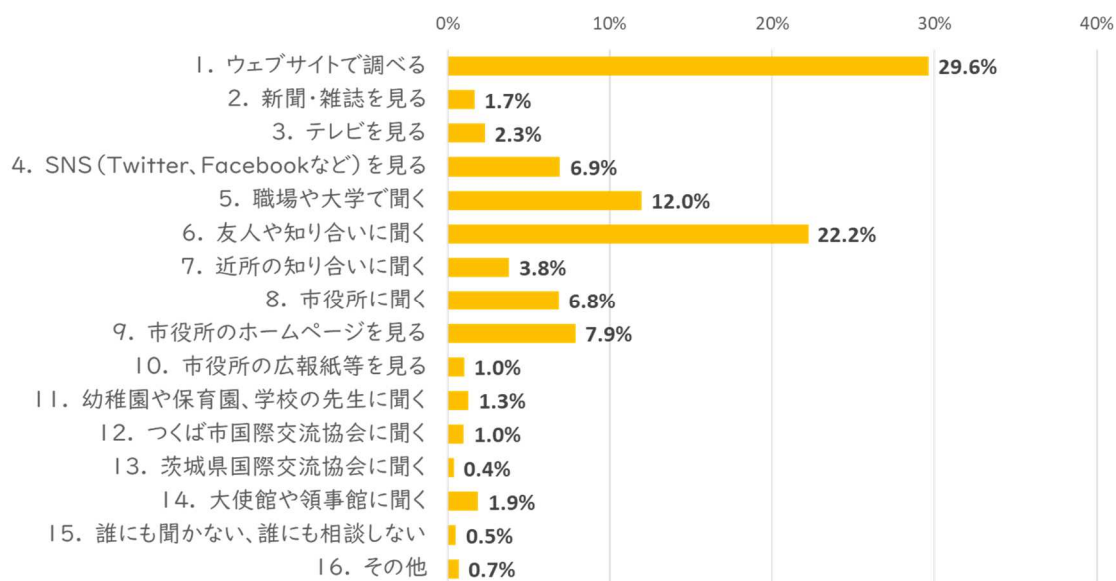
回答者の71%が市役所から届く日本語の通知やチラシ、パンフレットを「よく分かる」「だいたい分かる」と回答していることから、本アンケート回答者の多くは、市からの情報にある程度理解できていると推察されます。

【外国人市民が求めている情報】

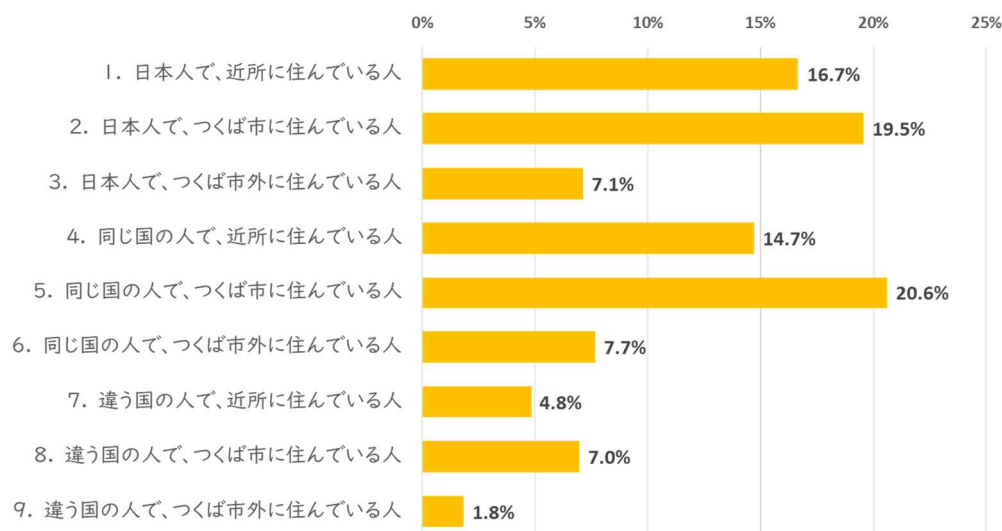


つくば市での生活や市役所での手続きの方法について、「知りたい」と回答した人が多かった「税金や年金に関すること」「外国人登録、在留資格やビザ等に関すること」「病院や健康保険に関すること」は、つくば市外国人相談窓口における相談件数の傾向ともほぼ一致しています。一方、つくば市のお祭りやイベント情報に関する問い合わせは、つくば市外国人相談窓口にはあまり寄せられていませんが、潜在的にはニーズがあることが分かりました。

【情報入手方法・相談先】



上記で5・6・7と回答した人の相談先

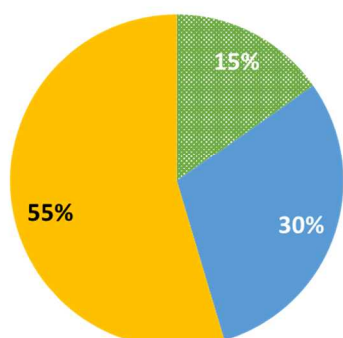


困りごとがあったとき、ウェブサイトや SNS を利用すると回答した人が 29.6%（市役所の HP も合わせると 37.5%）いる一方、「市役所に聞く」という人は 6.8%に留まります。つくば市での生活や市役所での手続きの方法の「知りたいこと」においても、「困ったときの相談場所の情報」と回答した人が 6.9%いることから、困りごとがあった際の相談場所となる「つくば市外国人相談窓口」の周知強化が大きな課題であると言えます。

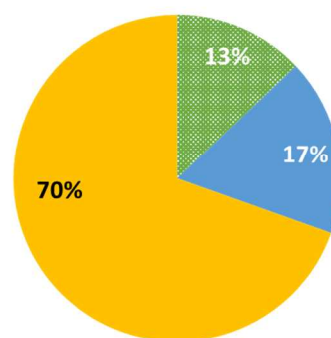
また、困ったときに職場や大学、友人、知り合い、近所の人に聞くと回答した人の内訳をみると、聞く相手は市内在住の同じ国出身の方が多く、出身国別のコミュニティが構築されていることが伺えます。また、同程度の人が「つくば市在住の日本人に聞く」と回答しており、多くの人が日本人と一定の交流を持っていることが読み取れます。

【つくば市からの情報提供媒体の認知度】

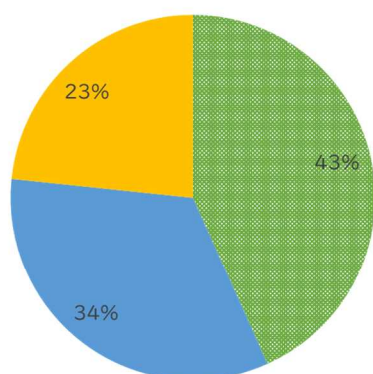
(1)「広報つくば」(日本語)



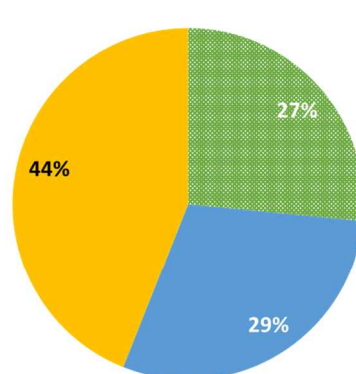
(2)「CITY NEWS TSUKUBA」
(英・中・韓・ベトナム・インドネシア・タイ・スペイン・ポルトガルの外国語広報紙)



(3)つくば市ホームページ(日本語)



(4)つくば市多言語版ホームページ
(やさしい日本語・英・中・韓)

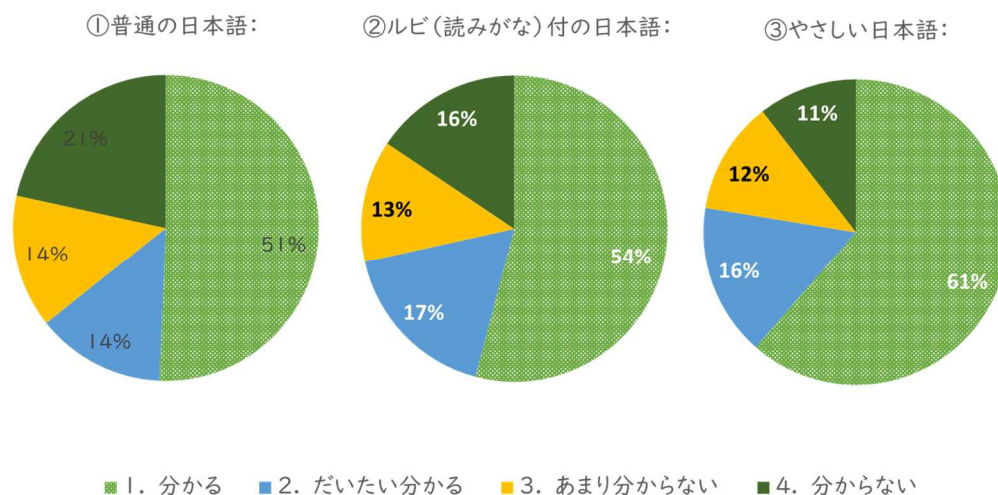


■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

つくば市からの情報提供媒体について、全体的に「知らない」と回答した人が多く、周知不足が課題として浮き彫りになりました。特に、8言語で発行している外国語版広報紙や近年情報発信に力を入れている多言語ホームページ（やさしい日本語を含め4言語）について、利用者・認知度ともに日本語版のつくば市ホームページより低い結果となっています。なお、本調査の回答も日本語での回答が多かったことから、本調査の回答者に限って言えば、日本語版ホームページを問題なく利用できている、または日本語版ホームページの自動翻訳機能を活用して情報を得ていると考えられます。

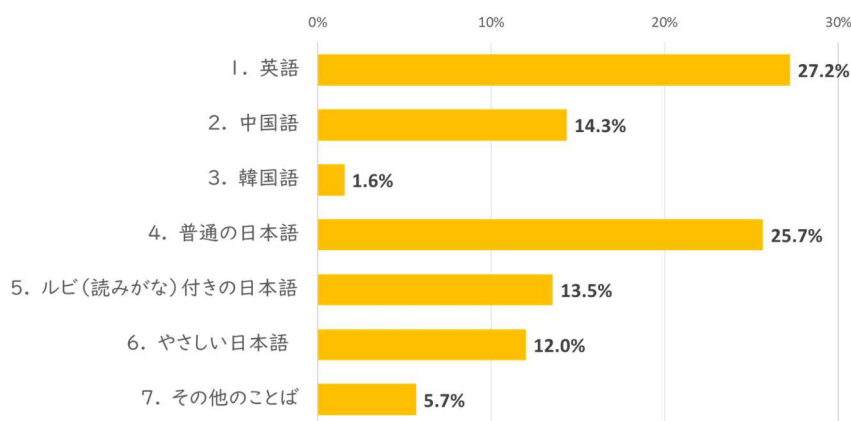
【日本語の理解度】

「土砂災害特別警報が出されたことをうけて、避難指示を発令しました。」の意味を理解できますか。



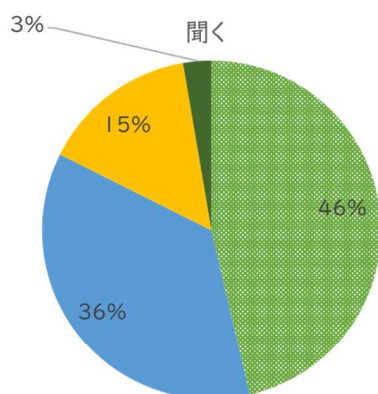
本調査の回答者は、ルビ付き日本語・やさしい日本語も含めると、日本語での情報発信もある程度理解できる人が予想以上に多い結果となりました。

【情報提供を希望する言語】

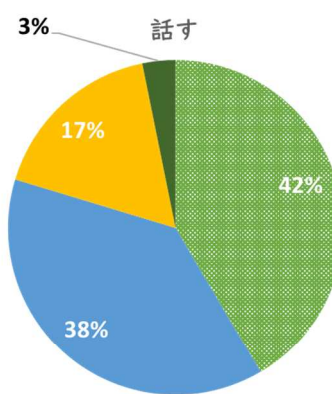


情報提供を希望する言語については、英語が最多数である一方、普通の日本語を希望する人も同程度おり、こういった方たちは、広報紙やホームページも多言語版ではなく、普通の日本語版で情報を得ることができていると思われます。

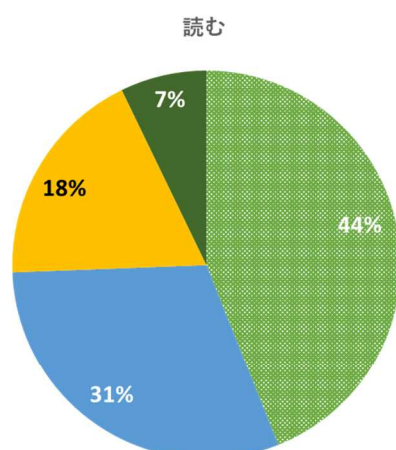
【日本語能力】



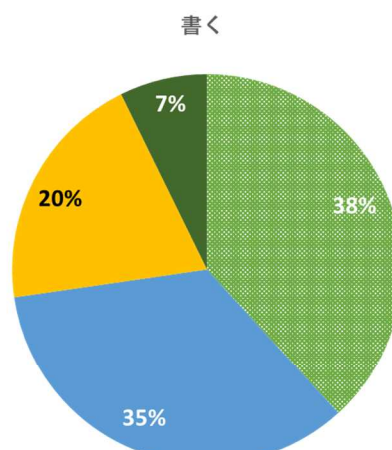
- 1. ニュース・講義・災害のアナウンスなどが聞き取れる
- 2. 簡単な日常会話が聞き取れる
- 3. 短い自己紹介やあいさつが聞き取れる
- 4. 全然聞き取れない



- 1. ニュースや講義の内容について、質問したり、意見を言ったりすることができる
- 2. 簡単な日常会話ができる
- 3. 短い自己紹介やあいさつができる
- 4. 全然できない



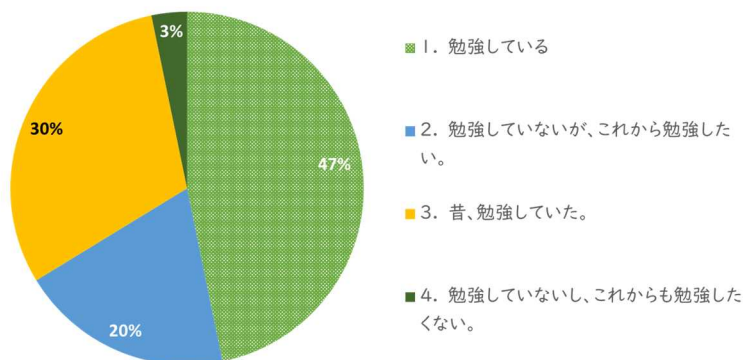
- 1. 新聞や雑誌などを読める
- 2. 簡単な漢字が書いてある手紙やメールを読める
- 3. ひらがな・カタカナのある短い文を読める
- 4. 全然読めない



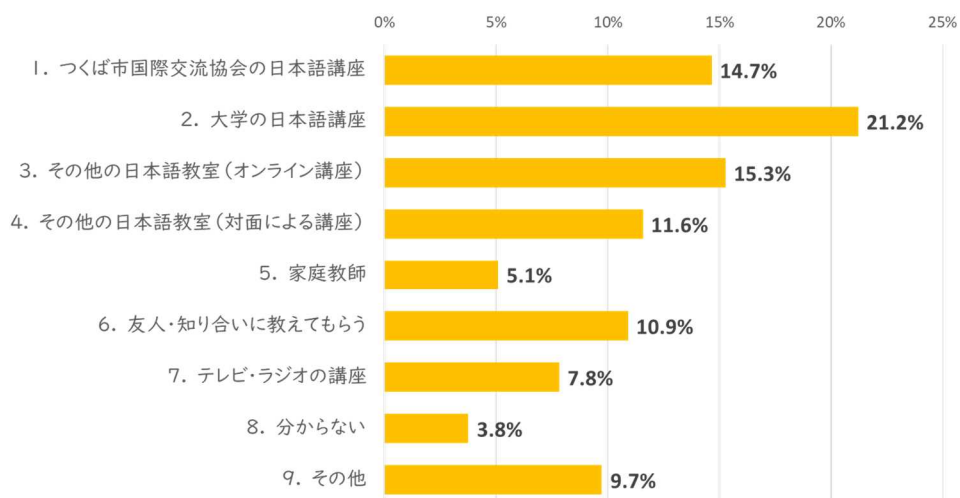
- 1. 漢字を使って、レポートや報告書などを書ける
- 2. 簡単な漢字を使って、手紙やメールを書ける
- 3. ひらがな・カタカナを使って、申請書に名前や国名を書ける
- 4. 全然書けない

日本語の能力については、聞く・話すは約80%の人が「簡単な日常会話であればできる」と回答していますが、読む・書くは約70%強と下がり、ハードルが高いことが伺えます。

【日本語学習意欲】

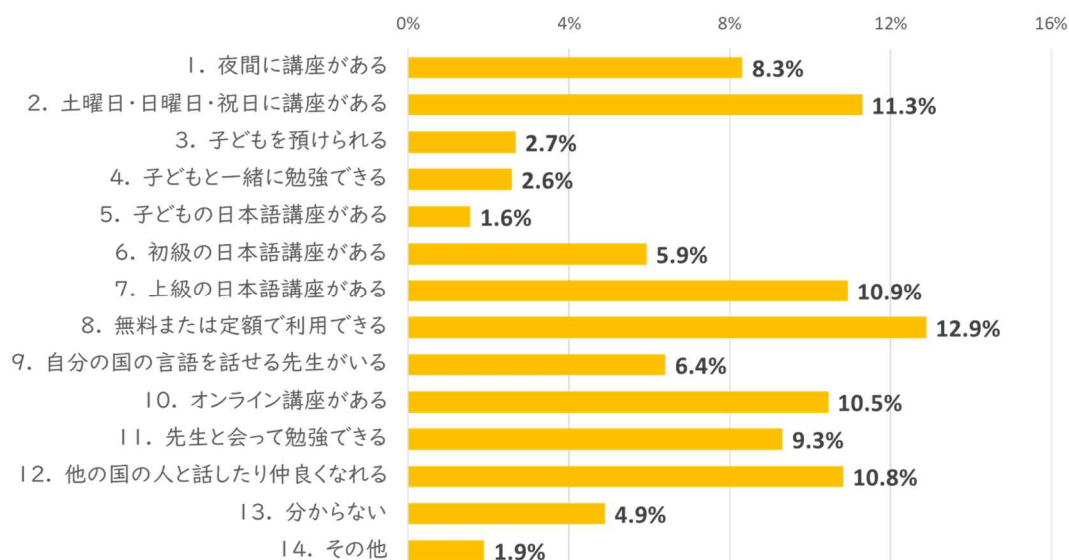


【日本語を学んでいる場所・学びたい場所】



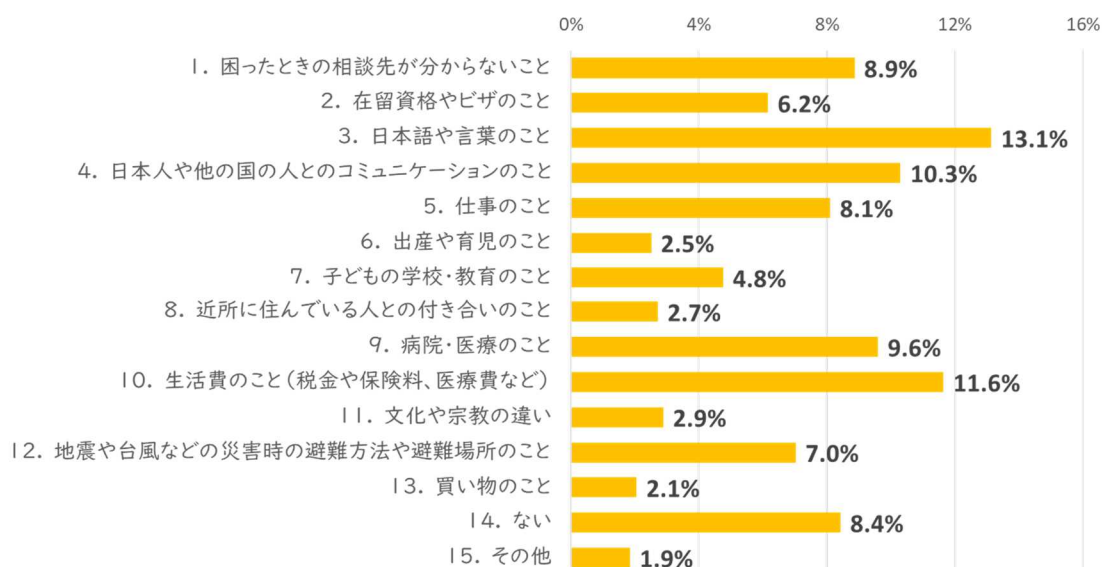
日本語学習については、約70%の方が学んでいる、または学びたいと回答しており、学習意欲は高いほか、30%の方も以前学んでいたと回答しています。

【希望する日本語講座の形態】

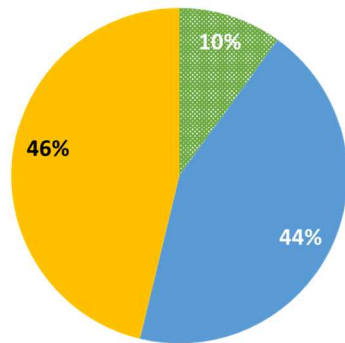


希望する日本語講座の形態については、土曜日・日曜日・祝日の講座開催と無料または低額の講座を望む声が多いとともに、ニーズは実に多種多様であることが分かりました。日本語講座の開催に当たっては、ターゲットを明確にしたコース設定、レベル・開催日時・開催方法等の検討が重要と言えます。

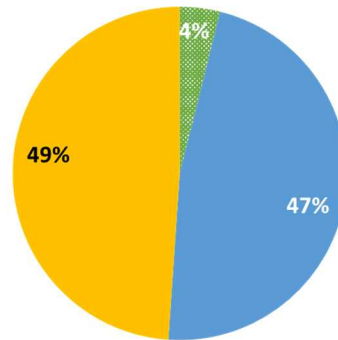
【生活における困りごと】



(1)「つくば市外国人相談窓口」
 ※市役所にある、外国人市民の皆様向けの相談
 窓口です(13言語対応)。電話もできます(英語
 と中国語、日本語対応)。



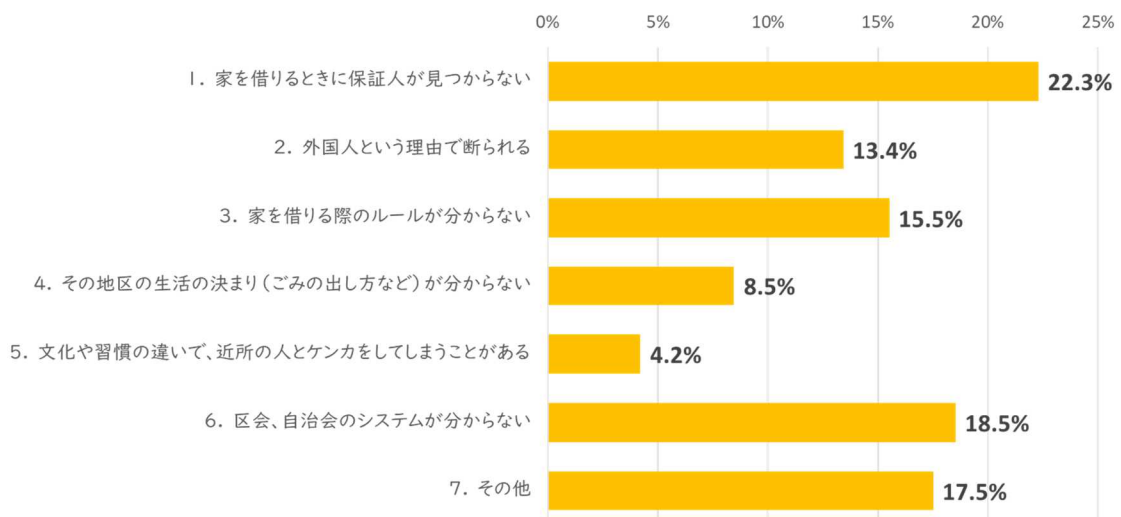
(2)「119番」の多言語コールサービス
 ※火事の時や救急車を呼ぶときに、
 19言語で話せる電話のサービス
 (24時間、365日対応)。



■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

生活の中で困っていること・不安なことは、言葉に関すること・お金に関する
 ことが多い結果となっています。また、仕事のことや病院・医療、子育て・
 教育についての困りごとの傾向は、つくば市外国人相談窓口の相談内容と類似
 しています。なお、「困ったときの相談先が分からない」と回答した人が471
 人おり、「つくば市外国人相談窓口」を知らないと回答した人が998人いるこ
 とから、先述の通り、「つくば市外国人相談窓口」のさらなる広報による周知
 が必要です。

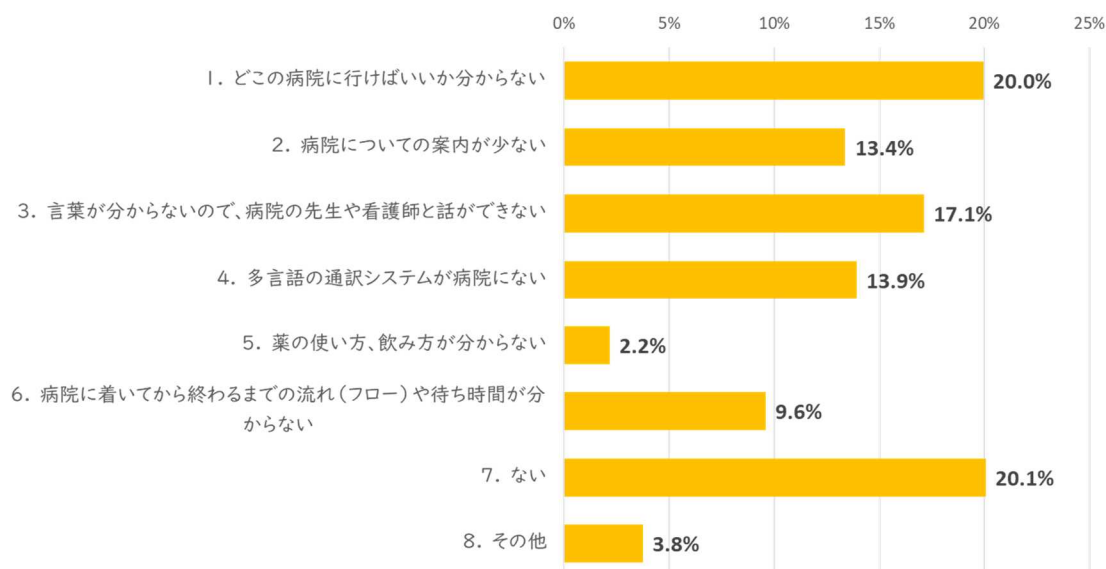
【生活における困りごと：住宅】



つくば市外国人相談窓口における住宅に関する相談や問い合わせは、県営・
 市営住宅の入居等に関するものが圧倒的に多い傾向ですが、保証人の問題や外
 国人であるという理由で断られるなど、民間事業者(不動産会社)とのトラブル

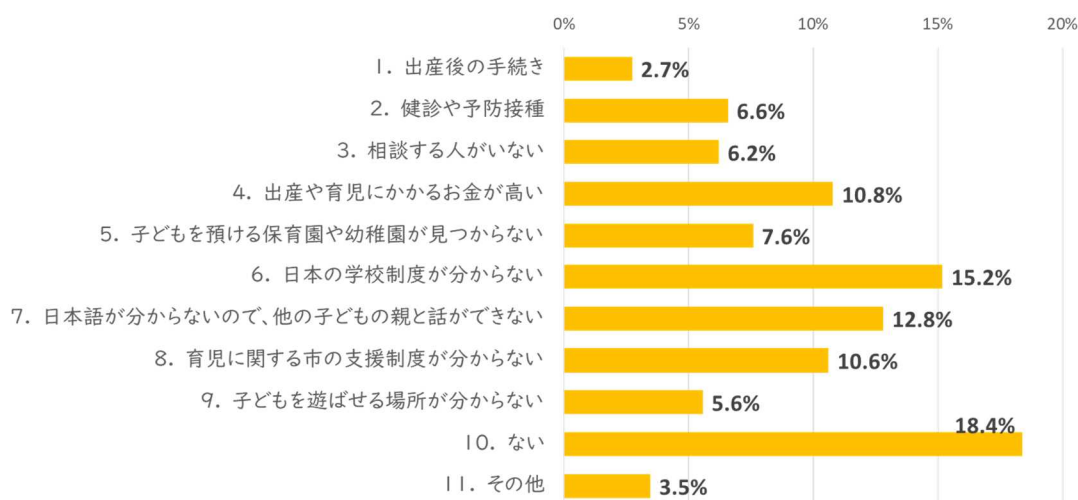
ルも挙がっていることから、法務省の人権相談窓口の周知強化などについても今後は力を入れる必要があります。

【生活における困りごと：病院】

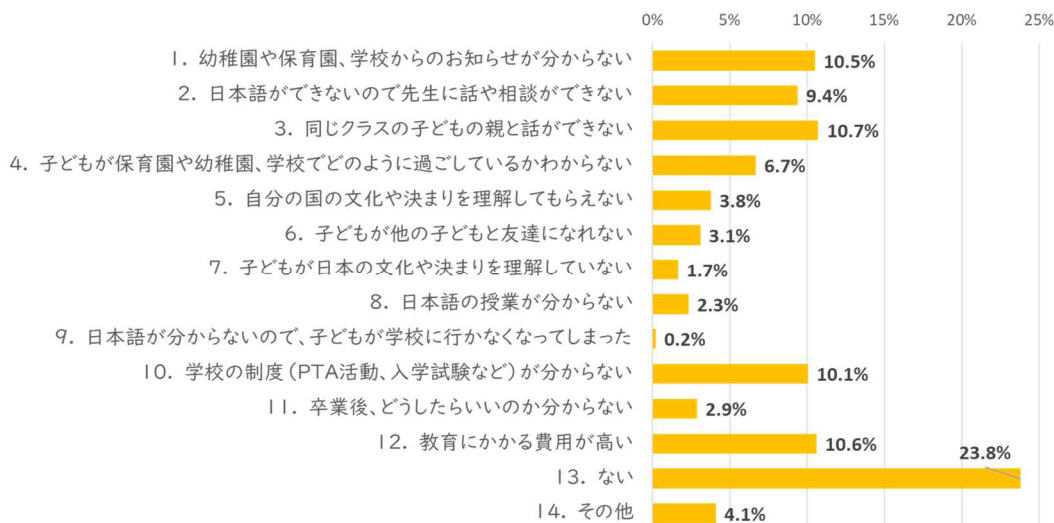


市民意識調査では、つくば市の現状やまちづくりの取組に関する満足度について、「病院・診療所などの医療機関」が最も満足度が高い結果となっています。一方、外国人市民意識調査では、日本の病院に行く時の困りごととして、情報不足や言葉の壁が挙げられていることから、医療機関に関する情報提供に加え、病院にかかる際の医療通訳ボランティアの養成や活用、デジタル問診票の導入等、外国人も受診しやすい環境づくりが求められています。

【生活における困りごと：子育て】

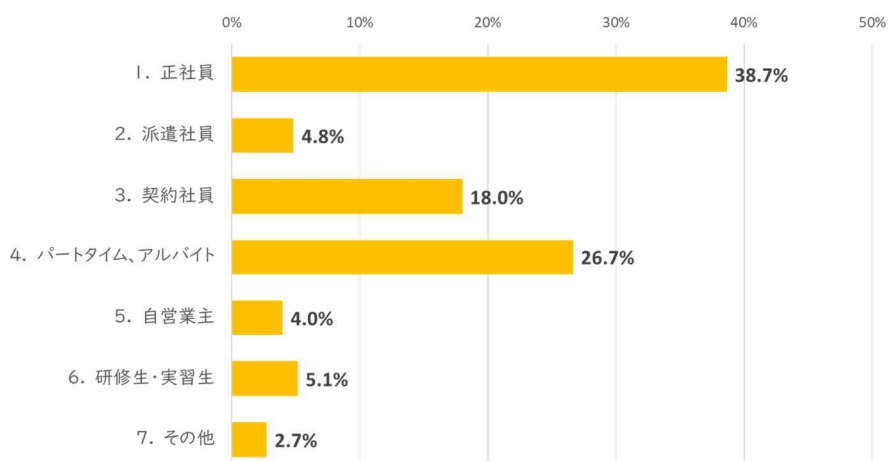


【生活における困りごと：幼稚園、保育園、学校】



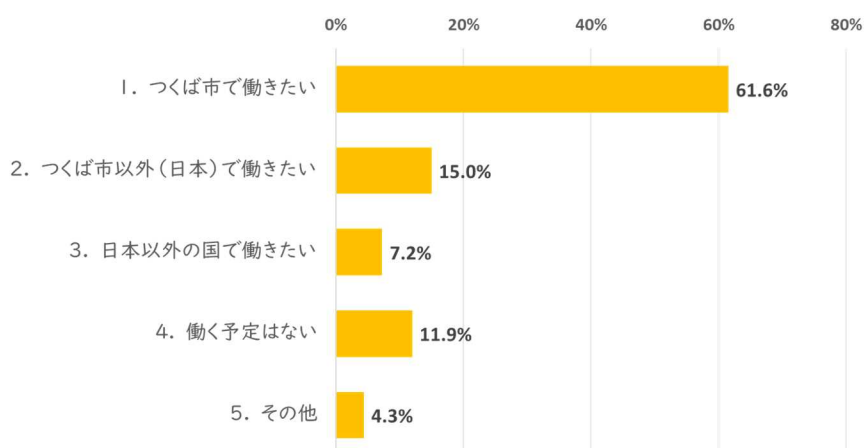
回答者の年齢が20代・30代が多いことから、同居している子どもがいる方のうち、80%は小学生までのお子さんとの同居となっていますが、育児や学校での困りごととしては、「ない」とした人がもっとも多い一方、学校の制度や支援制度などが分からない・言葉の壁・金銭的な問題を挙げる人は多く、外国人市民に向けた丁寧な情報発信を行うとともに、つくば市外国人相談窓口やつくば市国際交流協会が主催する各種事業の周知強化が必要となっています。

【就業状況】



「現在、働いている」と回答した60%（1293人）の雇用形態は上記の通りで、72.4%の方がつくば市内で勤務していると回答しました。また、「現在、働いていない」と回答した40%（862人）の多くは、学生でした。

【つくば市での就職意向】

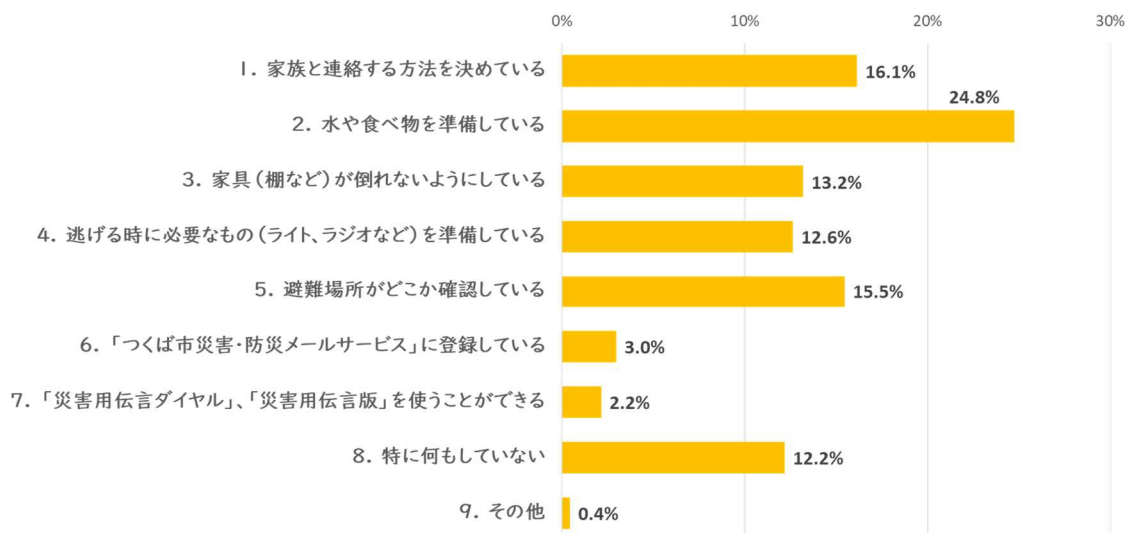


【生活における困りごと：仕事】



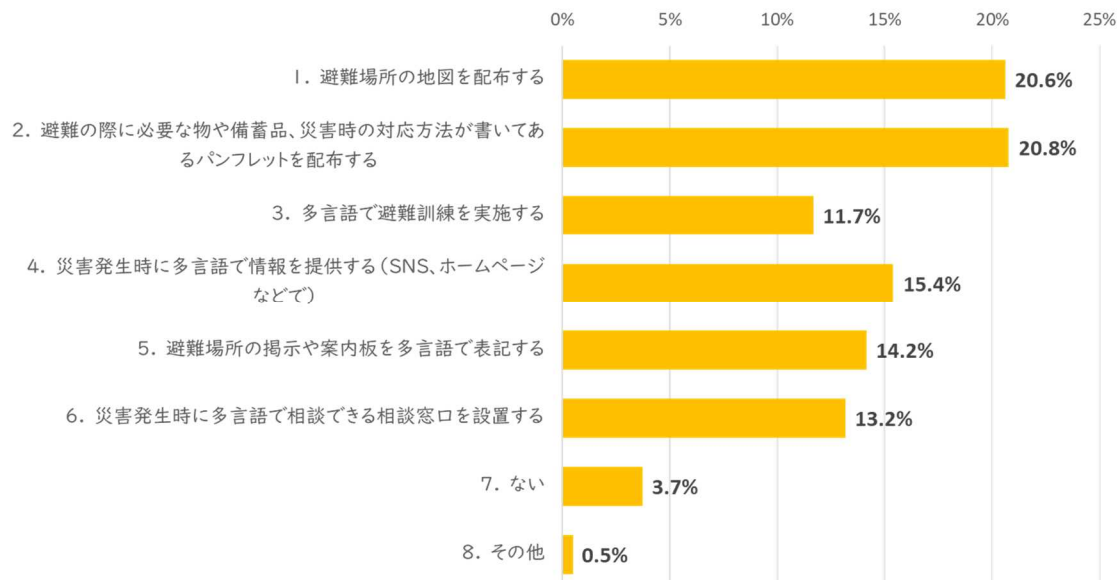
「将来つくば市で働きたい」と回答した人が約1,300人いる一方、働く際の困りごととして「仕事を探す方法が分からない」「留学生のための就職情報が少ない」「日本語がある程度分からないと働けない」が多く挙げられています。仕事を探す方法や留学生のための就職情報などは、大学とも連携を図り、情報提供方法やマッチング方法を模索していく必要があります。

【災害に対する備え】



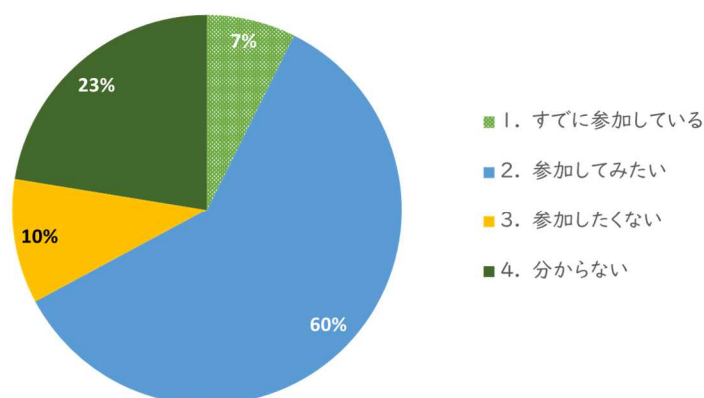
災害への備えについて、多くの人が1つ以上の対策を講じている一方、何もしていない人が570人となっています。安全に安心して暮らすため、災害への備えに対する情報提供や意識啓発を引き続き行っていくとともに、発信方法や発信媒体について検討が必要であると言えます。

【災害対応として市に望むこと】

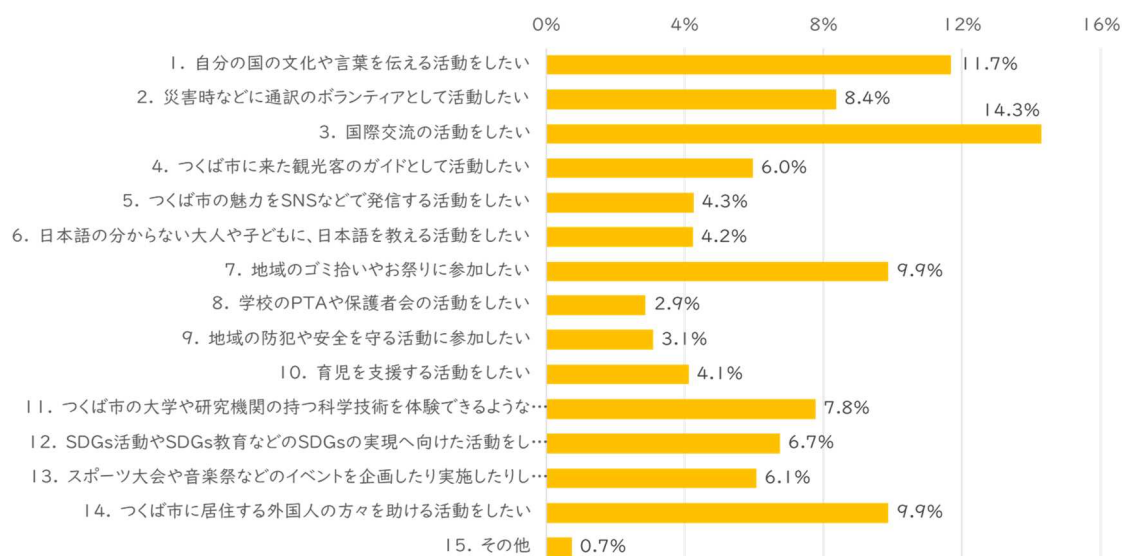


発災前後のいずれの場合も市に「情報提供」を求める声が多く集まりました。災害時の備え等の啓発活動に力を入れるとともに、災害時の迅速な多言語での情報発信が喫緊の課題です。

【地域活動やまちづくりへの参画意向】



地域活動やまちづくりに対する参加については67%の方が前向きでした。自国の文化や言葉を伝える活動や国際交流、他の外国人を助ける活動や災害ボランティアなど、外国人であることの強みを活かした活動をしたいと考えている人が多いほか、地域のごみ拾いやお祭りに参加したいと考えている人も多くいらっしゃいます。一方、それに対して、情報不足や参加の仕方がわからない、言葉の壁が障壁となっている様子も伺えることから、活動に関する情報やマッチング機会を適切に提供することができれば、地域活動やまちづくりに参加できる外国人市民が増えると考えられます。



【自由記述】

つくば市に対する意見・要望等自由記述欄には、702件の回答が寄せられました。主な意見・要望は以下の通りです。

① 外国人に特化したものではないと思われるもの

- ・街灯が少ない・暗い、治安への不安
- ・光害への対応
- ・暴走族等による騒音
- ・税金や保険料、保育料、出産費用などが高い（金銭面での不満）
- ・バス等公共交通の拡充（本数増・路線増・時間延長。車がないことによる不便さ）
- ・自転車道の整備、自転車で走りにくい道の改善
- ・無料駐輪場の提供
- ・市内で発生している渋滞解消
- ・商業施設や飲食店の充実
- ・保育園に入れない
- ・スポーツ施設やスポーツイベントの拡充
- ・緑を守ってほしい
- ・市内に高校が少ない
- ・差別やいじめをなくして欲しい

② 一般的に外国人市民特有と思われるもの

- ・英語をはじめ多言語での情報発信強化
- ・多言語で相談できる人や場所の提供
- ・銀行や医療機関の多言語対応
- ・つくばで入国管理（VISA）手続きができるの良い
- ・無料（または安価）で日本語を学びたい
- ・給食でのハラール対応やハラールレストランの増加
- ・留学生への就職支援や就職情報の提供
- ・日本語ができない（苦手な）人の就労支援
- ・日本人との交流機会や参加できるイベント提供
- ・日本人に対する教育や多文化共生意識の醸成
- ・自分の技術や語学力を生かして地域に貢献したい

4 つくば市市民意識調査結果

(1) 調査の概要

つくば市の現状やまちづくりの取組に対する満足度及び市が進める主要な施策に対する市民の意見などを把握することを目的として実施しました。

対象	住民基本台帳に記載された18歳以上の男女3,000人を層化無作為抽出法により抽出
実施方法	郵送配布・回収(希望者はWeb回答も可)
実施言語	日本語
実施期間	令和3年8月13日～8月31日
回収数	1,751通(回収率58.4%)

(2) つくば市の国際化に係る部分の主な結果

1 つくば市の「国際化の推進」に関する満足度

つくば市の「国際化の推進」について、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は47%、「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人は8.2%となっており、満足度は高いと言えます。一方で、「わからない」とした人が43.4%、無回答が1.4%でした。

また、以下の基準で算出された「満足度(※)」の計算結果では、全42項目のうち、2番目に高くなっており、「つくば市の国際化」については、全体の中でも満足度が高い分野であると言えます。

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない	無回答
179人	644人	100人	44人	760人	24人
10.2%	36.8%	5.7%	2.5%	43.4%	1.4%

※「満足度」の算出方法:以下の方法で回答数に点数をつけ、「わからない」「無回答」を除く回答者数で割って算出

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない・無回答
各回答の点数	2点	1点	-1点	-2点	対象外

2 「国際都市つくば」としてつくば市が取り組むべきこと

つくば市が国際都市として取り組むべきことについては、「学校での国際理解教育」、「外国人と交流する機会の提供」がいずれも約38%となっており、次いで「世界に向けたつくば市の魅力発信」が約27%となっています。

(昇順)

「国際都市つくば」としてつくば市が取り組むべきこと	回答数(人)	構成比
学校での国際理解教育	658	37.6%

外国人と交流・協働する機会の提供	656	37.5%
世界に向けたつくば市の魅力の発信	471	26.9%
相談・交流拠点整備等による外国人市民への生活支援	430	24.6%
海外の芸術・文化・芸能公演	402	23.0%
案内表示・施設窓口での多言語対応	383	21.9%
留学生への支援	326	18.6%
外国人市民への日本語学習支援	291	16.6%
国際関係機関等との連携による国際化推進体制の充実	266	15.2%
特に必要ない	147	8.4%
その他	56	3.2%
無回答	94	5.4%

※つくば市市民意識調査結果分析から詳細データ引用

5 つくば市の課題

これまでの取組や社会情勢といった現状整理や「つくば市外国人市民意識調査」、「つくば市民意識調査」の結果から抽出したつくば市における課題は以下のとおりです。

課題1：生活支援等情報や行政サービスの周知強化と認知度向上

「つくば市外国人相談窓口」や多言語ホームページ、外国語広報紙での情報発信等行政サービスについて、外国人市民意識調査において認知度が低いことが分かりました。今後は行政サービスのさらなる周知強化と認知度向上を図る必要があります。

課題2：外国につながる児童・生徒に対する日本語学習支援体制のさらなる拡充

外国につながる児童・生徒は年々増加しており、それに伴い日本語学習支援が必要な児童・生徒も増えています。子ども達の日本語学習支援を拡充するとともに、日本語指導者やボランティアの養成も併せて促進していく必要があります。

課題3：外国人市民の地域への参画機会の提供や参画のための情報発信

外国人市民意識調査結果では、地域づくりやまちづくりに「すでに参加している」と回答した人は7%だった一方、「参加してみたい」と回答した人は60%に上りました。さらに、参加を妨げている主な要因として、「活動に関する情報不足」や「参加の仕方が分からない」を挙げている人が多いことから、外国人市民の能力発揮の機会の発掘や参加の働きかけ、情報提供の充実を図る必要があります。

課題4：外国人市民が日本人市民と対等に協働できる環境の整備

総務省の「地域における多文化共生推進プラン」においても、外国人住民による地域の活性化やグローバル化への貢献、地域社会への外国人住民の積極的な参画と多様な担い手の確保が謳われており、課題3と同様、外国人市民の活躍の場や日本人市民と協働できる環境の整備が必要です。

課題5：交流と学びの機能を兼ね備えた「国際交流拠点」の整備

つくば市には国際交流センターがなく、つくば市国際交流協会の設置場所がよく分からないとの声も聞かれます。また、国際交流協会が主催する様々な日本語学習支援事業等も市の施設等を転々としながら実施している状況です。外国人市民が気軽に集える場、日本語学習や外国につながる児童・生徒の学校生活や学習を支援する場として「国際交流拠点」の整備が必要であるとともに、外国人市民同士や外国人市民と日本人市民が気軽に交流できる場を求める声も寄せられています。

課題6:つくばの国内外の多様な機関との連携・交流、それらのネットワークを活用した研究成果等の国際社会へ向けたプロモーションの強化

「世界のあしたが見えるまち」の実現に向けて、つくばの魅力や科学技術、スタートアップ、スマートシティなどの分野での取組やSDGsへの寄与を含めた国際貢献等について、国内外への情報発信の強化が必要です。

課題7:外国人市民生活を支える関係機関との連携体制の構築と認識の共有

今後一層増え続けることが予想される外国人市民の生活をきめ細やかに支援するためには、受入機関となる関係機関等と一体で取り組んで行くことが重要であり、携体制のあり方の協議や情報・認識の共有による連携強化が必要です。

第4章 第2次つくば市グローバル化基本指針の方向性

1 スローガン

つくば市未来構想が掲げる「つながりを力に未来をつくる」というまちづくりの理念の下、つくば市のグローバル化の現状や課題を踏まえ、次のようなキーワードを導き出しました。

つくば市未来構想から	「つながる」「多様性(ダイバーシティ)」「包摂性(インクルージョン)」「世界」「イノベーション」
外国人市民にフォーカスすると	「自立」「参画」「主体的」「資源」「財産」「担い手」
外国人と日本人の関係において	「協働」「連携」「対等」「ともに」「対話」「共創」「パートナー」

第2次つくば市グローバル化基本指針では、自者や他者の選択を尊重し合い、多様性を生かす文化の中で、日本人も外国人も国籍に関わりなく対等に能力を発揮し、**つくばならではの知の集積を生かしながら、**ともにつくばの未来を創っていくことを目指し、次のようにスローガンを定めます。

【第2次つくば市グローバル化基本指針スローガン】

**多様な人々のつながりと知の集積で、
すべての市民がともに未来を創るまち**

～「外国人のための多文化共生」から「つくばの未来のための多文化共生」へ～

2 目指すまちの姿

現在、つくば市が抱える課題を解決し、第2次つくば市グローバル化基本指針のスローガンを実現していくため、3つの「めざすまちの姿」を定めます。

1 日本人と外国人がともに快適で、安全安心に暮らせるまち

主に外国人市民を対象とした生活支援やコミュニケーション支援の拡充により、日本人と外国人がともに暮らしやすいまちを目指します。

2 市民がつながり、ともに活躍できるまち

外国人市民を支援の対象とするだけでなく、地域の主体として自立し、地域づくりの担い手として日本人市民とともに活躍・協働できるまちを目指します。

3 国内外との多様な連携や国際社会へ向けた情報発信によって、世界とつながるまち

世界に向けてつくば市の知の集積やそれを生かした様々な取組等を発信することにより、つくば市に世界中から関心が集まり、人々が集いたくなるまちを目指します。

3 目標指標

第2次つくば市グローバル化基本指針のスローガン『多様な人々のつながりと知の集積で、すべての市民がともに未来を創るまち～「外国人のための多文化共生」から「つくばの未来のための多文化共生」へ～』の達成度を測る指標として、以下の2つを指標として設定します。

(1) 外国人市民の居住満足度を向上させます

指標	現状値	目標値
①つくば市外国人市民意識調査において「つくば市は住みやすい」と答えた人の割合	94% (2021年度)	99% (2027年度)
②つくば市外国人市民意識調査において「これからもつくば市に住みたい」と答えた人の割合	54% (2021年度)	84% (2027年度)

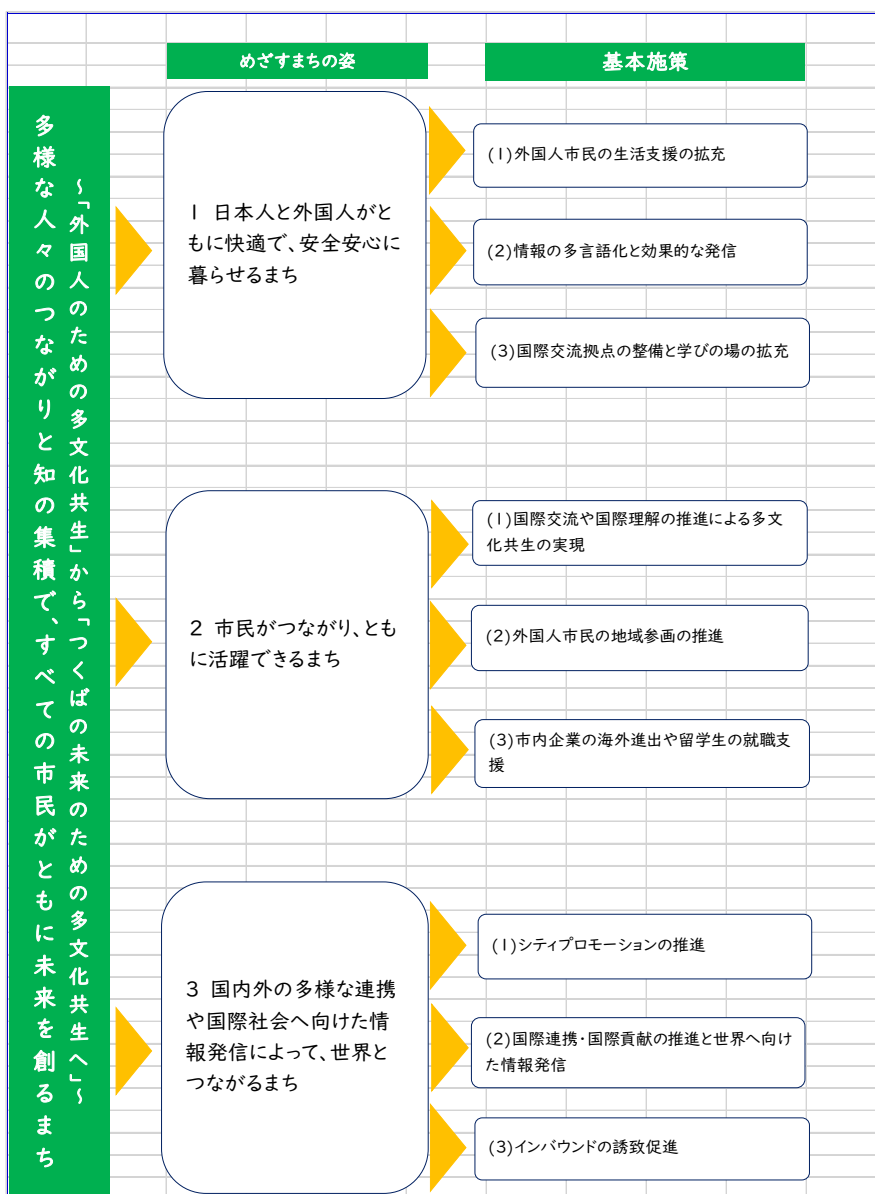
上位計画である「つくば市未来構想 戦略プラン」の個別施策、「多様性をいかした社会の推進」の指標の一つに、外国人市民の居住満足度を用いており、本指針でも指標として用います。隔年をめぐりに実施予定の「つくば市外国人市民意識調査」において、「つくば市は住みやすい」と答えた方の割合と、「これからもつくば市に住みたい」と答えた人の割合の2つの結果により、外国人市民の居住満足度を測ります。

(2) つくば市民の国際化に対する満足度を向上させます

指標	現状値	目標値
③つくば市市民意識調査において「『国際化の推進』の満足度を『満足・どちらかといえば満足』と回答した人の割合	47% (2021年度)	77% (2026年度)

隔年で実施しているつくば市市民意識調査において、主な回答者は日本人市民であることから、日本人市民の国際化に対する満足度について、「満足・どちらかといえば満足」と回答した人の割合をもう一つの指標とします。

4 施策の体系



5 推進体制

つくば市のグローバル化の実現のためには、行政だけではなく、市民やつくば市国際交流協会、各種団体、大学・研究機関、企業、関連機関等の様々な主体がつながり、連携・協働しながら取組を進めていくことが必要です。多様な担い手とネットワークを形成し、各主体がそれぞれの役割を果たしていくことにより、つくば市のグローバル化を推進していきます。

【つくば市の役割】

市は、地域のグローバル化に関わる課題やニーズに基づいた施策等の検討や立案、外国人市民へ向けた情報発信や多言語相談窓口の設置等により、外国人市民の生活支援や多文化共生づくりを推進し、SDGsの目標を見据えながら、その実現に寄与する役割を担います。

また、外国につながる児童・生徒に対して、学びやすい教育環境整備を進め、日本語指導及び学習支援等を行うとともに、国際理解教育等により、多文化共生のための教育を推進します。

【つくば市国際交流協会の役割】

つくば市国際交流協会は、市とともにつくば市のグローバル化を推進するための両輪のような存在です。日本語学習講座の開催、外国につながる児童・生徒の日本語学習支援やその保護者の支援、国際交流の場の創出など、外国人市民の身近な存在として、ニーズや課題に耳を傾けながら、きめ細やかなサポートを担います。

【団体の役割】

つくば市では、数多くの日本語学習ボランティア団体やNPO法人等が積極的に活動されています。外国人市民の支援や国際交流の場づくりにおいて、各種団体の果たす役割は極めて大きく、引き続き、市や国際交流協会等と連携しながら、各種事業の中核を担います。

【大学・研究機関等の役割】

つくば市に多い「留学」や「技術・人文知識・国際業務」「研究」「高度専門職」等の在留資格を有する外国人市民の受入機関となる大学・研究機関等は、市と連携しながら外国人市民の生活支援を行うとともに、**外国人市民が地域の主体として活動・活躍できるようサポートします。**

【企業の役割】

企業においては、人材不足が経営上の課題となっており、人材の確保や育成が急務となっています。そのため、留学生や外国人を含む多様な人材の活用が求められていることから、その受入態勢の整備に取り組みます。また、店舗等においては、市の支援を活用しながらインバウンドに対応した環境の整備を進めます。

【市民の役割】

日本人市民と外国人市民がお互いの文化や生活習慣、価値観の違いを認め合い、地域社会の対等なパートナーとして、共に地域を盛り上げる役割を担います。また、日本人市民は「やさしい日本語」で話しかける、外国人市民は日本語や日本文化を理解しようとするなど、すべての市民が互いに歩み寄り、対話や交流を行うことが期待されます。

「やさしいにほんご」とは…

第5章 3つの目指すまちの姿に基づく基本施策と主な取組

1. 日本人と外国人がともに快適で、安全安心に暮らせるまち

1つ目の「めざすまちの姿」では、基本的に外国人市民を対象とし、その支援を行います。外国人市民の生活基盤の整備やコミュニケーション支援は市のグローバル化の基礎となるものであり、それがあってこそ外国人市民も日本人市民も快適に、安全に安心してつくば市での暮らしを営めるものと考えます。外国人市民への支援を第1の柱と位置づけ、日本人と外国人がともに暮らしやすいまちを目指します。

【基本施策(1) 外国人市民の生活支援の拡充】

主な取組	多言語対応可能な相談体制の構築
取組主体	つくば市(国際交流室、消防指令課、各課等)
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくば市外国人相談窓口」の運営とその周知強化 ・119番通報の多言語コールサービス ・FRESC(外国人在留支援センター)等関係機関との連携強化

「つくば市外国人相談窓口」において、英語・中国語の相談員を配置し、タブレットによるテレビ通訳等も活用しながら外国人市民からの相談に多言語で応じます。また、3地点3者間通訳サービスにより、24時間・365日対応可能な「マルチリンガル119」等の導入により、外国人市民も安心して暮らせるまちを目指します。

主な取組	外国につながる子どもたちの支援
取組主体	つくば市(国際交流室、学び推進課)、国際交流協会、大学、団体
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・プレスクール・プレクラスの開催 ・こども日本語勉強会の開催 ・公立学校における日本語サポート ・日本語学習ボランティアの育成 ・こども日本語支援プラットフォーム会議の開催

国際交流協会や大学、団体と連携し、就学ガイダンスや日本語学習機会の提供など、外国につながる子ども達とその保護者をサポートするとともに、日本語学習ボランティアの育成等にも努めます。

主な取組	安心して医療を受けられる環境の整備
取組主体	国際交流協会、企業
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・医療通訳ボランティアの派遣と育成 ・医療通訳ボランティア派遣提携医療機関の拡充

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者向けにメディカル英会話講座の開催 ・多言語対応可能なデジタル問診票等の普及促進
--	--

外国人市民が安心して医療を受けられるよう、医療通訳ボランティアの派遣や育成、医療従事者向けにメディカル英会話講座を開催するとともに、提携医療機関の拡充を図ります。また、多言語対応可能なデジタル問診票の普及促進に努めるなど、民間事業者とも連携を図ります。

【基本施策(2) 情報の多言語化と効果的な発信】

主な取組	多言語での情報発信の強化
取組主体	つくば市(国際交流室)
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語広報紙の発行とその周知強化 ・市ホームページにおける多言語での情報発信 ・SNS(フェイスブック、ツイッター等)を活用した情報発信

外国語広報紙の発行や市ホームページ及び SNS における多言語での情報発信について、引き続き積極的に行うとともに、その周知強化に努めます。

主な取組	「やさしい日本語」の普及促進と情報発信の強化
取組主体	つくば市(国際交流室)、国際交流協会
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページで「やさしい日本語」での情報発信の充実 ・「やさしい日本語」研修の開催を検討

日本に住む外国人が増え、その国籍も多様化する中で、情報発信の際には「やさしい日本語」を活用することが有効であるとされていることから、「やさしい日本語」での情報発信に力を注ぎます。

主な取組	災害への備えと災害時の迅速な情報発信
取組主体	つくば市(国際交流室、危機管理課)、国際交流協会、市民団体
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所等における多言語対応準備 ・外国語広報紙等を活用した防災意識の啓発 ・市民団体と連携したセミナー開催等啓発活動 ・災害時のリアルタイムでの情報発信

近年、多発する地震や気象災害の激甚化により、災害への備えと災害時の迅速な情報発信は優先順位が高い取組となることから、避難所等における多言語対応の準備や啓発活動を推進します。また、災害時には迅速な情報発信ができるよう、体制を構築します。

主な取組	各種行政情報の多言語化
取組主体	つくば市(国際交流室、健康増進課、環境衛生課、スマートシティ戦略室等各課)
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・市から発出される各種通知等文書の翻訳 ・生活情報誌「Living in Tsukuba」等多言語情報誌の発行 ・ライフプランすこやかやごみカレンダーの多言語版発行 ・多言語対応可能なアプリによる情報提供の促進

市から発出される各種通知等の翻訳や多言語情報誌の発行などにより行政情報の多言語化を促進するとともに、多言語対応可能なアプリの開発・導入により、多言語で情報を入手できるチャンネルの多様化を図ります。

主な取組	都市施設等のグローバル化対応の推進
取組主体	つくば市(公園・施設課、産業振興課等各課)、企業
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設、地域交流センター、児童館などの施設、交通機関、道路等の案内看板の多言語併記の推進 ・商業施設等における案内板等多言語化の働きかけ

公共施設等都市施設や交通機関、道路等の案内看板の多言語併記を推進するとともに、商業施設等の案内板の多言語化についても働きかけ、店舗等における多言語対応の支援についても検討します。

【基本施策(3) 国際交流拠点の整備と学びの場の拡充】

主な取組	国際交流拠点の整備
取組主体	つくば市(国際交流室、学園地区市街地振興課)、国際交流協会
事業例	新たな市民活動拠点の中への国際交流拠点の整備

つくばセンタービルのリニューアルに併せて進められている、新たな市民活動拠点の中に国際交流拠点を設け、外国人市民が気軽に集える場・日本人市民との交流の場をつくとともに、外国人市民の生活支援や日本語学習支援等の学びの場の拡充を図ります。

主な取組	日本語学習支援体制の拡充
取組主体	国際交流協会、大学、団体
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・大人向け日本語講座の拡充 ・日本語講師・ボランティアの育成 ・学習支援者・グループの連携

大人向けの日本語講座の開催や日本語講師・ボランティアの育成を促進するとともに、学習支援者・グループの連携を図り、日本語学習支援体制を拡充します。

2 市民がつながり、ともに活躍できるまち

2つ目の「めざすまちの姿」は、外国人市民を支援の対象とするだけでなく、地域の主体として自立し、地域づくりの担い手として日本人市民とともに活躍・協働できるまちです。これは、総務省の「地域における多文化共生推進プラン」を踏まえた新しい視点であり、第2の柱として多文化共生社会の実現とともに、外国人市民の地域参画や日本人市民との協働などに取り組みます。

【基本施策(1) 国際交流や国際理解の推進による多文化共生の実現】

主な取組	姉妹都市交流や青少年交流などの国際交流事業の推進
取組主体	つくば市(国際交流室)、国際交流協会
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市であるケンブリッジ市やアーバイン市、グルノーブル市、友好都市である深セン市とのオンライン及びオンサイトでの交流機会の創出 ・大田広域市との日韓青少年交流事業の実施

姉妹都市や友好都市等との連携により、オンライン及びオンサイトでの交流機会を創出するとともに、日韓青少年交流事業を実施します。

主な取組	国際理解講座等による子どもたちの多文化共生意識の醸成
取組主体	つくば市(国際交流室、学び推進課、学校)
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校において国際理解講座や国際理解集会の開催 ・国際理解講座の中でヘイトスピーチに関するパンフレット配布等啓発活動の実施

市内の小中学生を対象に、国際理解講座や国際理解集会を開催し、外国の文化や生活に触れる機会を通して子どもたちの多文化共生意識の醸成を図ります。

主な取組	外国人市民と日本人市民が交流できる場の創出
取組主体	つくば市(国際交流室)、国際交流協会、市民団体
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流フェアや世界お茶飲み話、シティチャットカフェ等の外国の文化に触れることのできるイベントの開催 ・料理教室や着付け体験など日本人市民と外国人市民がともに参加し交流できるイベントの開催支援 ・「つくばワールドフットサル」など日本人市民と外国人市民がともに参加し交流できるスポーツイベントの開催

外国や日本の文化に触れることのできるイベントやスポーツイベント等、様々な交流事業の開催により、外国人市民と日本人市民が交流できる機会をつくります。

主な取組	多様な宗教に対する理解の促進
取組主体	つくば市(国際交流室、産業振興課)、企業
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店等に向けた多様な宗教に対する理解の促進 ・宗教食上のサポート(ハラールやコシャミールなどの飲食店における対応メニューの提供)の促進 ・宗教食に対応した飲食店に関する情報の収集・発信

飲食店における多様な宗教に対する理解の促進や宗教食に対応したメニューの提供情報の収集・発信などにより、外国人市民や外国人観光客が利用しやすい環境づくりを進めます。

主な取組	国際協力や国際協力ボランティアに関する意識啓発
取組主体	つくば市(国際交流室、中央図書館)、JICA 筑波
事業例	JICA 筑波と連携した国際理解推進イベントの開催

JICA 筑波と連携し、国際協力や国際協力ボランティアに対する関心を高めるイベントを開催し、国際理解の推進を図ります。

【基本施策(2) 外国人市民の地域参画の推進】

主な取組	通訳ボランティアや災害ボランティアとして活躍できる外国人ボランティアの育成
取組主体	つくば市(国際交流室、危機管理課)、国際交流協会
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の通訳ボランティア育成の検討 ・災害ボランティア育成講座の開催

通訳ボランティアや災害ボランティアとして活躍できる外国人ボランティアの発掘や育成に取り組みます。

主な取組	留学生の能力をいかした地域活性化や活躍支援
取組主体	つくば市(国際交流室)、国際交流協会、団体
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生交流員の委嘱(外国語広報紙編集、国際理解講座講師) ・留学生のネットワークを活用した各国コミュニティとの連携

つくば市に集う多くの留学生の能力をいかして、留学生交流員として外国語広報紙の編集や国際理解講座の講師として活躍する場を提供するとともに、留学生のネットワークを活用して各国のコミュニティとの連携を図ります。

主な取組	多文化共生推進の担い手となる日本人市民・外国人市民の発掘や育成
取組主体	つくば市(国際交流室、市民活動課)、国際交流協会、市民団体
事業例	・つくば市国際交流協会等の国際交流団体、関係機関、市民団体等との連携強化 ・外国人市民の地域コミュニティへの参加促進

国際交流団体や大学や研究所等の外国人受入を行う関係機関、企業、市民団体等と連携し、多文化共生推進の担い手となる日本人市民・外国人市民の発掘や育成に取り組むとともに、外国人市民の地域コミュニティへの参加促進を図ります。

【基本施策(3) 市内企業の海外進出や留学生の就職支援】

主な取組	留学生と市内企業のマッチングや外国人材の活用の支援
取組主体	つくば市(産業振興課)、大学、企業
事業例	・大学と連携した留学生と市内企業とのマッチングの機会の創出やインターンシップ制度の導入 ・外国人材を雇用する企業へのサポート

卒業後もつくば市に留まりたい留学生を支援するため、大学と連携し、留学生の就職支援や外国人材を雇用する企業へのサポートを行います。

主な取組	市内企業の海外進出や海外に向けた販路拡大の支援
取組主体	つくば市(産業振興課)、企業
事業例	・姉妹都市等との連携を生かしたビジネス交流機会の創出や海外展示会出展サポート ・茨城県やJETRO等と連携した海外展開希望事業者への支援 ・海外販路拡大コンサルティングの実施

姉妹都市等や茨城県、JETRO等と連携を図り、海外進出や海外に向けた販路拡大を希望する市内企業を支援します。

主な取組	外国人の起業・就労サポート
取組主体	つくば市(スタートアップ推進室、産業振興課)、ハローワーク、NPO等団体
事業例	・スタートアップビザ制度による外国人起業家に対する起業・生活支援 ・外国人材活用に関するセミナー等の開催 ・有能な人材の定住促進のための就職面接会の開催 ・ハローワークやNPO法人等と連携した外国人の就労サポート

スタートアップビザ制度の導入により増加が期待される外国人起業家の支援や外国人材の受入支援を行うことで、外国人の起業・就労をサポートします。

3 国内外との多様な連携や国際社会へ向けた情報発信によって、世界とつながるまち

3つ目の目指すまちの姿は、「国内外との多様な連携や国際社会へ向けた情報発信によって、世界とつながるまち」です。豊かな自然や科学技術、スタートアップ、スマートシティなどの分野での取組や知の集積等は「つくばらしい」部分であり、つくば市の魅力や先進的な取組を世界に向けて発信すること、また、世界からつくばに人を呼び込むことを第3の柱と位置づけます。

【基本施策(1) シティプロモーションの推進】

主な取組	世界へ向けた PR コンテンツの充実
取組主体	つくば市（広報戦略課、観光推進課、スマートシティ戦略室、科学技術振興課、スタートアップ推進室、産業振興課）、観光コンベンション協会
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・つくばのグローバルな魅力の多角的なリサーチ、国内外への発信 ・海外向けのPRツールの充実と海外におけるPR機会の活用 ・茨城県・関係機関等との連携・協力による世界へのPR ・世界に向けたトップセールス機会の拡充

つくば市には外国人を含め1万人以上の研究者が150を超える市内の大学・研究機関・企業に在籍しており、様々な分野の最先端科学技術を開発しています。また、G7茨城・つくば科学技術大臣会合や G20 茨城・つくば貿易・デジタル経済大臣会合の開催によるレガシーなど、つくばのグローバルな魅力を国内外へ発信します。

主な取組	国際バカロレア教育プログラム認定学校への支援
取組主体	つくば市（国際交流室）
事業例	・国際バカロレア教育プログラムの認定学校の支援と優秀な人材の招聘に資するインターナショナルスクールの PR

優秀な外国人材の招聘に資する国際バカロレア教育プログラム認定学校を支援するとともに、充実した教育環境をつくば市の魅力の一つとしてPRしていきます。

【基本施策(2) 国際連携・国際貢献の推進と世界へ向けた情報発信】

主な取組	SDGsへの寄与を含めた世界や地域への貢献
取組主体	つくば市（持続可能都市戦略室、スマートシティ戦略室）

事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば SDGsパートナーズとの連携 ・スマートシティの取組に関する国内外でのトップセールス
-----	--

つくば市は、「世界の明日が見えるまち」というビジョンを掲げ、「つくばを見れば世界中の問題の解決策のヒントが得られる」ことを目指して様々な取組を進めています。それらの取組を市内外に向けて発信することで、世界や地域への貢献を図ります。

主な取組	国内外の大学や研究機関、科学技術拠点等との連携強化
取組主体	つくば市（国際交流室、科学技術振興課、スタートアップ推進室）
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の研究機関・大学・企業等との交流の推進 ・茨城県・その他行政・政府関係機関との連携関係の構築 ・科学技術振興に資する国内外の都市との交流の拡大

姉妹都市や友好都市を中心に、世界各地の研究機関や大学、科学技術拠点等との連携を深めるほか、茨城県や他自治体との交流拡大により連携を強化します。

【基本施策(3) インバウンドの誘致促進】

主な取組	外国人観光客等へのおもてなし環境の整備
取組主体	つくば市（観光推進課、公園・施設課、持続可能都市戦略室、スマートシティ戦略室）、観光コンベンション協会、民間事業者
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設・観光施設内における案内板・パンフレット等の多言語化 ・観光施設等における外国語対応 ・外国人観光客への対応セミナーの開催

新型コロナウイルス収束後に期待されるインバウンド需要を見据え、ハード・ソフト両面での受入環境の整備を促進します。

主な取組	グローバル MICE の誘致促進とアフターコンベンションの充実
取組主体	つくば市（観光推進課）、観光コンベンション協会
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県や大学等と連携したグローバル MICE の誘致推進 ・魅力的なアフターコンベンションメニューの開発と PR

グローバル MICE の開催は、地域に様々な経済活動を生み出し、地域経済の活性化にも大きく寄与することから、アフターコンベンションや開催支援の充実を図り、積極的にグローバル MICE を誘致します。

資料編

1 第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会設置要項

(設置)

第1条 つくば市の国際化推進のあり方について広く意見を聴くため、第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会(以下「懇話会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇話会は、次に掲げる事項について検討し、その結果を市長に報告するものとする。

(1) 第2次つくば市グローバル化基本指針(以下「指針」という。)の策定に関する
こと。

(2) 前号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

(組織)

第3条 懇話会は、委員18人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 市民

(2) 学識経験者

(3) 関係団体の代表者

(4) 市議会議員

(5) 地方行政機関及び公共的団体の役職員

(6) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から指針策定の日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(座長及び副座長)

第5条 懇話会は、座長及び副座長を置く。

2 座長及び副座長は、委員の互選によって定める。

3 座長は、懇話会を代表して、会務を総理する。

4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

(懇話会)

第6条 懇話会は、必要に応じ座長が招集し、座長がその議長となる。

- 2 懇話会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。ただし、懇話会の招集が困難である場合にあっては、開催に代えて書面の郵送により意見の聴取を行うことができるものとする。
- 3 懇話会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(映像等の送受信による通話の方法による懇話会)

第7条 座長は、委員の全部又は一部について、懇話会の効率的な運営に資すると認めるときは、委員同士が映像と音声の送受信により相手の状態を相互に認識しながら通話を行うことができる方法(以下「映像等の送受信による通話の方法」という。)により、懇話会を開催することができる。ただし、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例(平成29年つくば市条例第35号)第4条の規定により、会議の全部又は一部を非公開とする場合は、この限りでない。

- 2 座長は、前項ただし書の規定にかかわらず、委員の全部又は一部について懇話会を開催する場所に参集することが困難な場合その他やむを得ない事由のある場合には、映像等の送受信による通話の方法により、懇話会を開催することができる。
- 3 座長は、映像等の送受信による通話の方法により懇話会を開催する場合には、懇話会を開催する場所に参集する委員を除き、当該懇話会に参加する場所として相当と認める場所を、委員ごとに指定するものとする。
- 4 委員が映像等の送受信による通話の方法により懇話会に参加したときは、当該委員は、懇話会へ出席したものとみなす。
- 5 映像等の送受信による通話の方法による懇話会への参加に伴い生じる通信費その他の費用は、各委員の負担とする。

(庶務)

第8条 懇話会の庶務は、市民部市民活動課国際交流室において処理する。

附 則

この要項は、令和2年(2020年)8月14日から施行する。

附 則

この要項は、令和3年(2021年)8月5日から施行する。

2 第2次つくば市グローバル化基本指針策定懇話会委員名簿

(敬称略、五十音順)

No.	所属機関・役職	氏名	ふりがな
1	筑波学院大学 教授	浅見 道明	あざみ みちあき
2	つくば市 副市長	飯野 哲雄	いいの てつお
3	市民委員	井上 里鶴	いのうえ りず
4	関彰商事株式会社 総合企画部 部長	上村 祐一	うえむら ゆういち
5	つくばインターナショナルスクール 校長	クロフォード シェイニー	くろふおーど しえいにー
6	TIVONAの会 代表 一般財団法人つくば市国際交流協会 理事 (茨城女子短期大学 教授)	小林 和子	こばやし かずこ
7	市民委員	シン イナ	しん いな
8	市民委員	平良 侑希	たいら ゆうき
9	特定非営利活動法人つくば日中協会 理事長	唐 莉莉	たん りり
10	筑波研究学園都市交流協議会 副会長 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合 研究機構 理事)	中島 隆	なかじま たかし
11	一般財団法人つくば市国際交流協会 理事長	布浦 万代	ふうら まよ
12	筑波大学 副学長・理事	ベントン キャロライン	べんとん きゃろらいん
13	一般社団法人つくば観光コンベンション協会 事務局長	星野 弘	ほしの ひろし
14	市民委員	前田 崇行	まえだ たかゆき
15	つくば市議会 副議長	皆川 幸枝	みながわ ゆきえ
16	つくば市立吾妻中学校 校長	茂在 哲司	もざい てつじ
17	風の会 代表 一般財団法人つくば市国際交流協会 理事	吉田 麻子	よしだ あさこ
18	独立行政法人国際協力機構筑波センター 所長	渡邊 健	わたなべ たけし

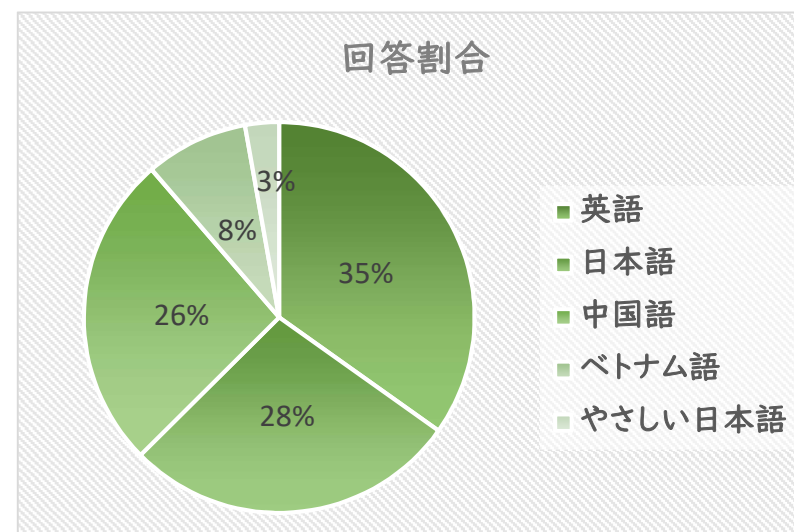
2021年度
つくば市外国人市民意識調査

つくば市国際交流室

調査の概要

対象	令和3年5月1日現在、つくば市に住民登録のあった18歳以上の全外国人市民8,432人
実施方法	Webアンケート
実施言語	日本語・やさしい日本語・英語・中国語・ベトナム語
実施期間	令和3年6月23日～7月9日(17日間)
有効回答数	2,455件(回答率29.1%)

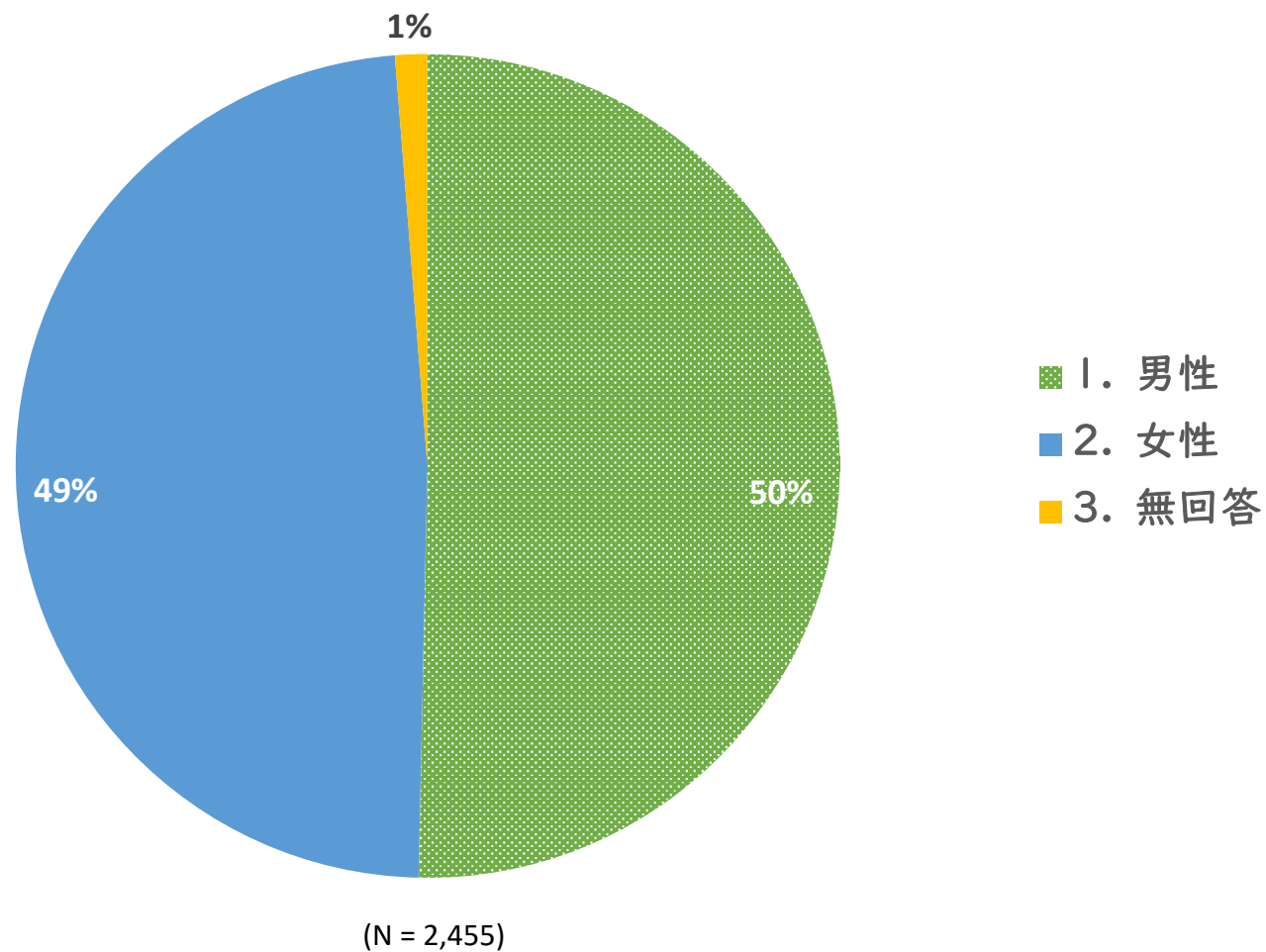
回答言語	回答数
英語	855
日本語	681
中国語	641
ベトナム語	209
やさしいにほんご	69



合計：2,455

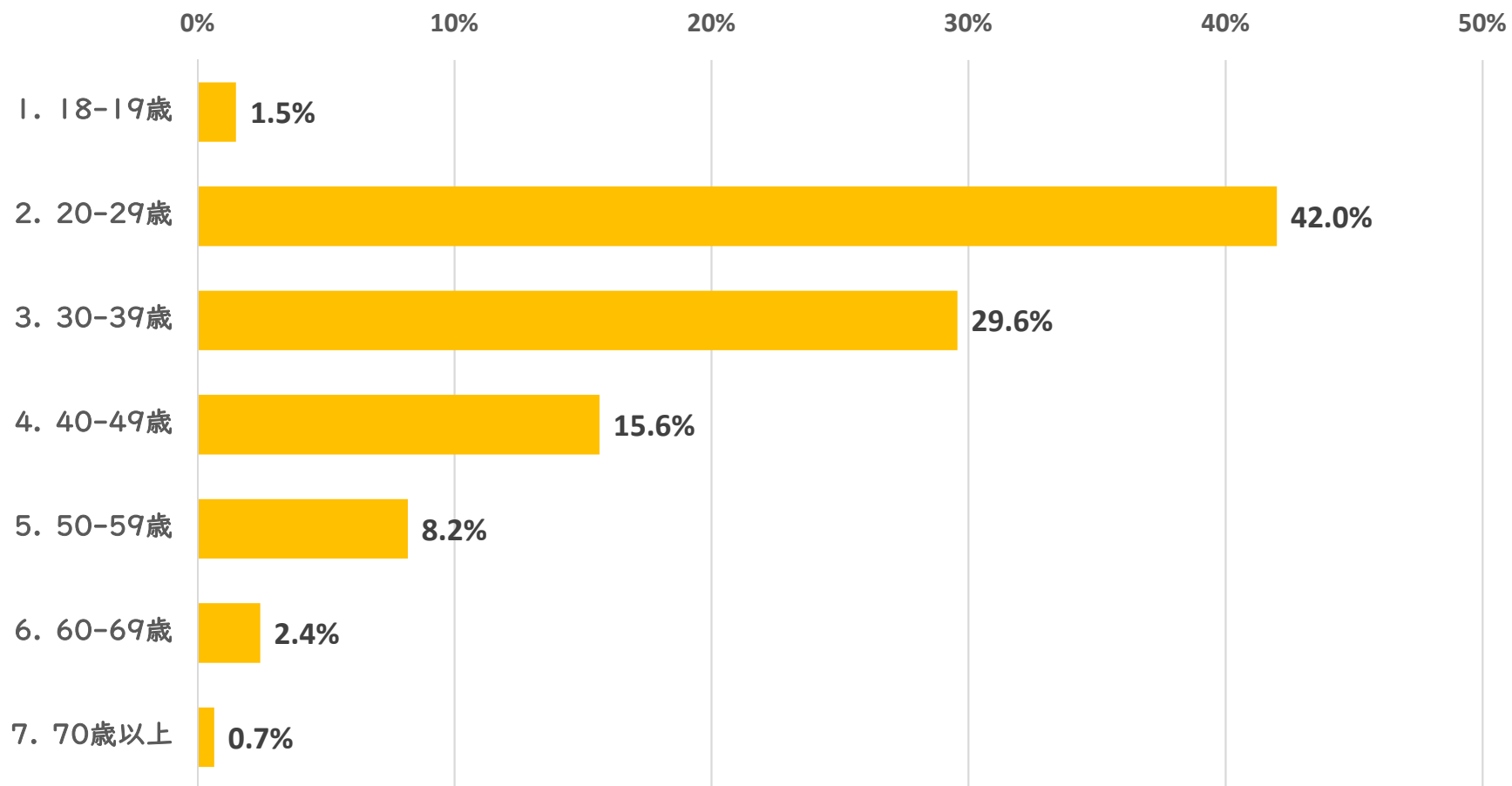
1:あなたご自身について

Q1 あなたの性別を教えてください。(1つにしてください) ※回答必須



1:あなたご自身について

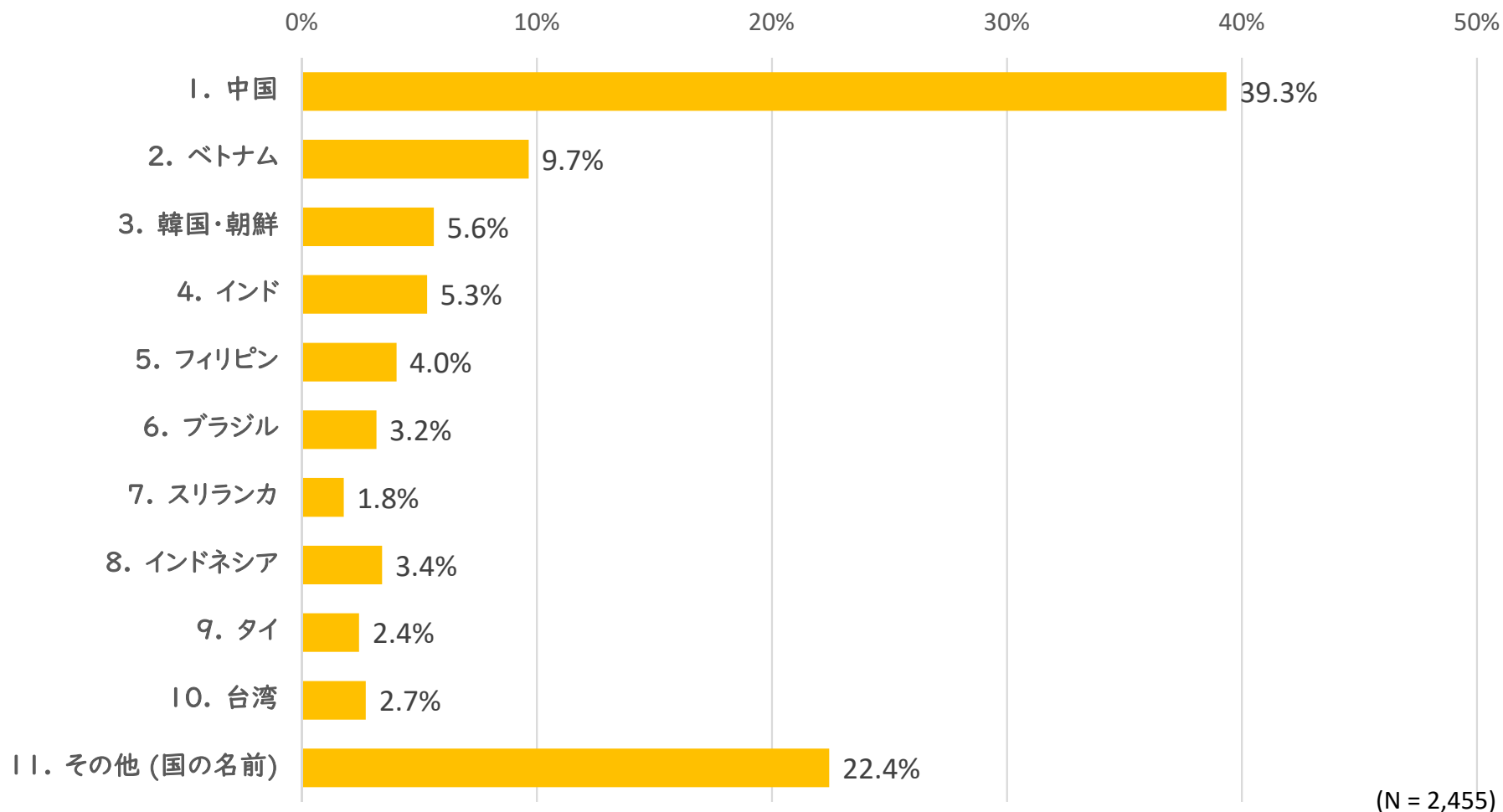
Q2 あなたの年齢を教えてください。(1つにしてください) ※回答必須



(N = 2,455)

1:あなたご自身について

Q3 あなたの国籍または出身地を教えてください。(1つにしてください) ※回答必須



(N = 2,455)

1:あなたご自身について

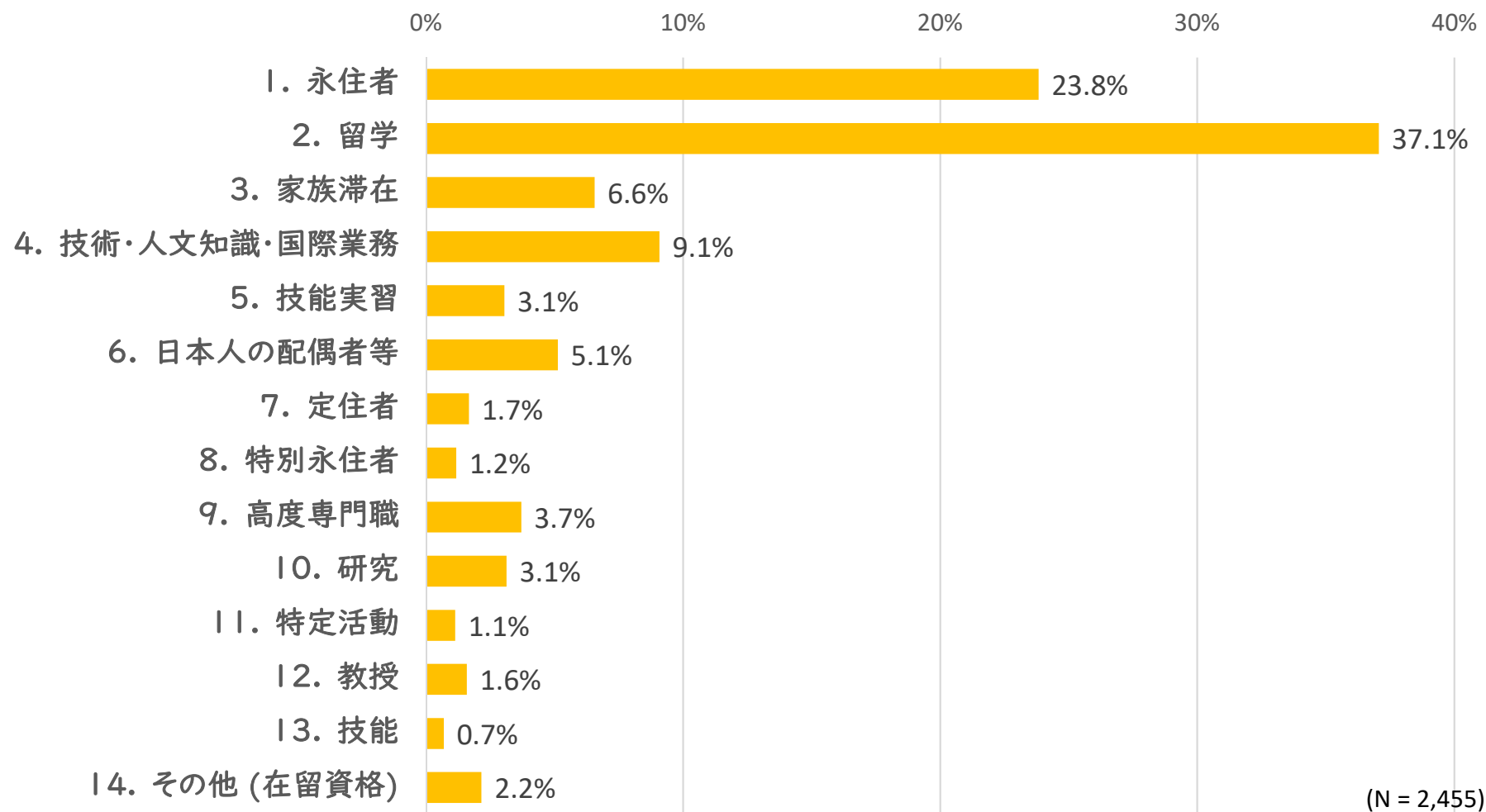
Q3 あなたの国籍または出身地を教えてください。

(「11.その他」の回答)

国	数	国	数	国	数	国	数	国	数
アフガニスタン	5	チリ	1	イスラエル	2	ニュージーランド	4	スウェーデン	2
アルバニア	1	コロンビア	8	イタリア	11	ナイジェリア	5	スイス	2
アルジェリア	3	コートジボワール	1	ジャマイカ	1	パキスタン	13	シリア	4
アメリカ	57	クロアチア	1	日本	6	パプアニューギニア	1	タジキスタン	3
アンティグア・バーブーダ	1	キューバ	1	カザフスタン	2	ペルー	30	タンザニア	3
アルゼンチン	2	チェコ共和国	2	ケニア	5	ポーランド	5	トリニダード・トバゴ	1
オーストラリア	9	デンマーク	1	キルギス共和国	2	パラグアイ共和国	1	チュニジア	4
オーストリア	2	ドミニカ共和国	1	ラオス	2	モルドバ共和国	1	トルコ	5
バングラデシュ	24	エジプト	11	ラテンアメリカ	1	ルーマニア	4	タークメニスタン	4
ベラルーシ	2	エチオピア	2	リトアニア	1	ロシア	17	ウガンダ	3
ベルギー	1	ヨーロッパ	2	マダガスカル	1	ルワンダ	4	ウクライナ	3
ベナン	1	フランス	27	マレーシア	37	サウジアラビア	1	ウイグル	1
ブータン	2	ジョージア	1	マリ	1	サモア	1	ウズベキスタン	8
香港在住イギリス	1	ドイツ	9	メキシコ	5	セネガル	1	ベネズエラ	1
イギリス	23	ガーナ	6	モンゴル	19	シンガポール	1	イエメン	1
ブルネイ	1	ギリシャ	2	モンテネグロ	1	スロバキア	1	ザンビア	1
ブルガリア	1	ハンガリー	1	モロッコ	1	スロベニア	2	ジンバブエ	1
カンボジア	11	香港	6	ミャンマー	10	南アフリカ共和国	1		
カメルーン	2	イラン	8	ネパール	23	スペイン	7		
カナダ	19	アイルランド	1	オランダ	3	スーダン	1		

1:あなたご自身について

Q4 あなたの在留資格を教えてください。(1つにしてください) ※回答必須



(N = 2,455)

1:あなたご自身について

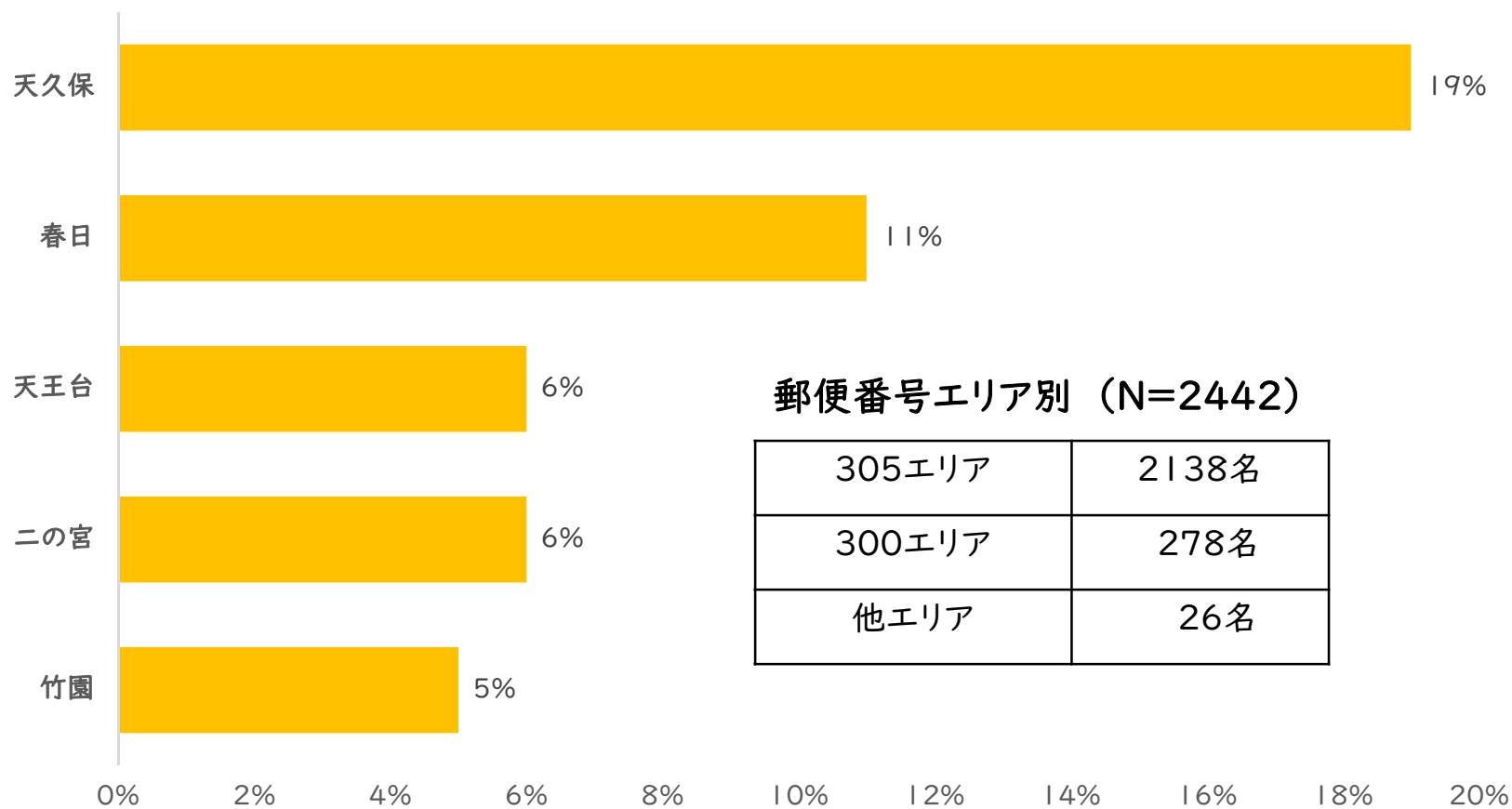
Q4 あなたの在留資格を教えてください。(1つにしてください)

「14. その他」の回答

在留資格	人数
宗教活動	2
労働	6
教員・教師	8
一時滞在者(3年)	1
医療	1
投資、経営	2
文化交流	1
文化活動	2
永住者配偶者	7
特定技能	4
特定活動	2
経営管理	9
学生ビザだった	1
なし	1

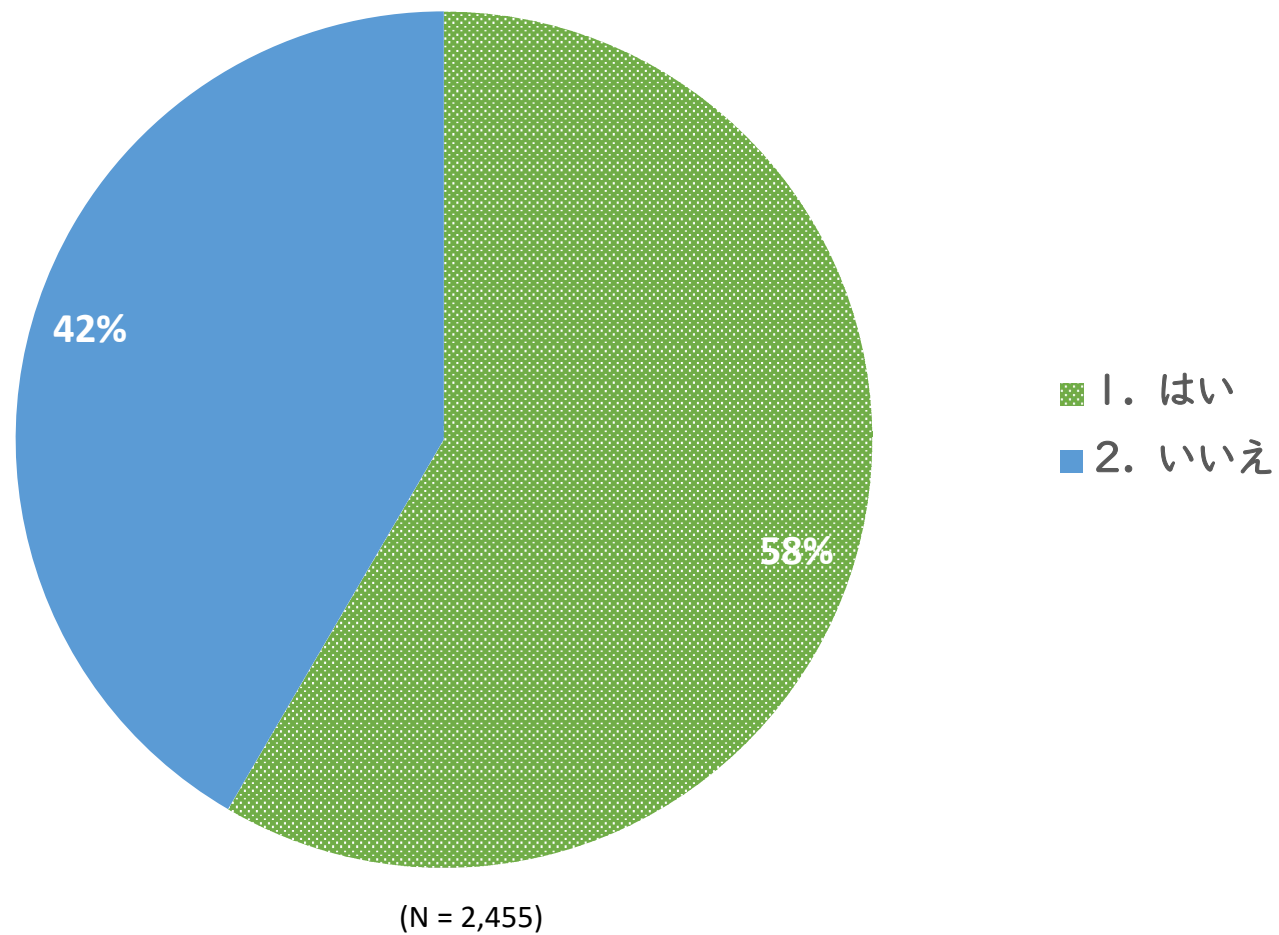
1:あなたご自身について

Q5 あなたの居住地はどこですか。



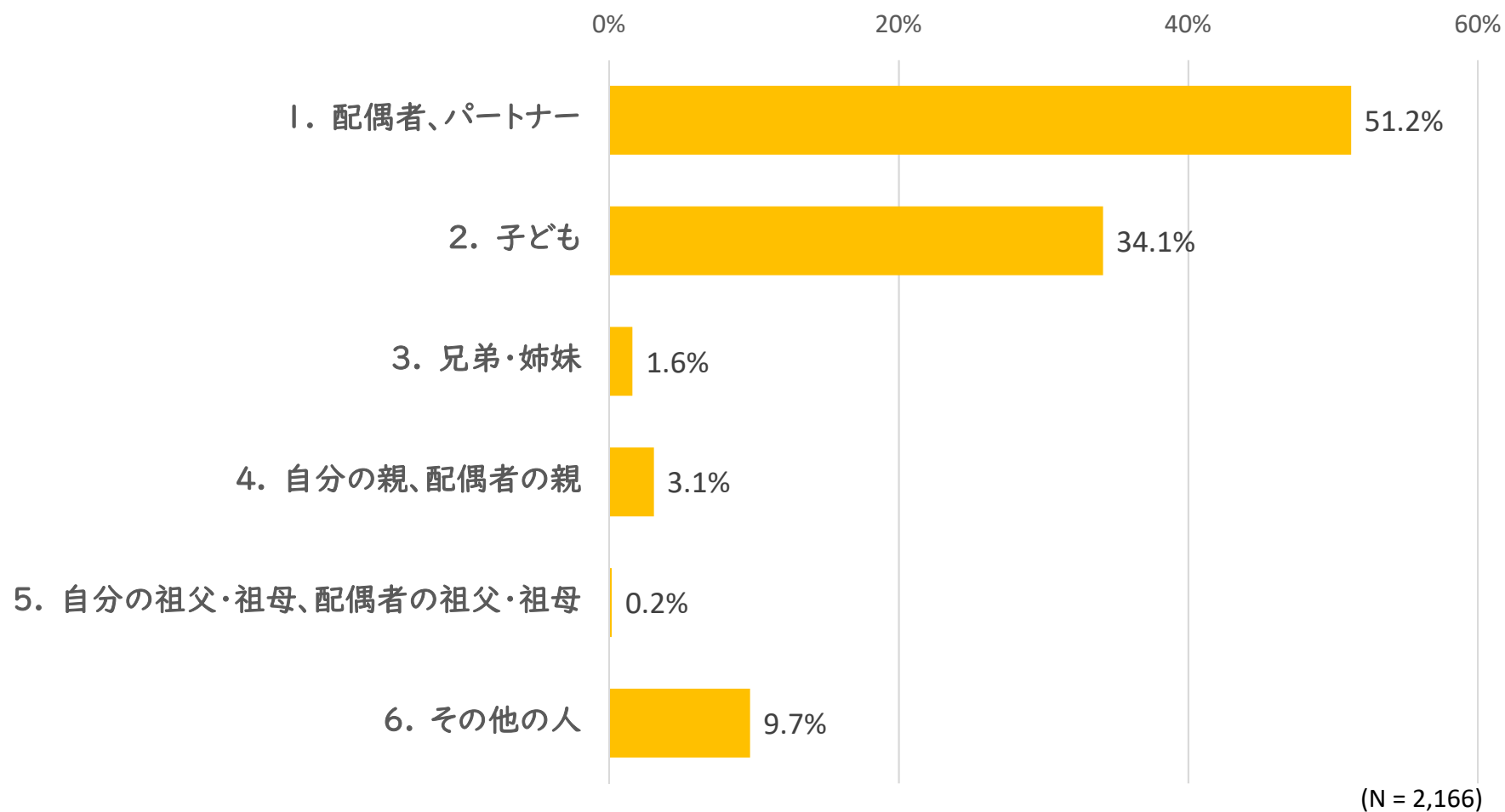
1:あなたご自身について

Q6 あなたと同居している人いますか?(1つにしてください) ※回答必須



1:あなたご自身について

Q7 あなたと同居している人、あてはまるものすべてにしてください。



1:あなたご自身について

Q7 あなたと同居している人、あてはまるものすべてにしてください。

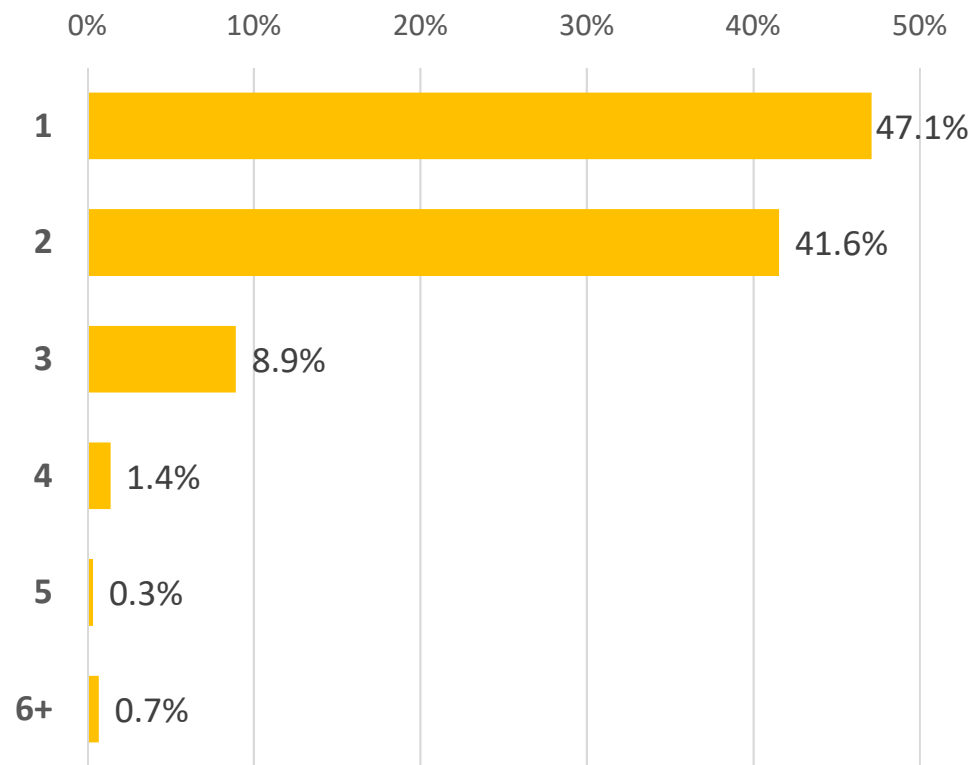
「6.その他」の回答

	人数
寮のハウスメイト	7
おばさん	1
同僚	7
いとこ	2
娘	1
友人	68
ハウスメイト	22
日本人の妻と子供2人	1
親と子	1
私の子供の父親	1
妻の義理の母	1
タイの僧侶	1

	人数
義理の息子	1
パートナーの子供	1
夫の兄	1
奥さん	1
姪っ子	1
娘の旦那	1
孫	5
恋人	1
教会の兄弟	1
配偶者	1
配偶者の親	1

1:あなたご自身について

Q8 子どもの人数を書いてください。(いる場合のみ回答)

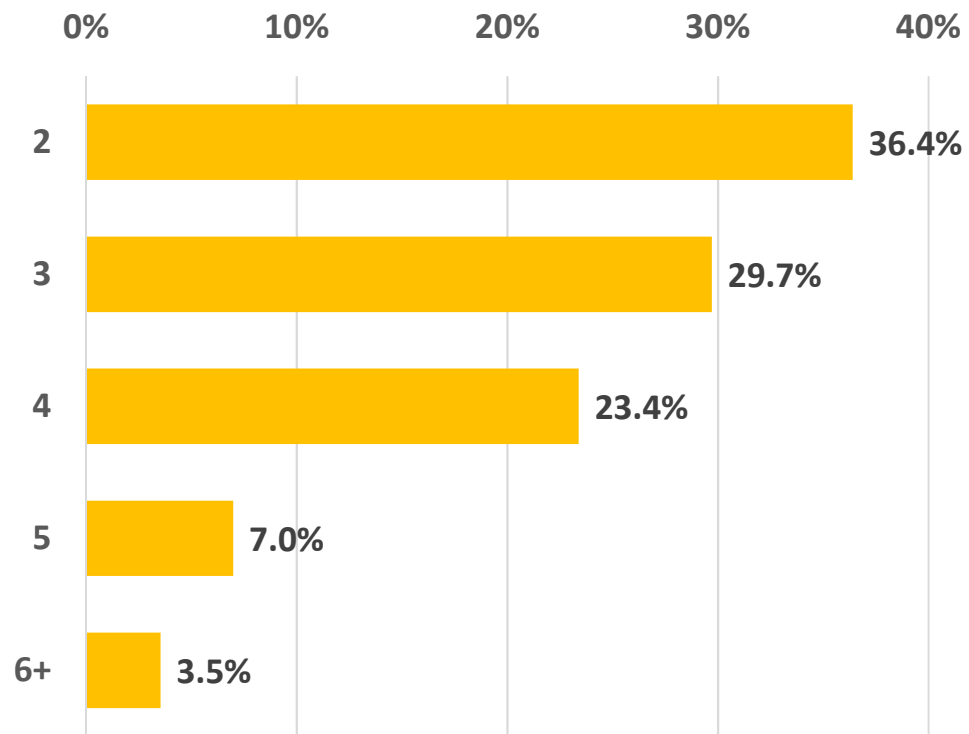


(N = 864)

「6+」の回答	
子どもの人数	回答数
6	1
7	1
8	1
11	1
44	1

1:あなたご自身について

Q9 あなたを入れて何人で同居しているか、書いてください。

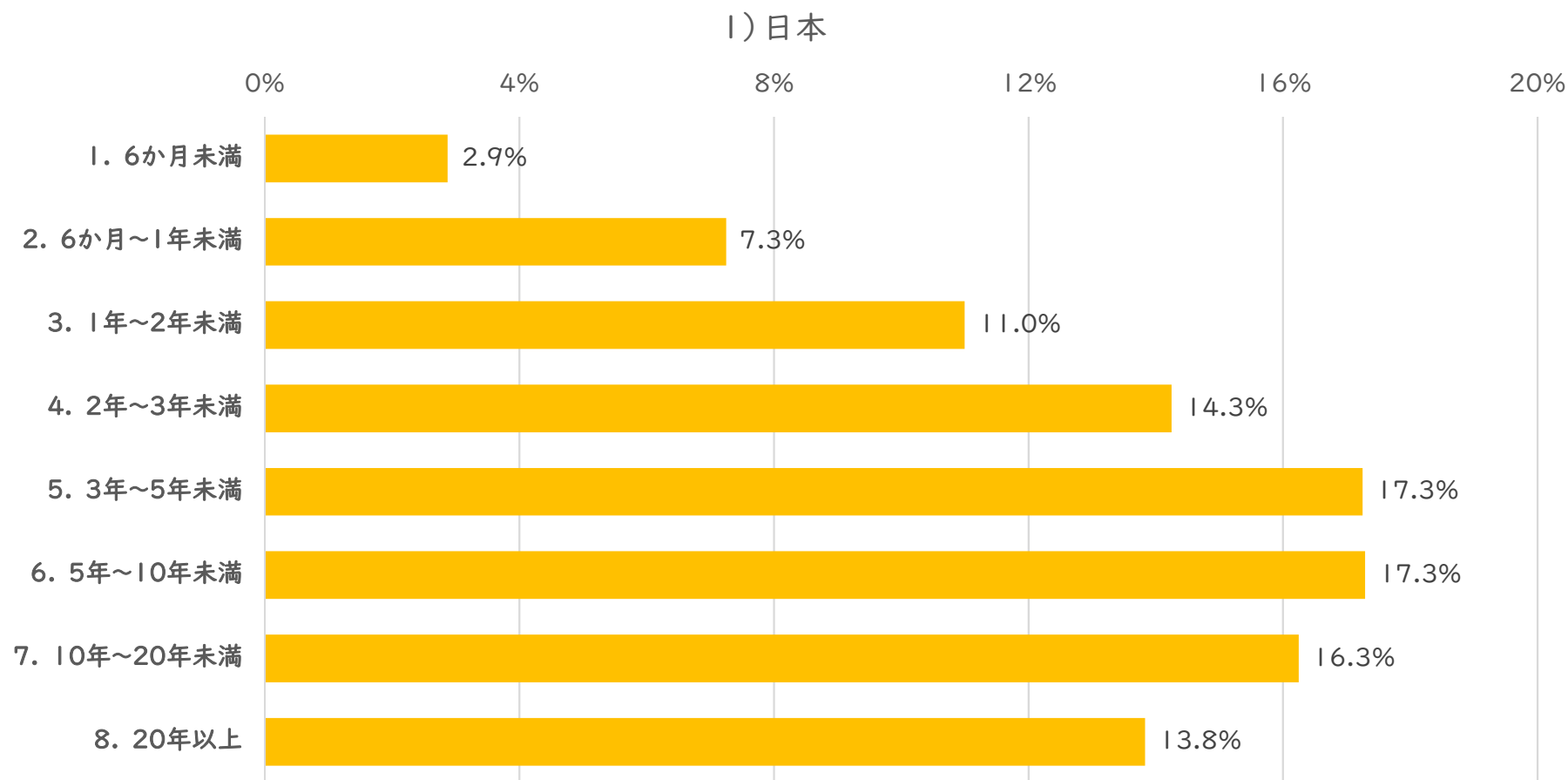


「6+」の回答	
同居人数	回答数
6	6
7	7
8	5
9	1
10	2
12	1

(N = 1,360)

1:あなたご自身について

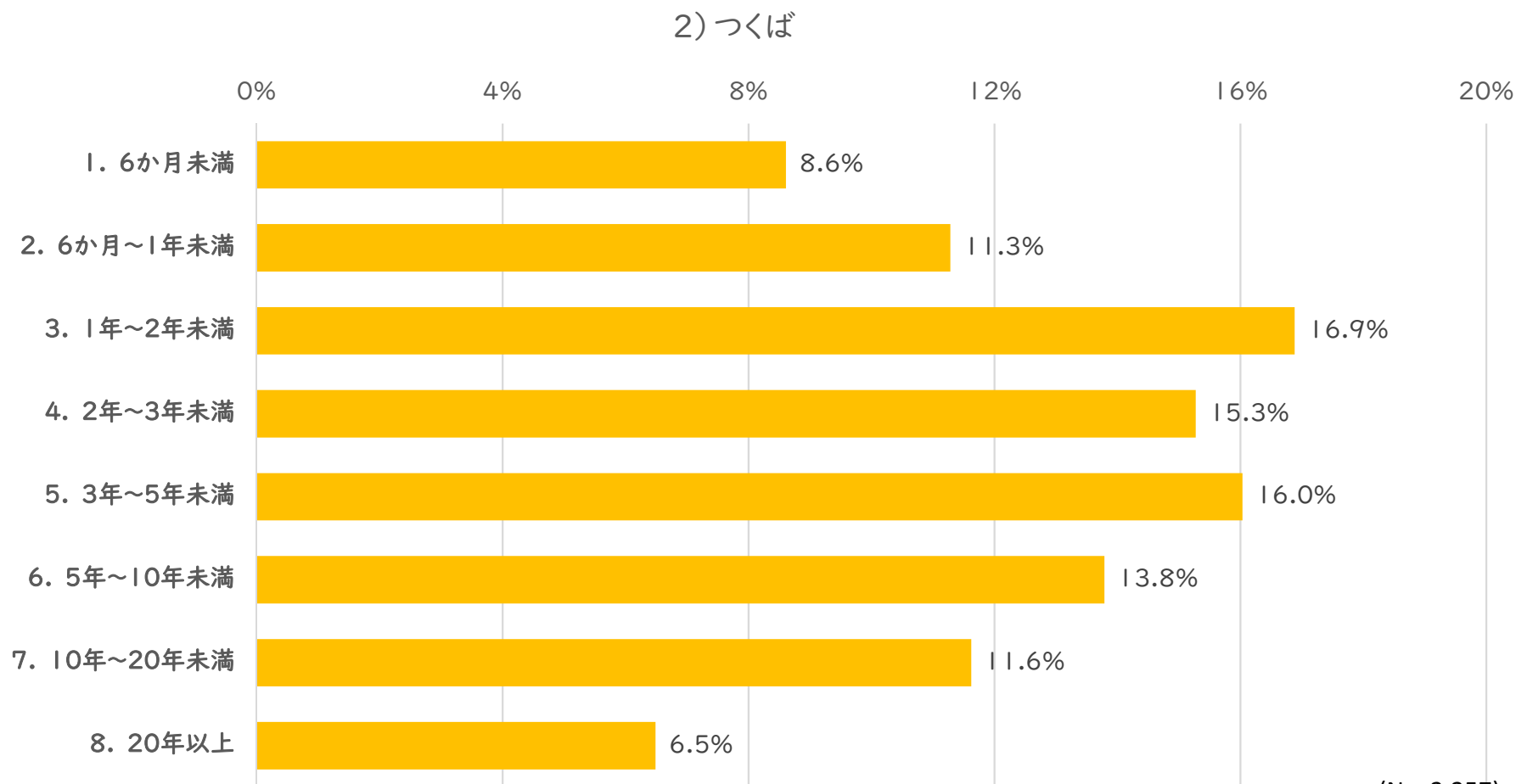
Q10 あなたの日本及びつくば市での居住期間はどのくらいですか？
(それぞれ1つずつ、をしてください)



(N = 2,400)

1:あなたご自身について

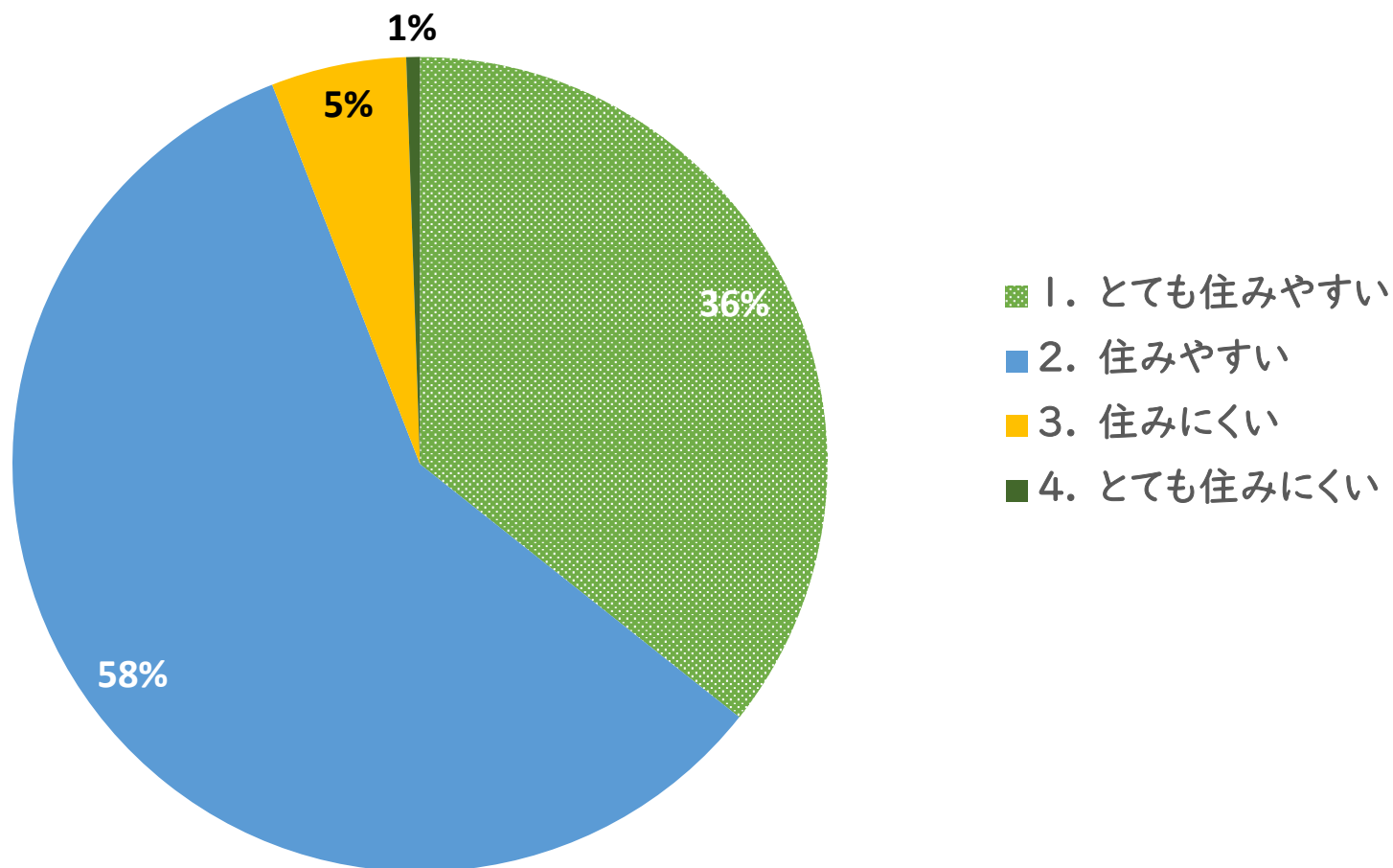
Q10 あなたの日本及びつくば市での居住期間はどのくらいですか？
(それぞれ1つずつ、をしてください)



(N = 2,357)

2:つくば市について

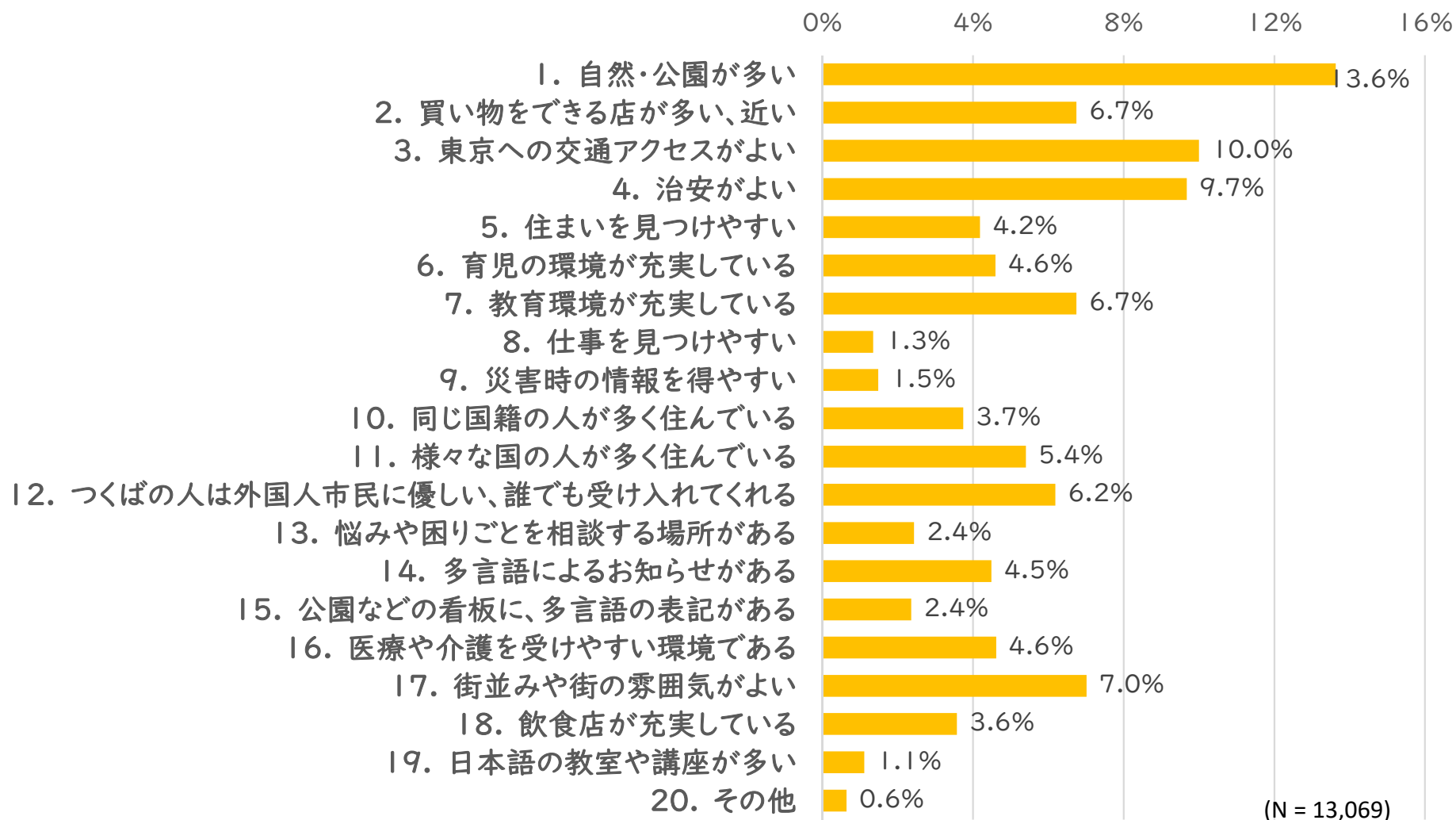
Q11 つくば市は、住みやすいですか？(1つにしてください)



(N = 2,423)

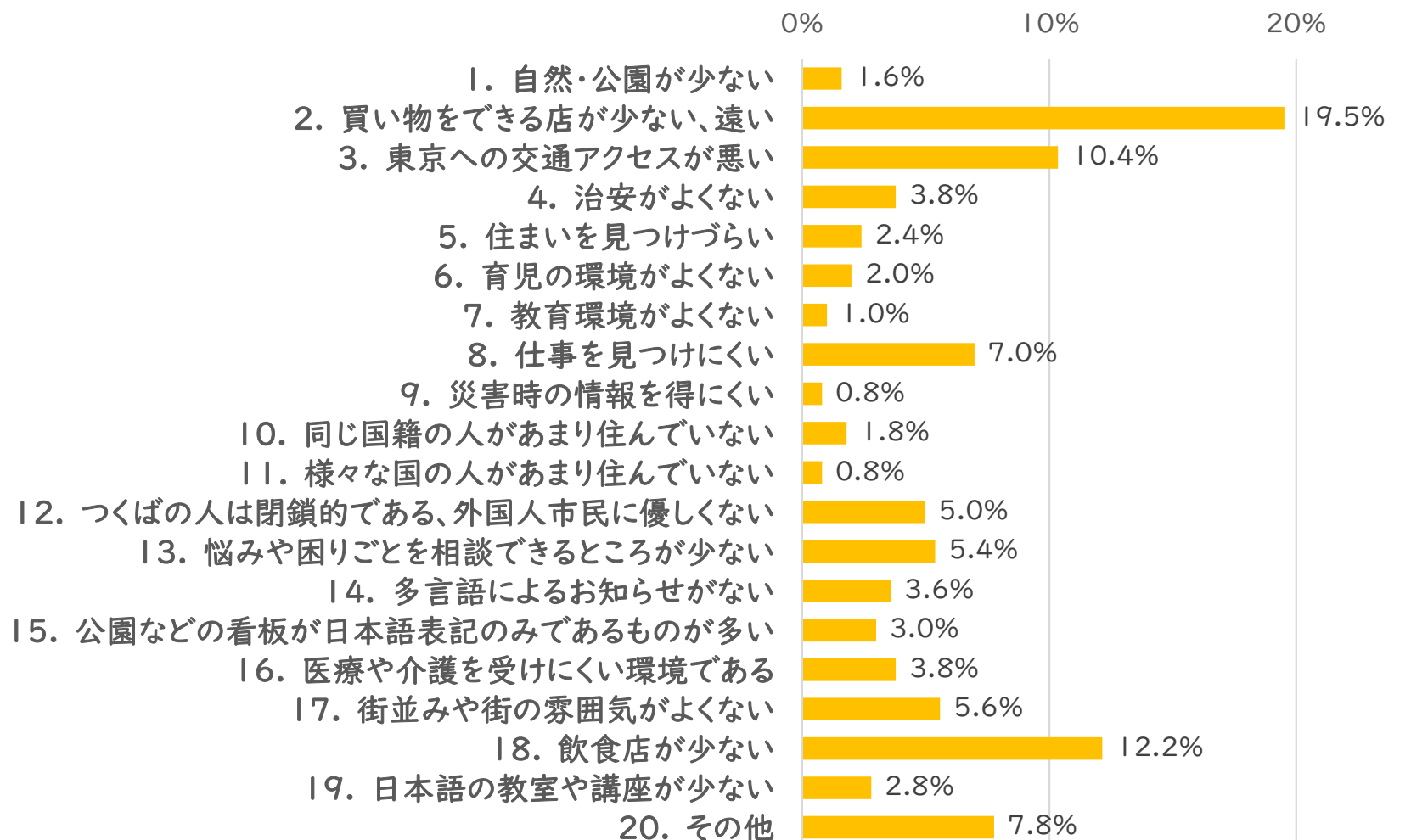
2:つくば市について

Q12 「住みやすい」と感じる理由は何ですか？（あてはまるものすべてにしてください）



2:つくば市について

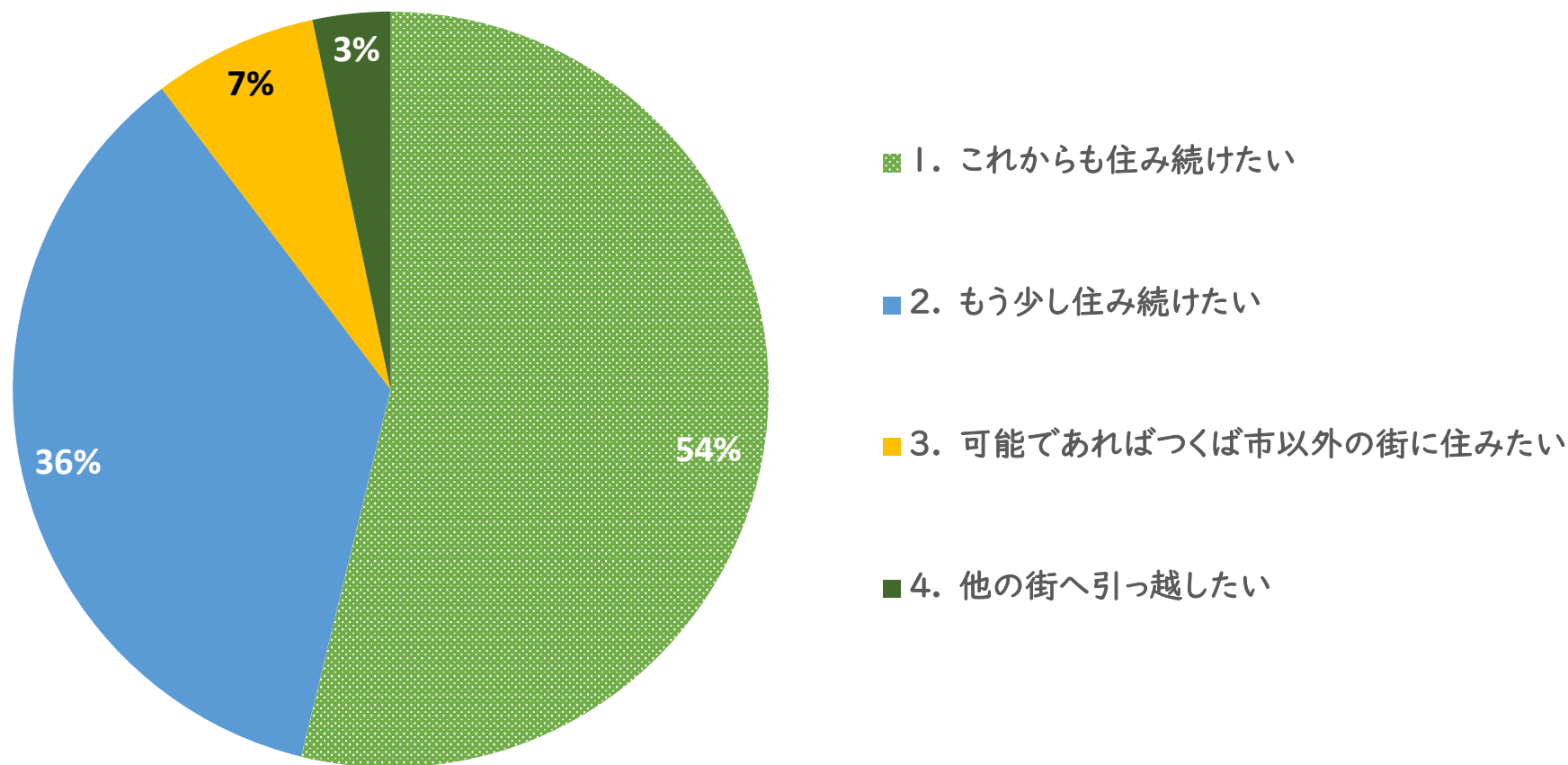
Q13 「住みにくい」と感じる理由は何ですか？（あてはまるものすべてにしてください）



(N = 502)

2:つくば市について

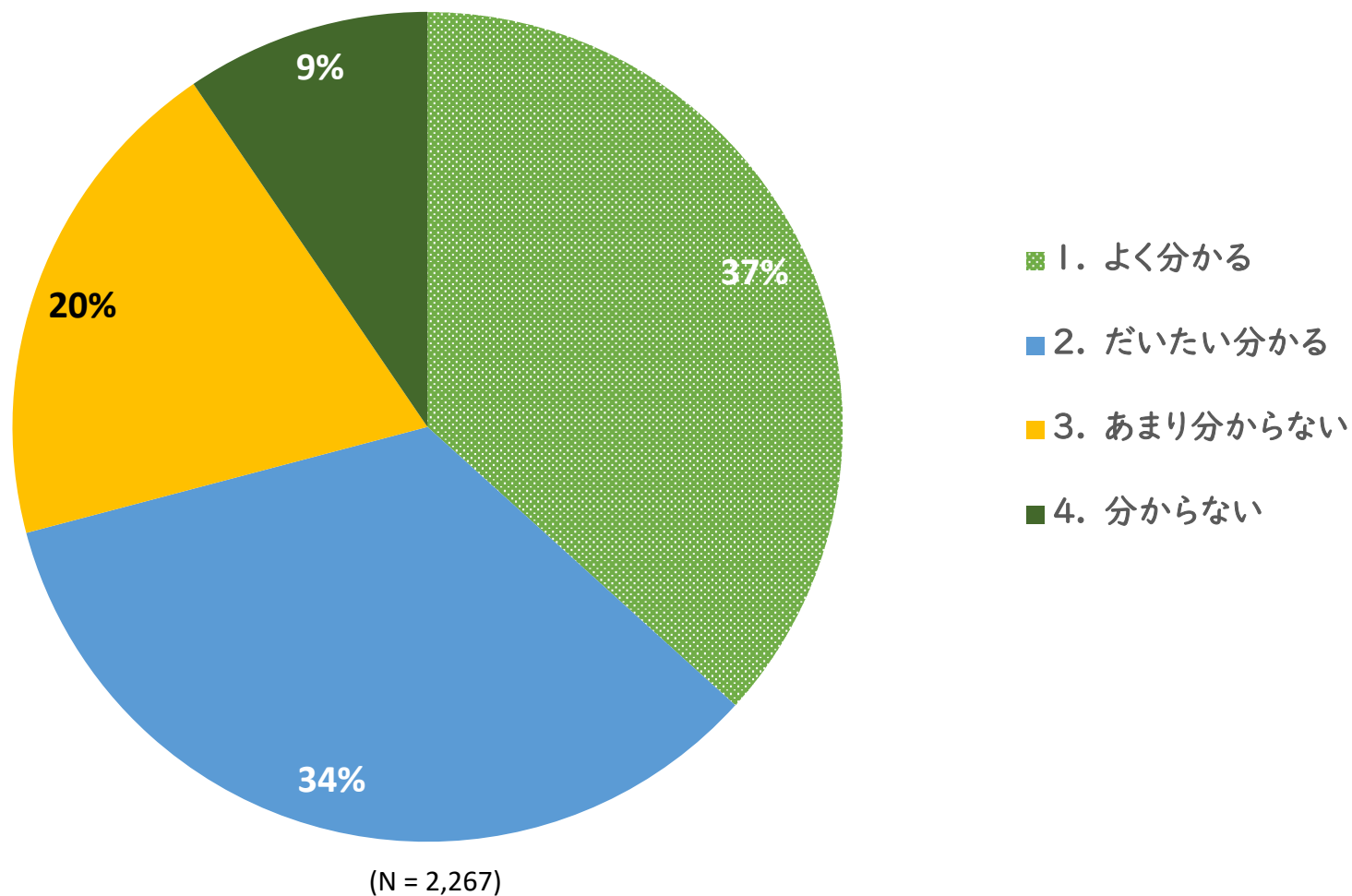
Q14 あなたは、これからもつくば市に住み続けたいですか？(1つに☑してください)
※帰国が決まっている人も、今後も日本に住めるならどう思うか、教えてください。



(N = 2,405)

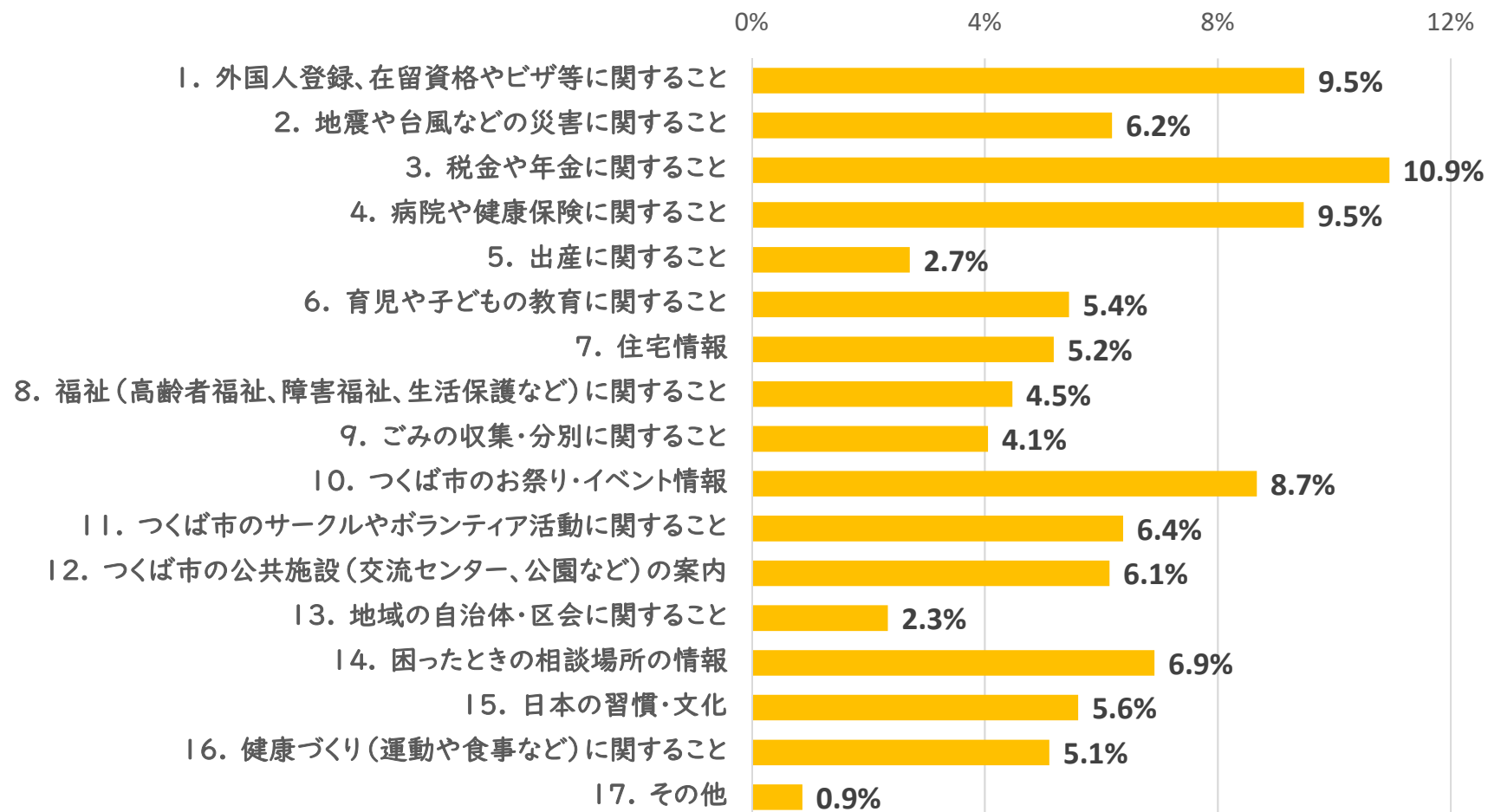
3:つくば市からの情報提供について

Q15 市役所から届く日本語の通知やチラシ・パンフレット等は、どの程度、理解できますか？
(1つにしてください)



3:つくば市からの情報提供について

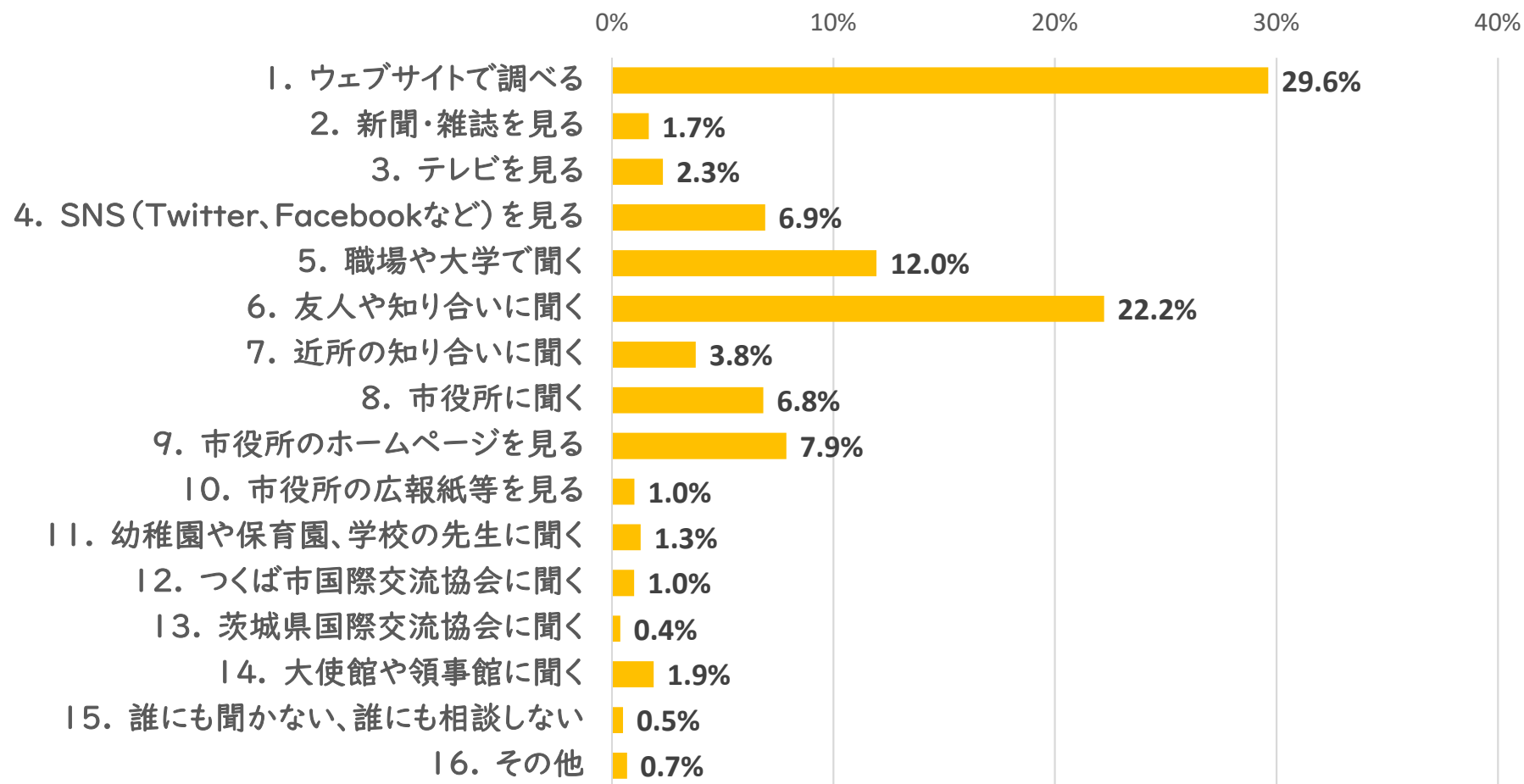
Q16 あなたが、つくば市での生活や市役所での手続きの方法について、知りたいことは何ですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 11,510)

3:つくば市からの情報提供について

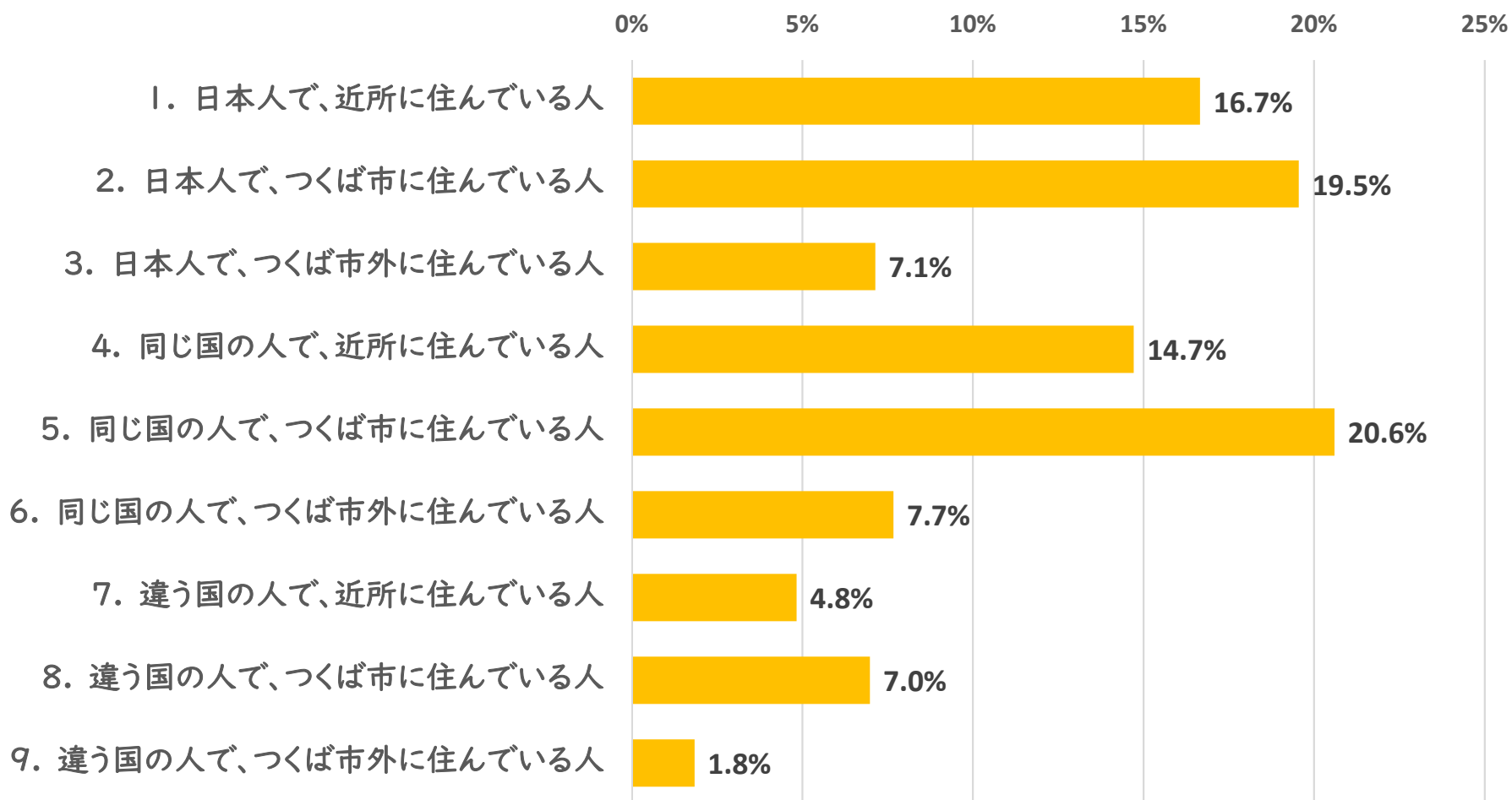
Q17 あなたは生活のことで知りたい情報があるときや困ったとき、どうしますか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 6,736)

3:つくば市からの情報提供について

Q18 (「5」、「6」、「7」にをした方のみ回答) 聞く相手について、教えてください。
(あてはまるものすべてにしてください)

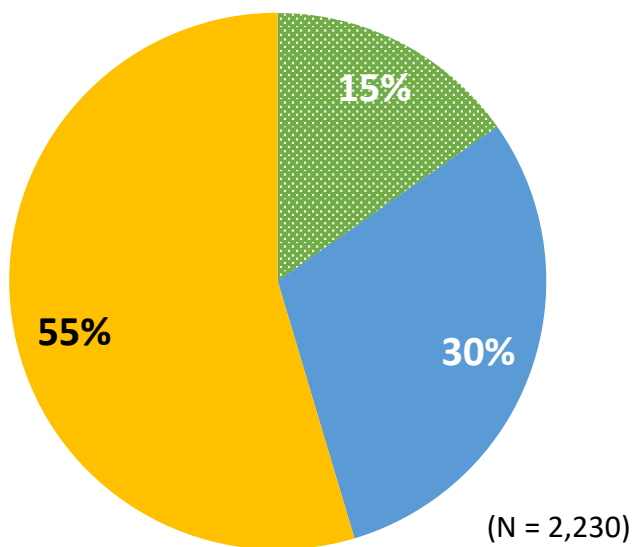


(N = 3,908)

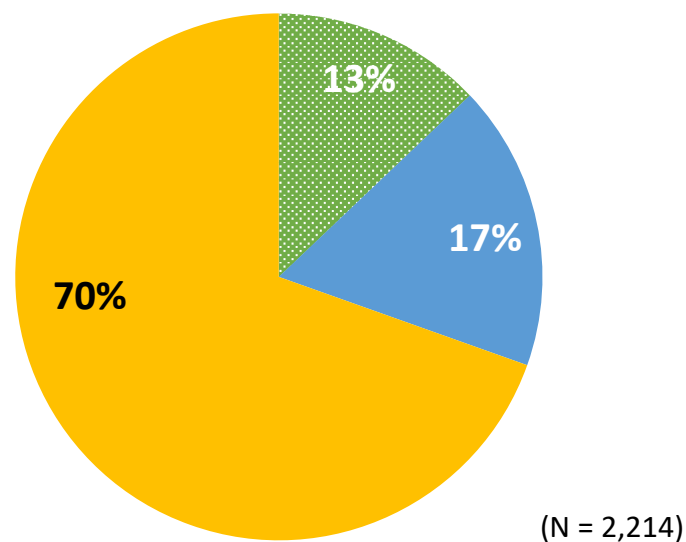
3:つくば市からの情報提供について

Q19 つくば市では、市の情報を様々な方法で提供をしています。この中で、あなたが知っているもの、利用したことがあるものを教えてください。（それぞれ1つずつ、をしてください）

(1)「広報つくば」(日本語)



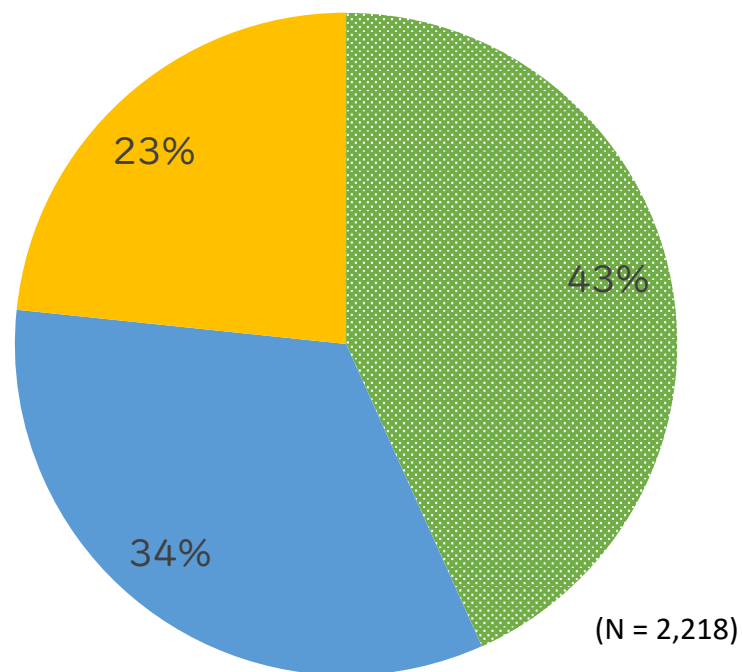
(2)「CITY NEWS TSUKUBA」
(英・中・韓・ベトナム・インドネシア・タイ
・スペイン・ポルトガルの外国語広報紙)



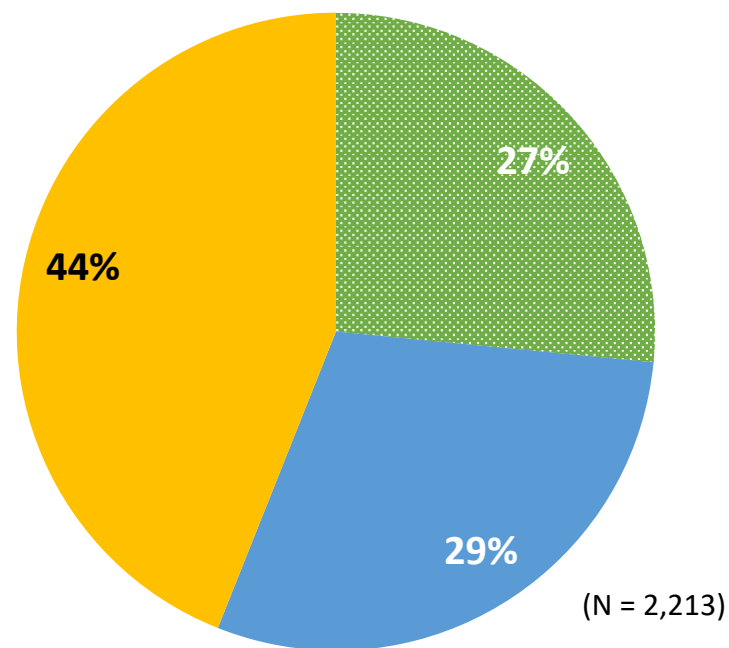
■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

3:つくば市からの情報提供について

(3)つくば市ホームページ(日本語)



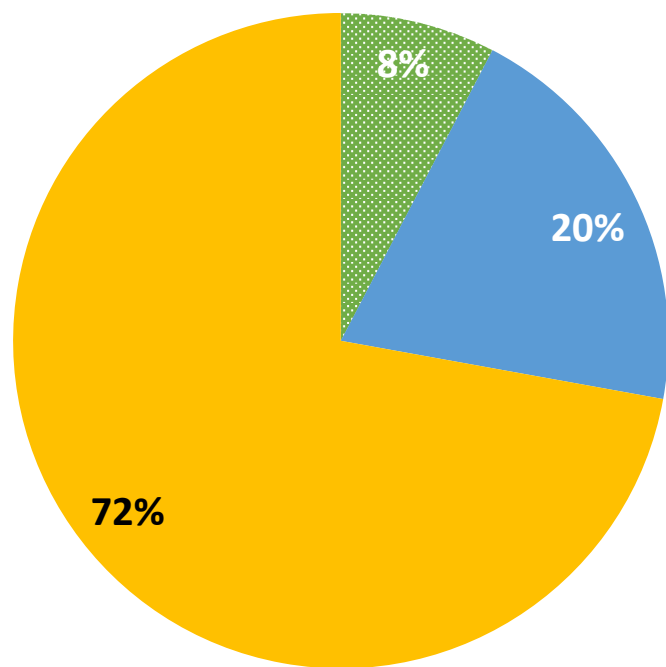
(4)つくば市多言語版ホームページ
(やさしい日本語・英・中・韓)



■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

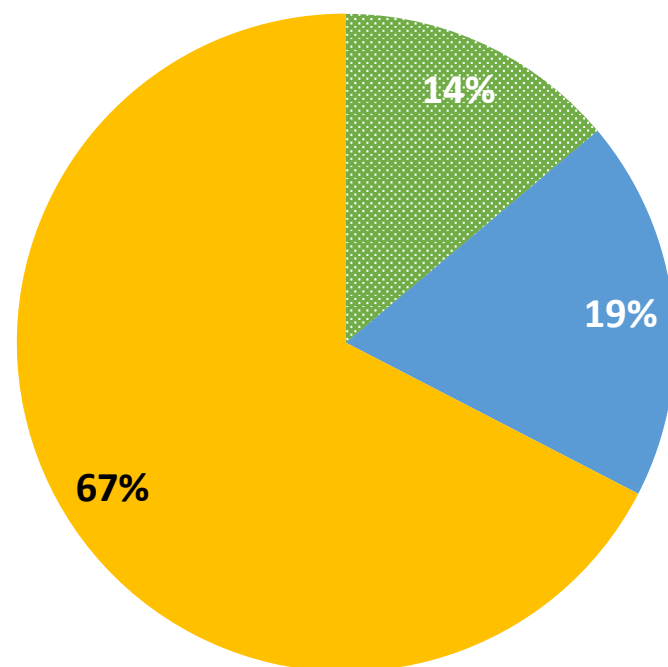
3:つくば市からの情報提供について

(5)「つくば市民べんり帳」



(N = 2,208)

(6)「Living in Tsukuba」(英・中)

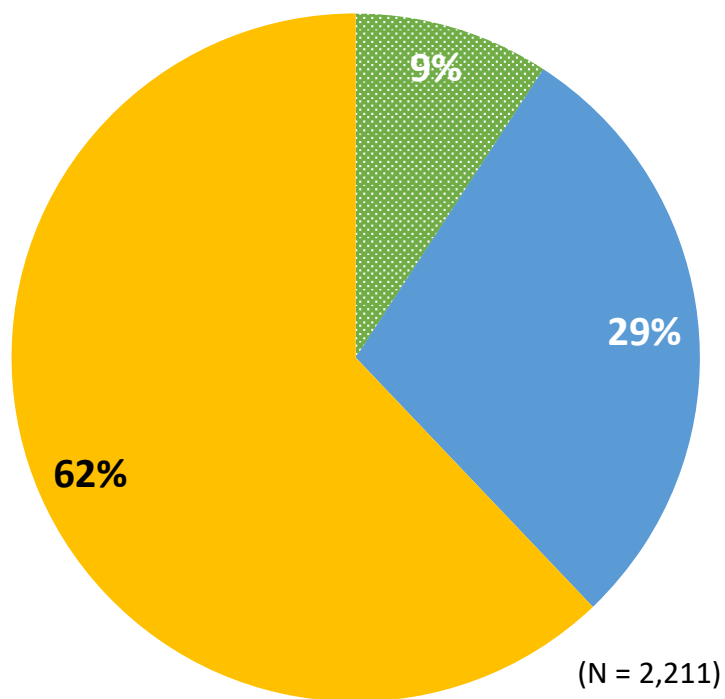


(N = 2,206)

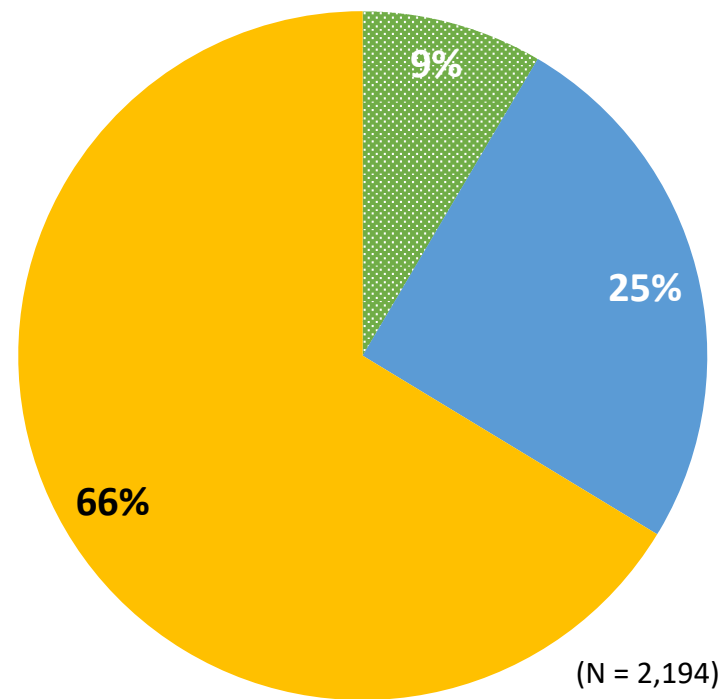
■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

3:つくば市からの情報提供について

(7) つくば市Facebook



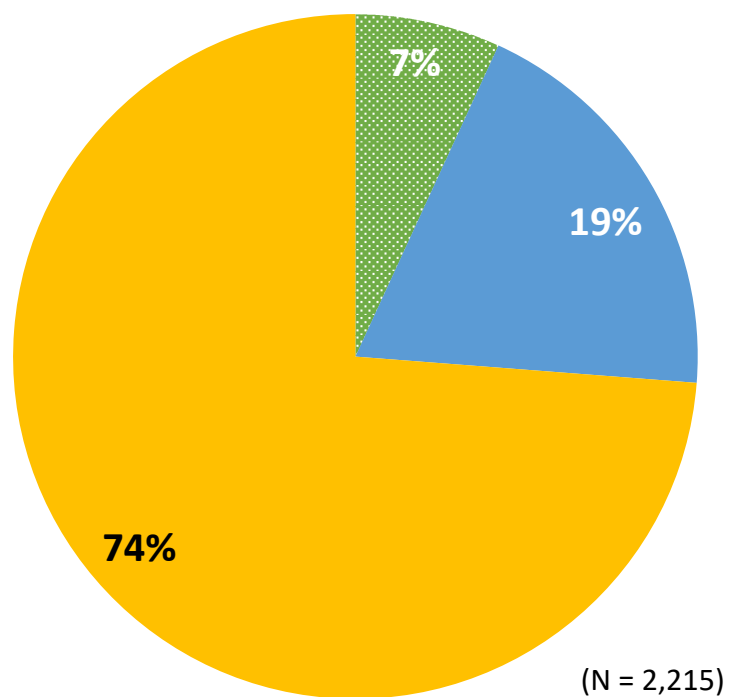
(8) つくば市Twitter



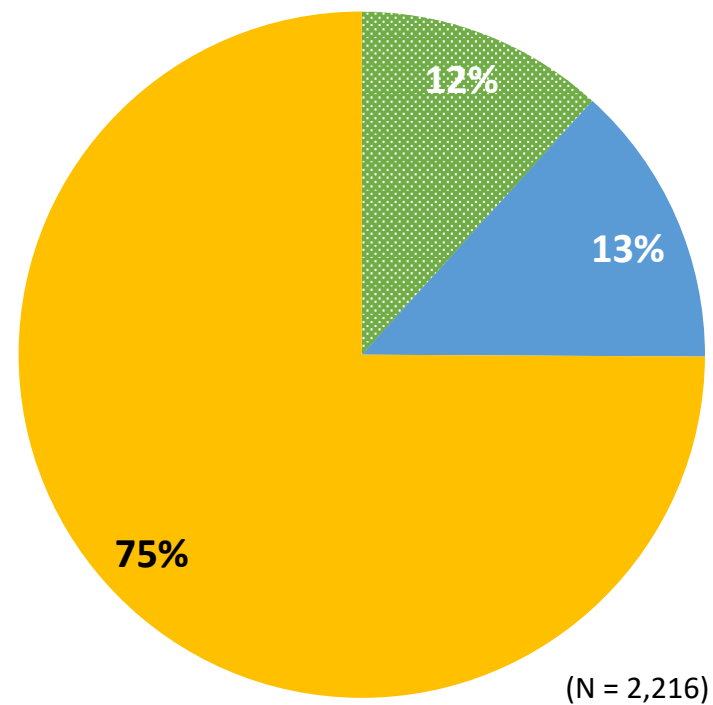
■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

3:つくば市からの情報提供について

(9)「つくば市災害・防災メールサービス」



(10)区会の回覧

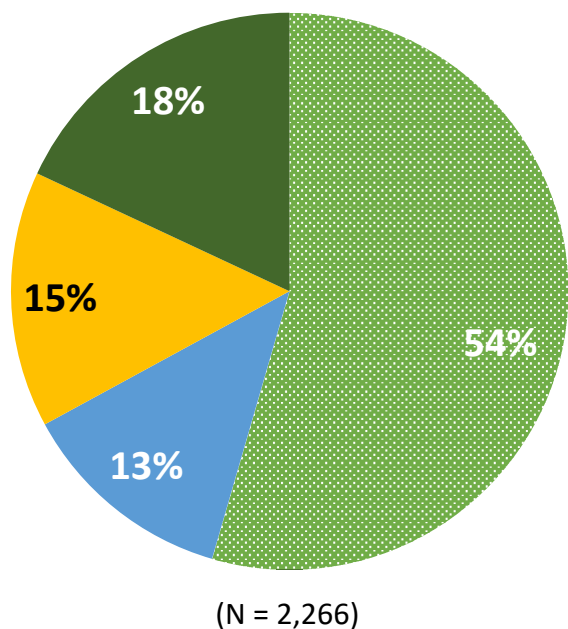


■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

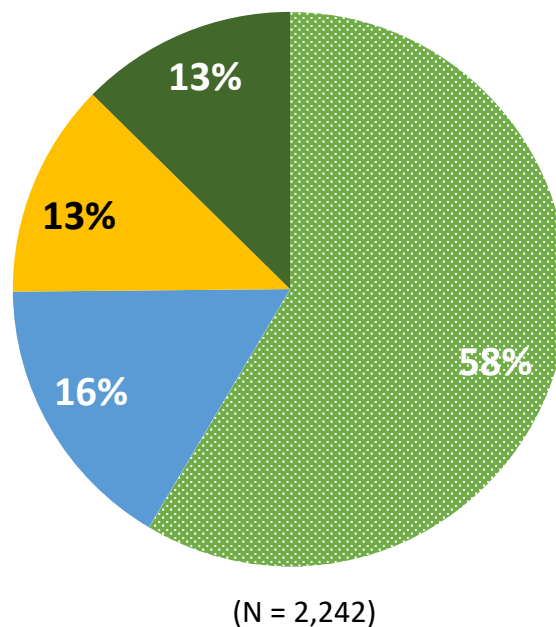
3:つくば市からの情報提供について

Q20 この日本語の意味を理解できますか？「外出自粛」（それぞれ1つずつ、をしてください）

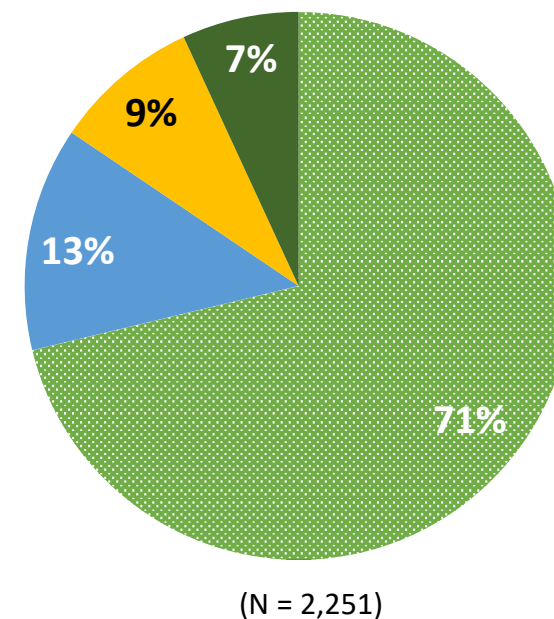
①普通の日本語:



②ルビ(読みがな)付の日本語:



③やさしい日本語:



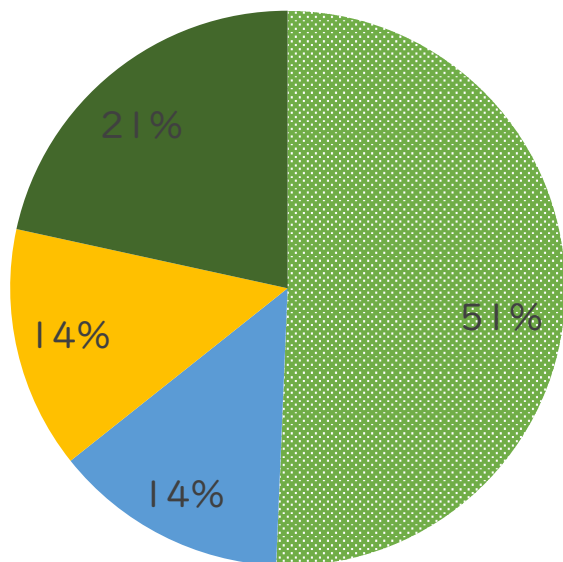
■ 1. 分かる ■ 2. だいたい分かる ■ 3. あまり分からない ■ 4. 分からない

3:つくば市からの情報提供について

Q21 この日本語の意味を理解できますか？

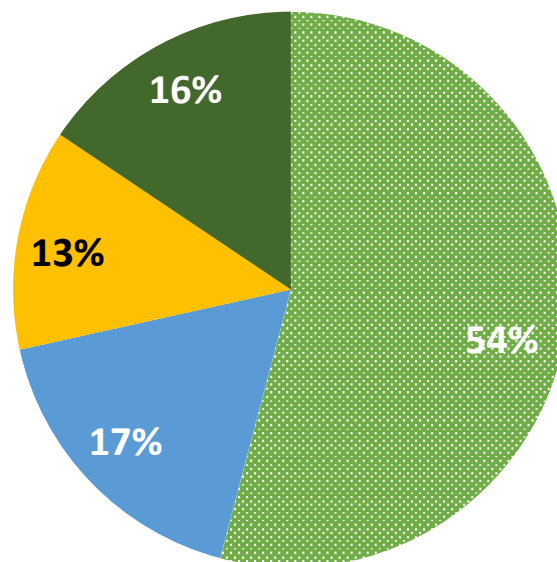
「土砂災害特別警報が出されたことをうけて、避難指示を発令しました。」
(それぞれ1つずつ、をしてください)

①普通の日本語:



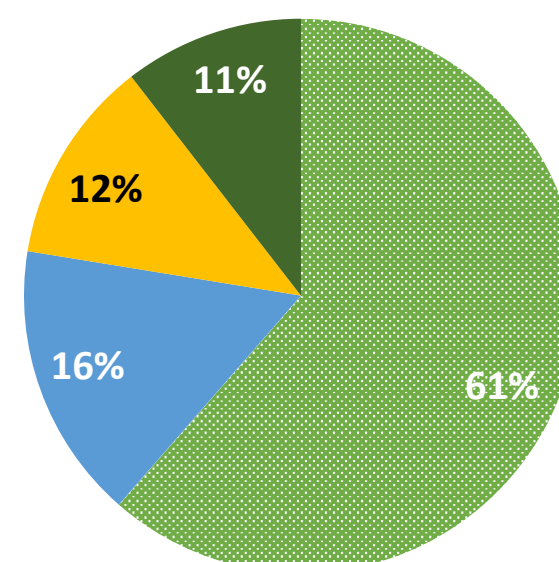
(N = 2,266)

②ルビ(読みがな)付の日本語:



(N = 2,242)

③やさしい日本語:

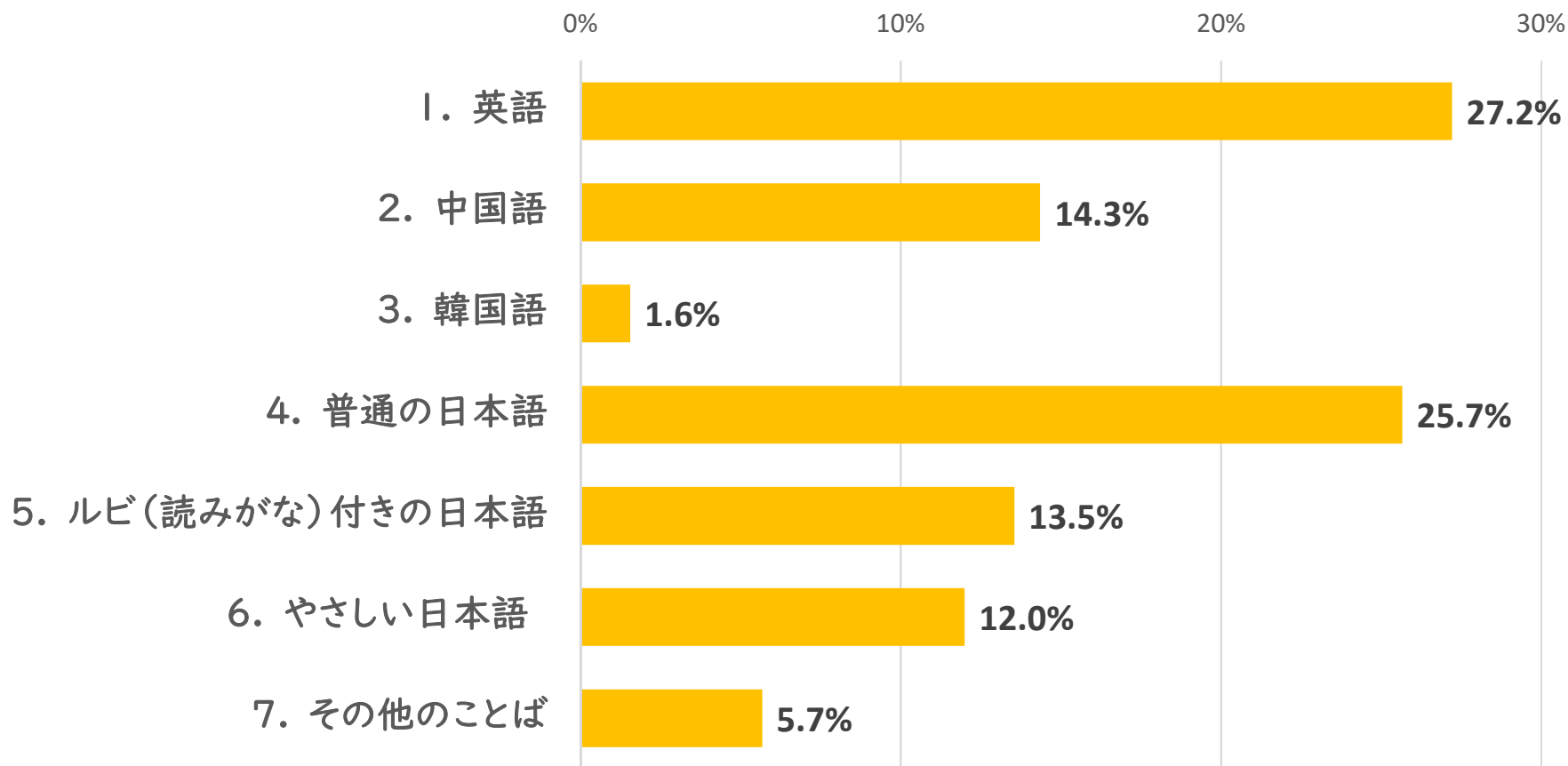


(N = 2,247)

■ 1. 分かる ■ 2. だいたい分かる ■ 3. あまり分からない ■ 4. 分からない

3:つくば市からの情報提供について

Q22 あなたは、生活に必要な情報をどの言語で読みたいですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 4,119)

3:つくば市からの情報提供について

Q22 あなたは、生活に必要な情報をどの言語で読みたいですか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

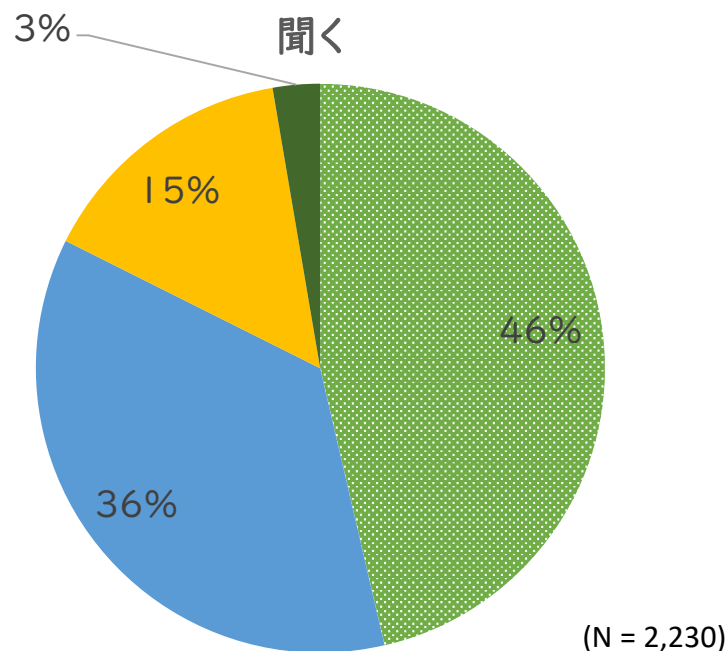
「7.その他」の回答

言語	人数
アラビア語	5
ベトナム語	77
バハサ(インドネシア語)	15
バングラ(ベンガル語)	6
ブラジルポルトガル語	3
ビルマ語(ミャンマー語)	1
カンボジア語	2
英語	1
スペイン語	28
ペルシャ語	1
タガログ語(フィリピン語)	2
フランス語	11
ヒンディー語	3
イタリア語	1
英訳付きの日本語	1
ふりがな付きの日本語	2
マレー語	1
マラヤラム語	1
ネパール語	3
ポルトガル語	19
ロシア語	7

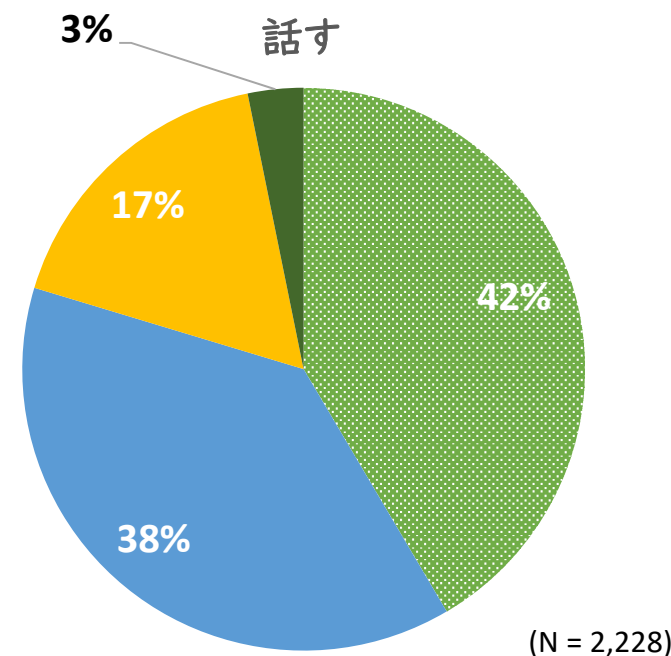
言語	人数
モンゴル語	1
シンハラ語	3
タミル語	4
テルグ語	2
タイ語	20
ウイグル語	1
ウルドゥー語	1
スリランカ語	1
ドイツ語	1
ヘブライ語	1
繁体中国語	4
在住外国人の人口数次第に 決めた方がいい	1
機械で翻訳されず、本当のタイ人 が翻訳したタイ語	1
母語など	1

4: 日本語の勉強について

Q23-Q26 あなたは日本語がどのくらいできますか？(1つにしてください)



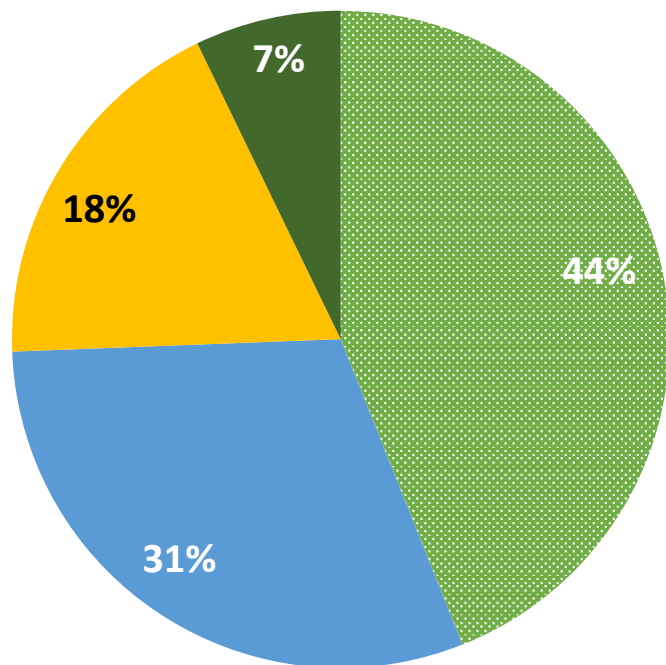
- 1. ニュース・講義・災害のアナウンスなどが聞き取れる
- 2. 簡単な日常会話が聞き取れる
- 3. 短い自己紹介やあいさつが聞き取れる
- 4. 全然聞き取れない



- 1. ニュースや講義の内容について、質問したり、意見を言ったりすることができる
- 2. 簡単な日常会話ができる
- 3. 短い自己紹介やあいさつができる
- 4. 全然できない

4: 日本語の勉強について

読む



■ 1. 新聞や雑誌などを読める

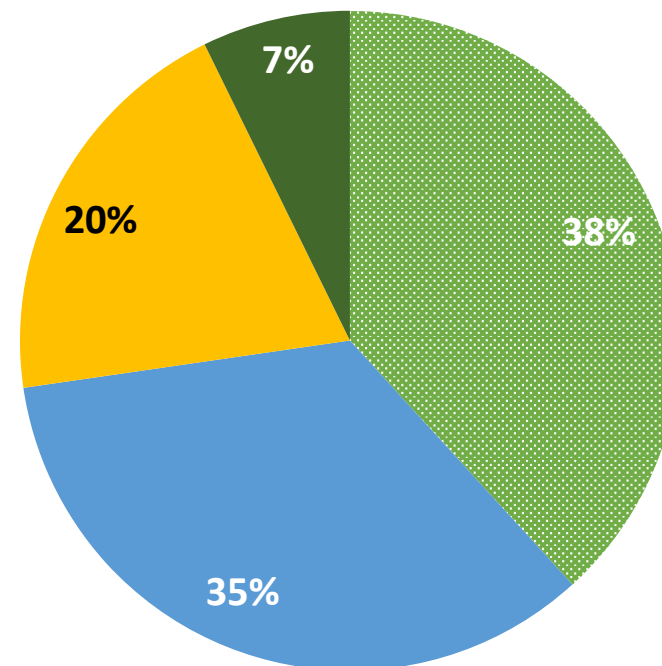
(N = 2,227)

■ 2. 簡単な漢字が書いてある手紙やメールを読める

■ 3. ひらがな・カタカナのある短い文を読める

■ 4. 全然読めない

書く



■ 1. 漢字を使って、レポートや報告書などを書ける

(N = 2,228)

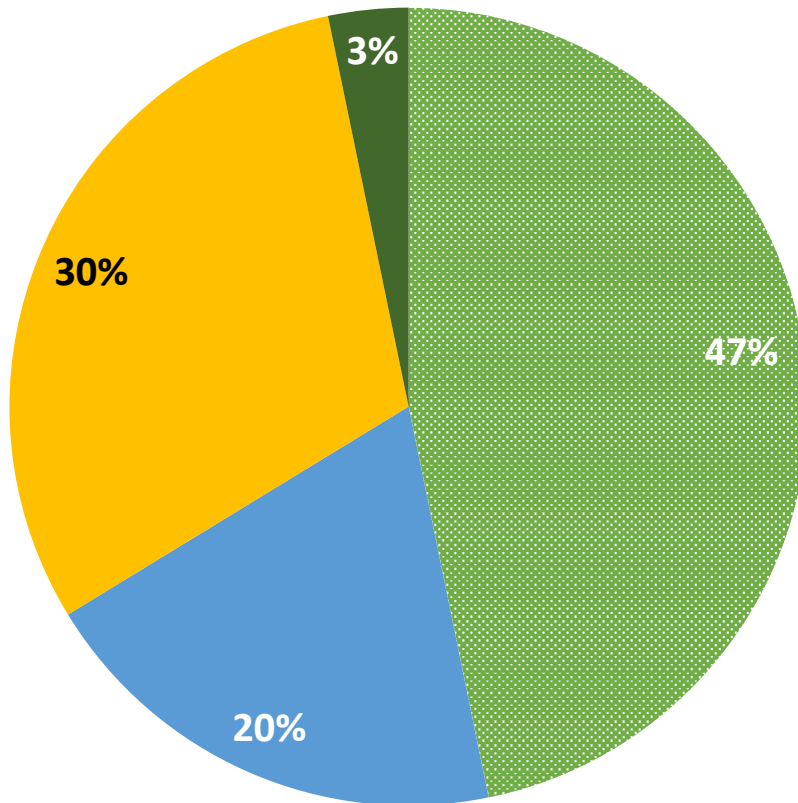
■ 2. 簡単な漢字を使って、手紙やメールを書ける

■ 3. ひらがな・カタカナを使って、申請書に名前や国名を書ける

■ 4. 全然書けない

4: 日本語の勉強について

Q27 あなたは、日本語を勉強していますか。また、勉強したいですか。
(あてはまるものすべて してください)

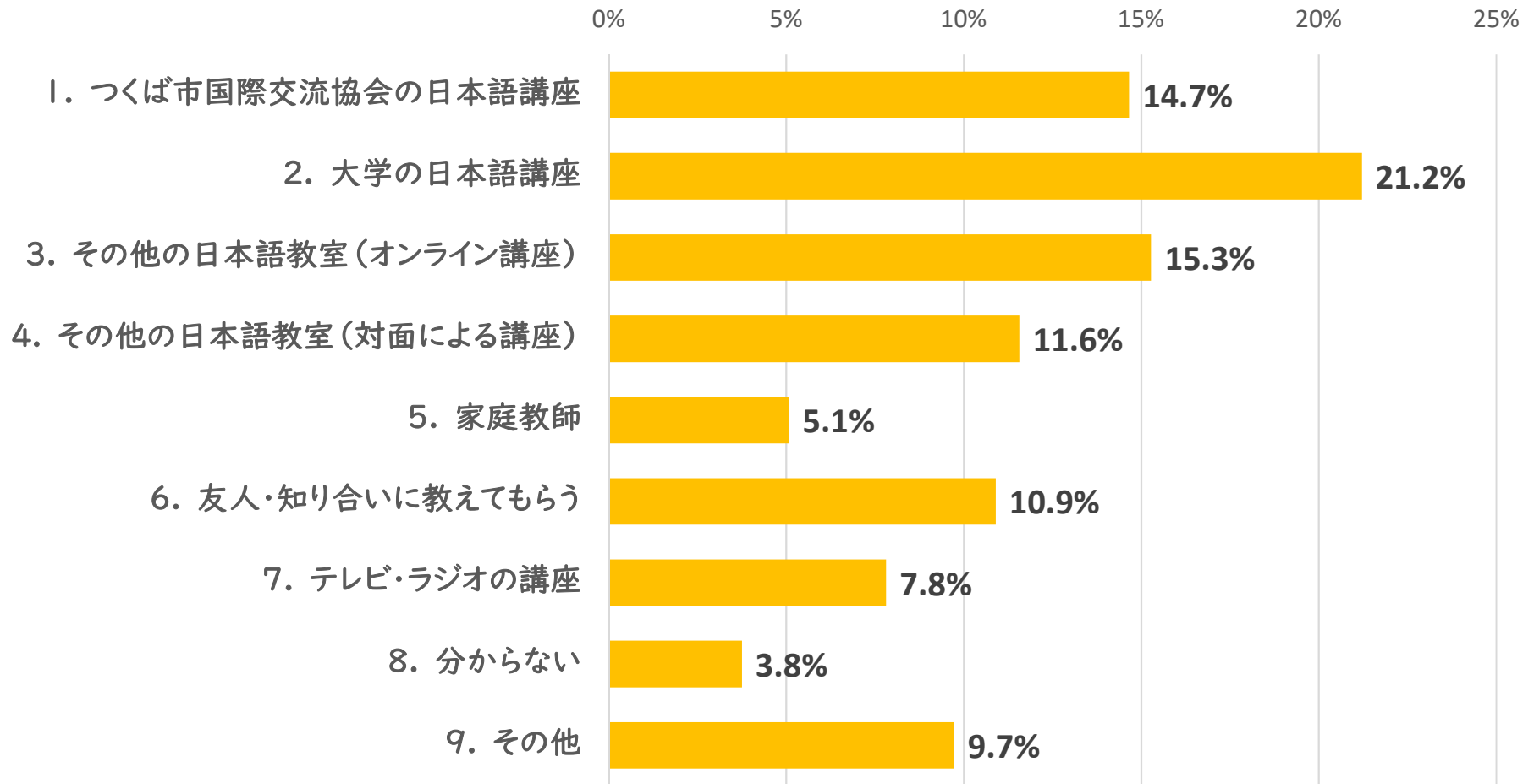


(N = 2,221)

- 1. 勉強している
- 2. 勉強していないが、これから勉強したい。
- 3. 昔、勉強していた。
- 4. 勉強していないし、これからも勉強したくない。

4: 日本語の勉強について

Q28 あなたは、どこで日本語を勉強していますか？または、どこで勉強したいですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 2,559)

4: 日本語の勉強について

Q28 あなたは、どこで日本語を勉強していますか？または、どこで勉強したいですか？
 (あてはまるものすべてに してください)

「9. その他」の回答

勉強方法	数	詳細
JICAの講座	1	
JICEの講座	1	
JITSECの講座	1	
KUMON	1	
Muốn học	1	
Youtube	5	
アニメ	4	
アプリ	5	Duolingo(2)、CHPlay、Drops、NHK、Japanesepod101
インターネット	17	中国語学習サイト
しない	18	すでに話せる(4)、仕事で勉強する時間がない、自然と身につけた(在日・日本生まれ)(13)
テレビ・映画・ドラマ	9	
ゲーム	2	ニンテンドーDS 漢字検定、ゲームで日本人との協力関係を築くことで共有意識のなかで日本語を身につけたい

勉強方法	数	詳細
漫画・本	14	
中・高校	1	
国の大学	8	中国(大学・高校)(7)
職場	7	
他の教育機関	1	
独学	111	参考書を買って自分で勉強してる、外国人に教える日本語ではなく、学校で(日本人に)教える国語など自力で勉強している、暗記カード
日本語学校	13	東京の学校のように試験やテストがある学校のようにきちんとした形で勉強したいが、3人の子供がいて生活費を捻出するのが大変なので、できれば少しでも安くしたい。
大学・大学院	5	日本語学科出身、日本語を勉強していないが、大学の授業は全て日本語で受けている

4: 日本語の勉強について

Q28 あなたは、どこで日本語を勉強していますか？または、どこで勉強したいですか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

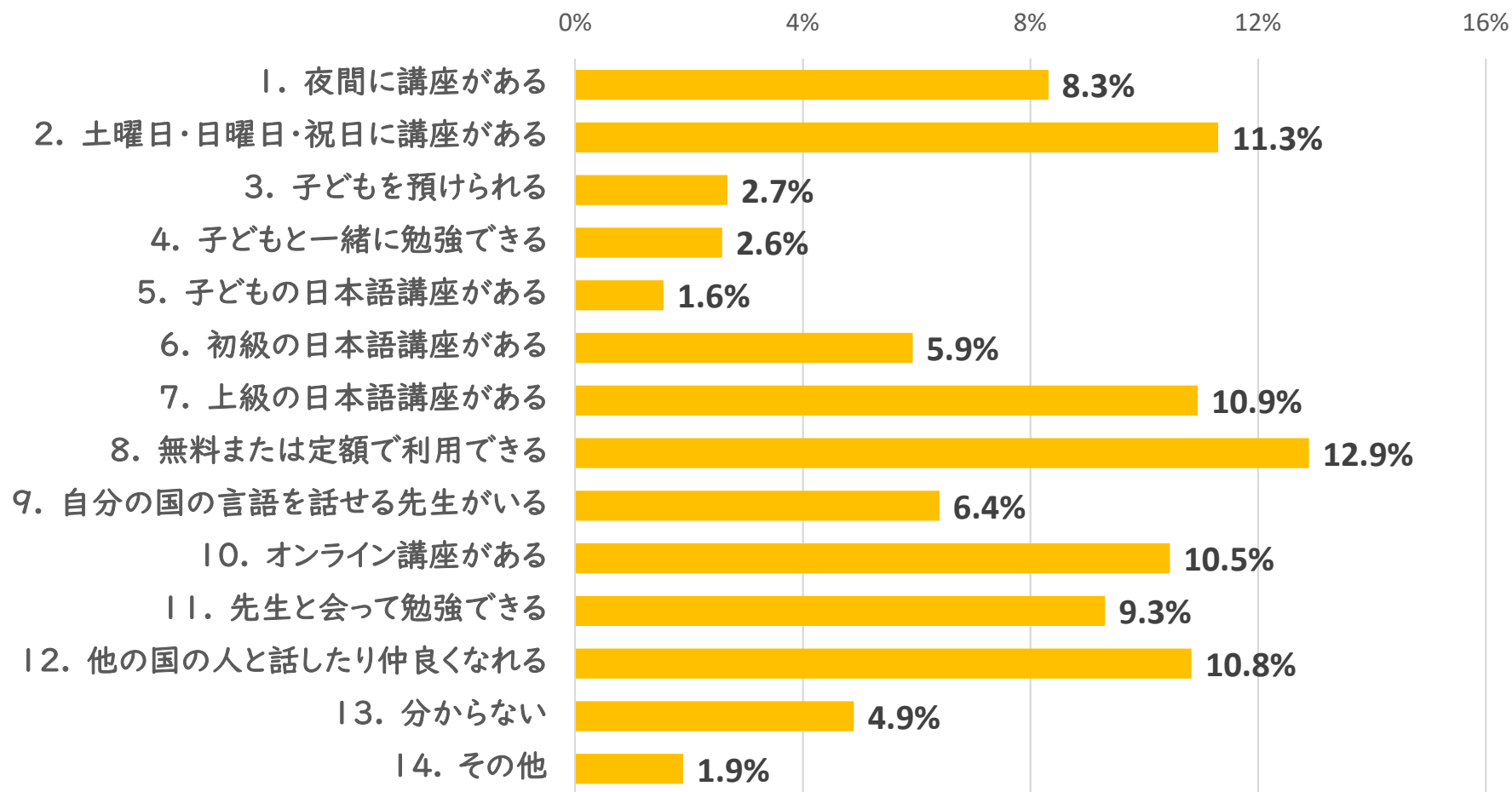
「9. その他」の回答

勉強方法	人数	詳細
友人	4	
覚えてない	1	勉強したのが昔すぎて
娘の小学校と 学校(小中高)	1 9	
政府の無料レッスン	1	
家族(妻・夫・パートナー・ 子ども)	5	配偶者(2)、娘は公文式 に通っているので私に教 えてくれます(1)
市役所が提供する無料 のコースを利用したい	1	
日本語検定1級資格所 有者です	1	
学術論文	1	

勉強方法	人数	詳細
無料言語トレーニングコー ス	1	
ラジオ	1	
知らない単語が出たら調 べる程度	1	
週末に受けられる講座が ある	2	
新聞	2	
雑誌	1	
日常	3	

4: 日本語の勉強について

Q29 あなたは、今後、日本語教室に通うなら、どのような日本語教室に通いたいですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 5,530)

4: 日本語の勉強について

Q29 あなたは、今後、日本語教室に通うなら、どのような日本語教室に通いたいですか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

「14. その他」の回答

回答
JLPT N2レベル
YouTube
アラビア語講師による授業
インターネットで勉強する
エスパニョール
オンラインではない
オンラインの漢字練習・学習教室。任天堂の漢字検定アプリは素晴らしいが、中程度の日本語能力を持つ外国人向けに少し改良すると更に良くなると思う
スピーキングやリスニングの練習ができる教室
ビジネス日本語(2)
日本語を学びたい人で、日本の文化や教えてくれる講師に知識と敬意を持っている人だけが入学できるクラス。
専門用語に詳しい教室
日本語検定が取れるを勉強したい
無料
日本語と英語のバイリンガル講師によるクラス
日本人と日本語で会話ができるクラス

回答
近い場所
ハイレベルなフリーカンバセーションのクラスで、自分の興味のあるトピックについて話し合う(新聞の抜粋や本の抜粋を読むこともあるが、通常の教具やドリルを使わず、純粋に会話で流暢さを向上させる)。
辞書的な意味だけでなく、言葉の使い方を教えてくれるクラス
茨城で使われている日本語を学ぶことができる教室。擬音語・擬態語が学べる教室
学校
古典的な日本語のクラス
午後7時15分以降のクラス
午前中に開催されるクラス
朗読教室、漢字の勉強、高齢者向け
ライティング・イントネーション
会話や自然な使い方ができるクラス
日本語を勉強したい家族と一緒に勉強できる講座

4: 日本語の勉強について

Q29 あなたは、今後、日本語教室に通うなら、どのような日本語教室に通いたいですか？
(あてはまるものすべてに してください)

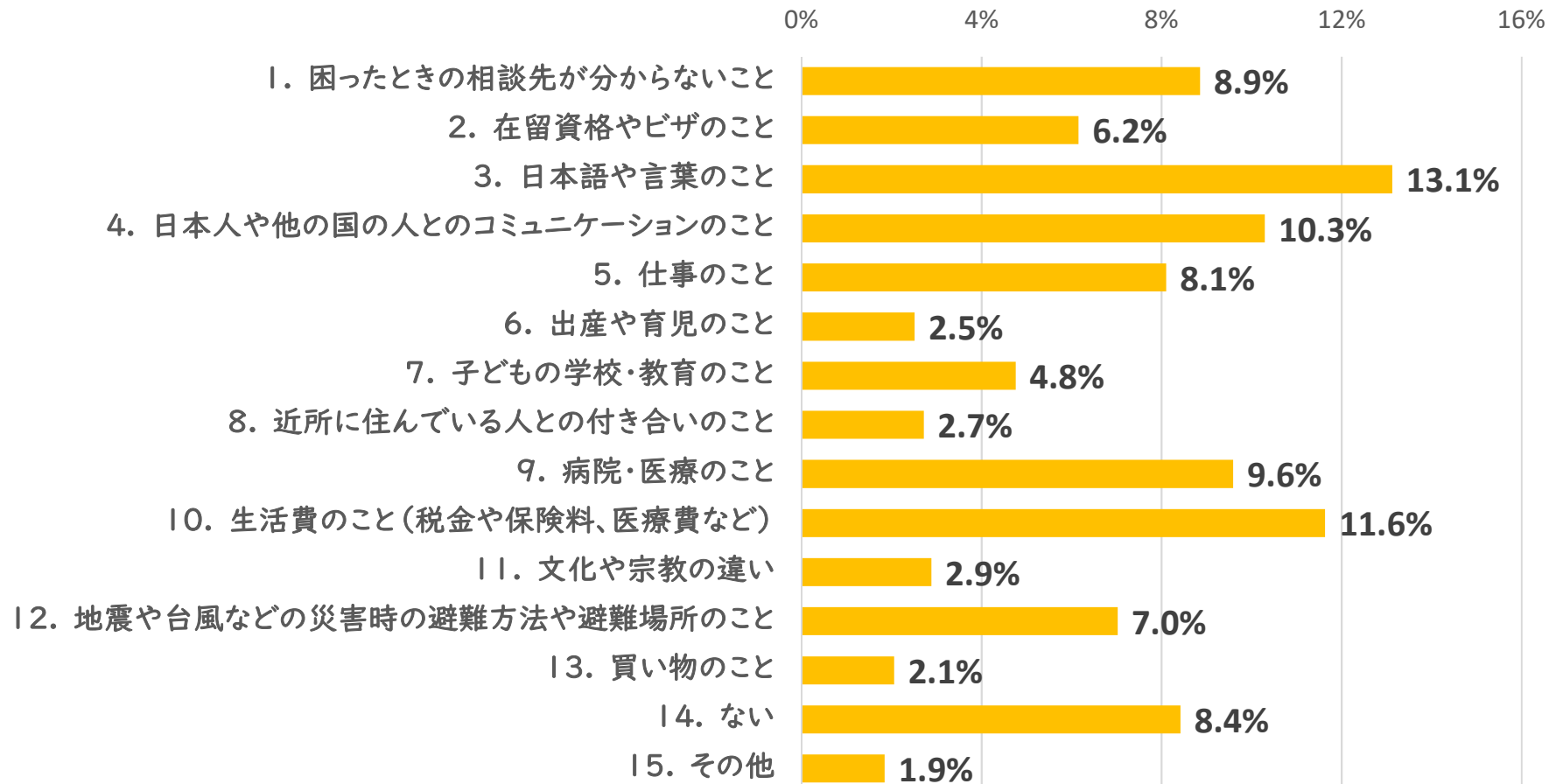
「14. その他」の回答

回答
自分の日本語レベルを把握して、会話や漢字の読み方などのスキルを向上させるための準備をしてくれるプライベートチューターを希望
個人授業
ボランティアではなくプロの日本語教師による授業
自分のスケジュールに合わせて調整できるフレキシブルなクラス
独学(6)
日本語で仕事できる状態。常に読書はしている
テレビを見たりするなど日常生活から勉強する
潜在的に日本語が身についているので、必要性を感じない

回答
今は時間がない(2)
とくになし(5)
通いたくない・不要(33)
通わない・予定なし(15)
過去に日本語を勉強したことがあるが、今後も勉強するつもりはない
すでにNIを取得しているので、もう授業を受けるつもりはない。毎日、日本語を話すようにする。
来日して長く、日本語はもう理解できるので、特に必要ない

5:生活について

Q30 あなたは、生活の中で困っていることや不安なことはありますか？
(あてはまるものすべてにしてください)



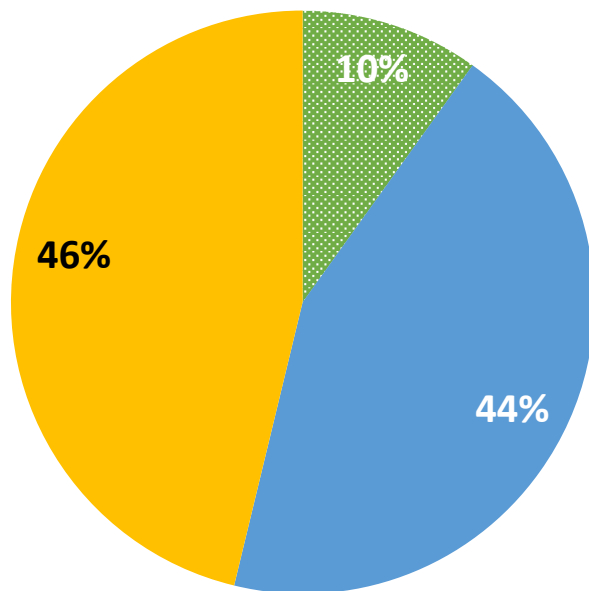
(N = 5,295)

5:生活について

Q31 市役所には、外国人市民のみなさんが困ったときに、相談したり、連絡できる場所があります。あなたは知っていますか？また、利用したことはありますか？（1つにしてください）

(1)「つくば市外国人相談窓口」

※市役所にある、外国人市民の皆様向けの相談窓口です(13言語対応)。電話もできます(英語と中国語、日本語対応)。

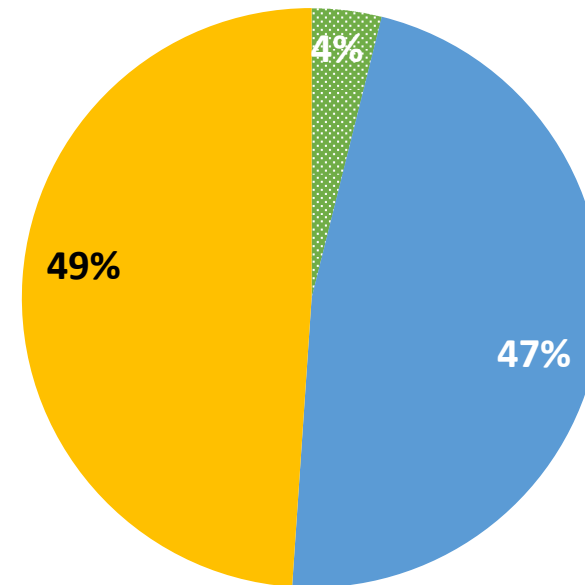


(N = 2,170)

■ 1. 利用している ■ 2. 知っているが、利用したことはない ■ 3. 知らない

(2)「119番」の多言語コールサービス

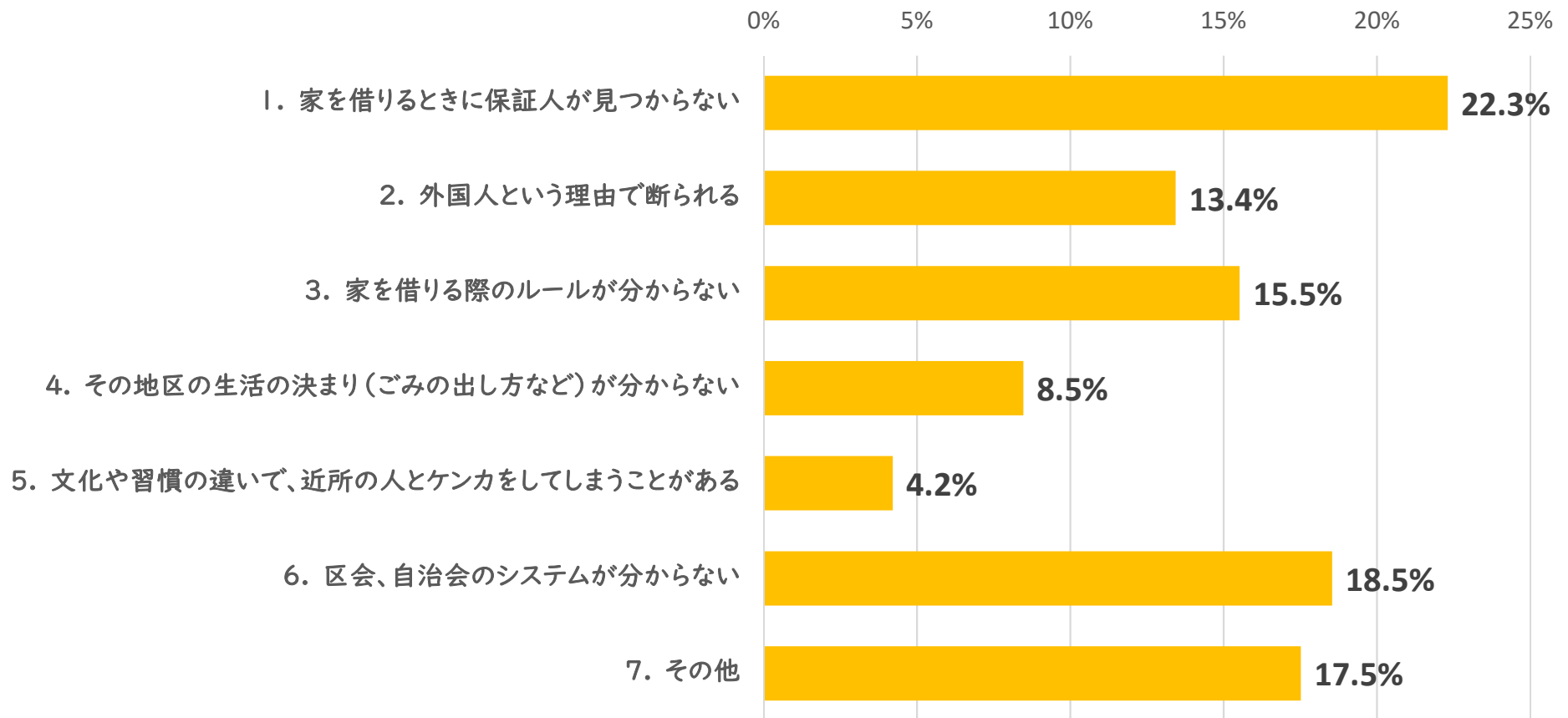
※火事の時や救急車を呼ぶときに、19言語で話せる電話のサービス(24時間、365日対応)。



(N = 2,161)

5:生活について

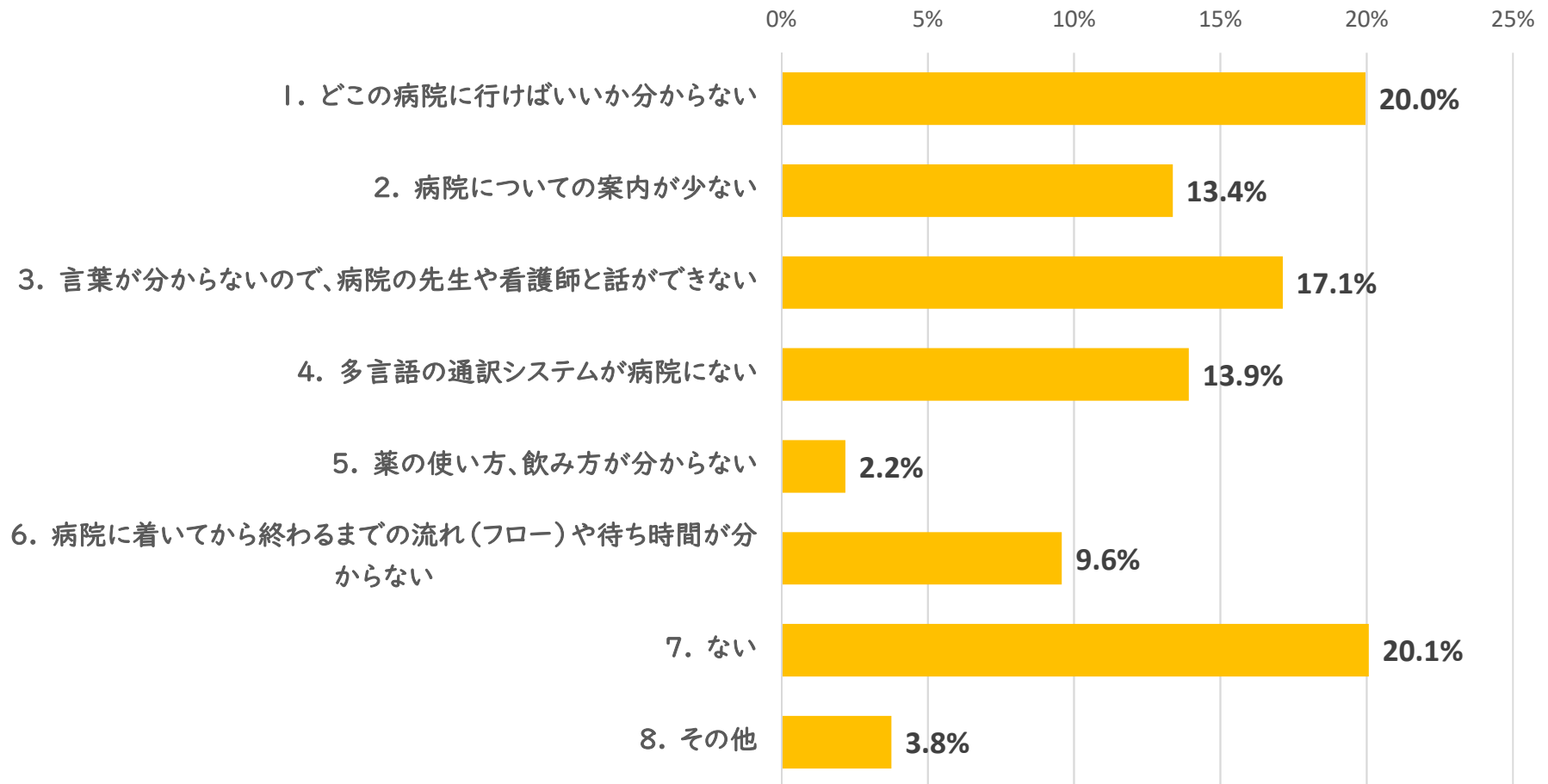
Q32 あなたが、住宅を借りる時に困ったことは何ですか？また、今、困っていることは何ですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 2,255)

5:生活について

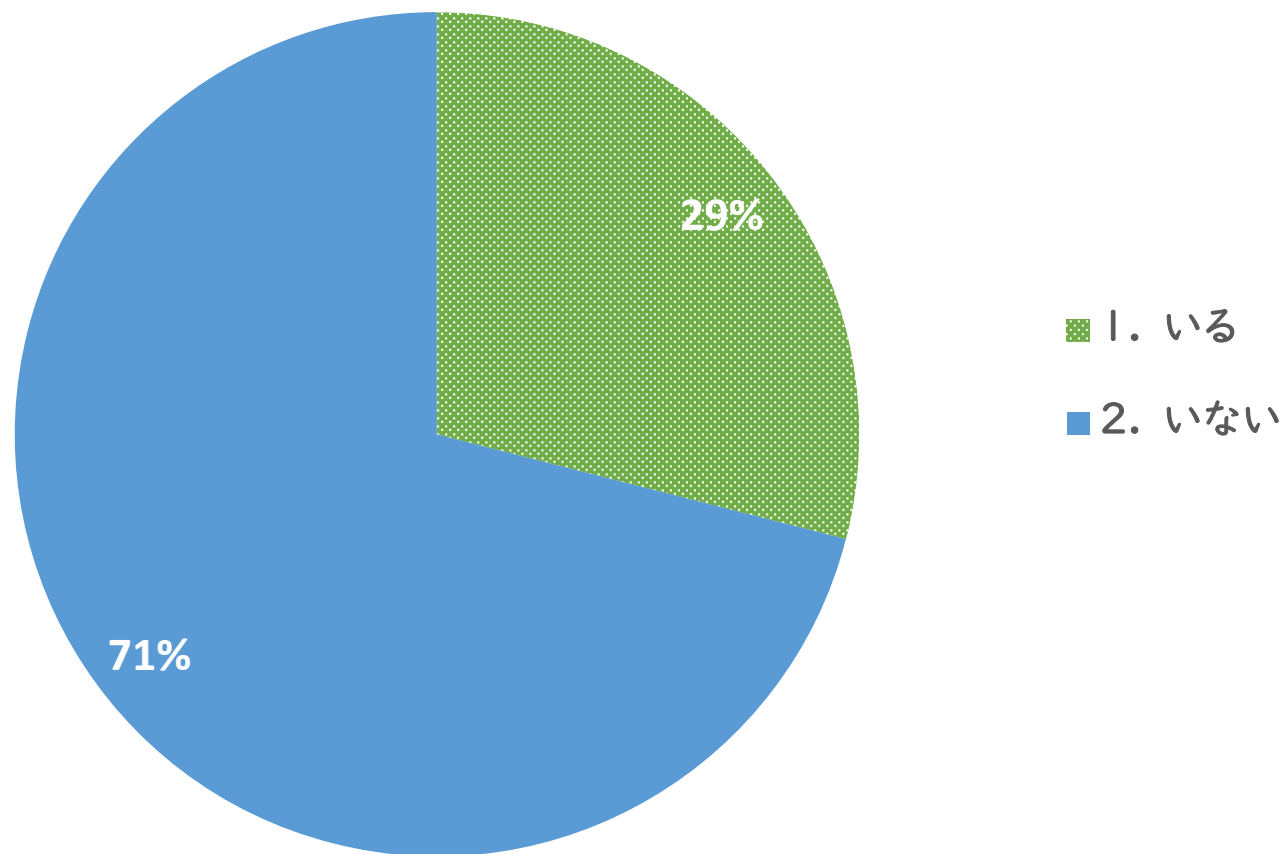
Q33 あなたは、日本の病院に行く時に、困っていることや嫌だと思ふことは何ですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 3,432)

6:子育て・教育について

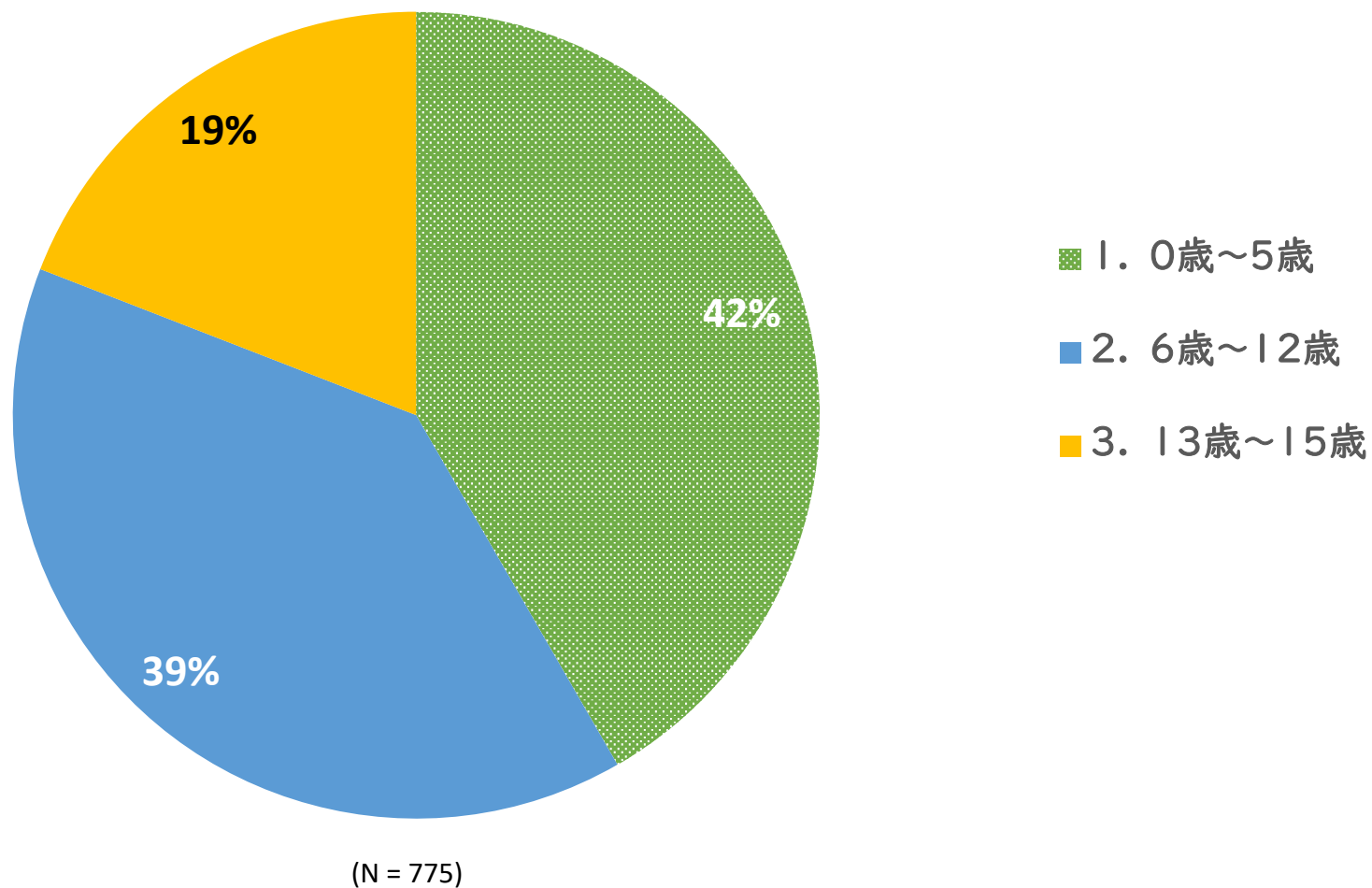
Q34 あなたは、同居している0歳～15歳の子どもはいますか？（ひとつにしてください）



(N = 2,170)

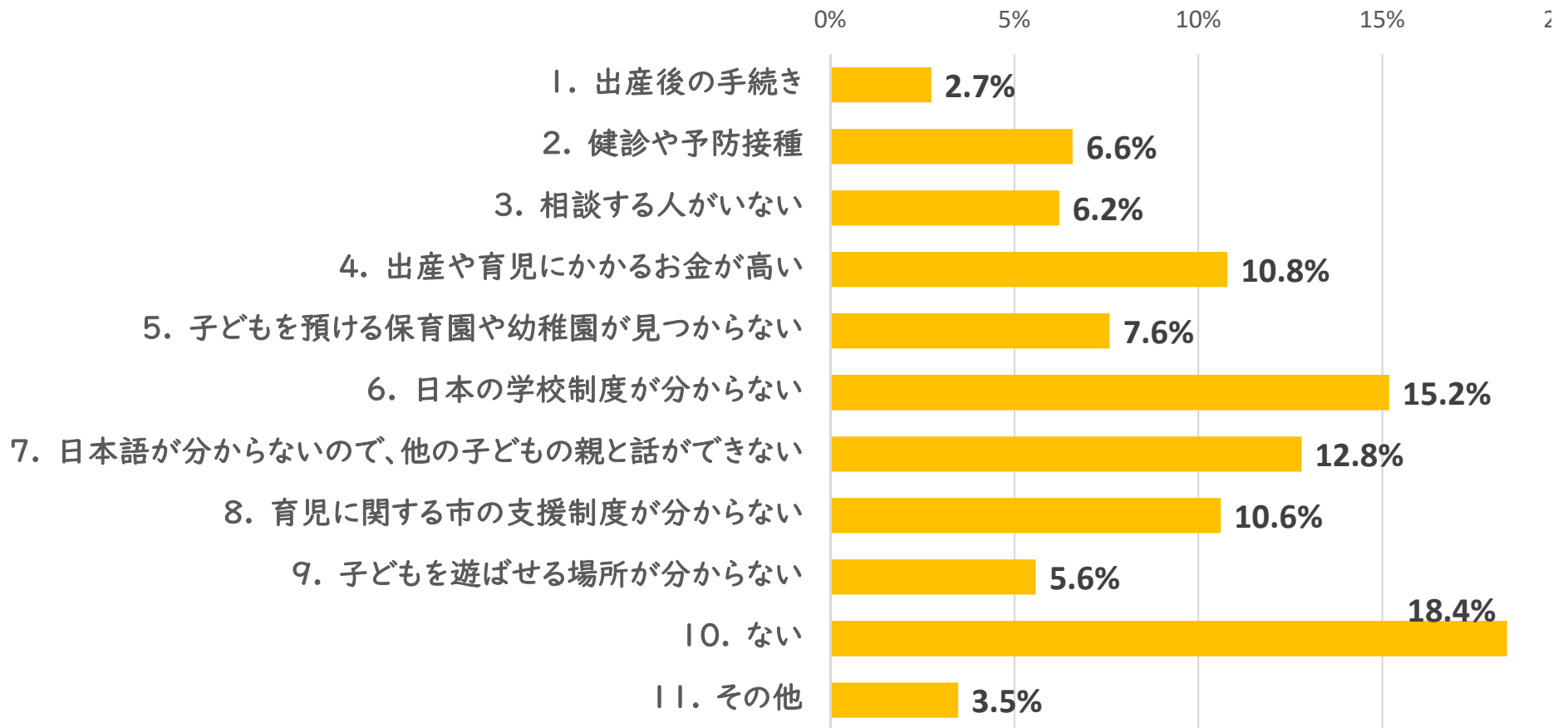
6:子育て・教育について

Q35 あなたの子どもの年齢を教えてください。(あてはまるものすべてにしてください)



6:子育て・教育について

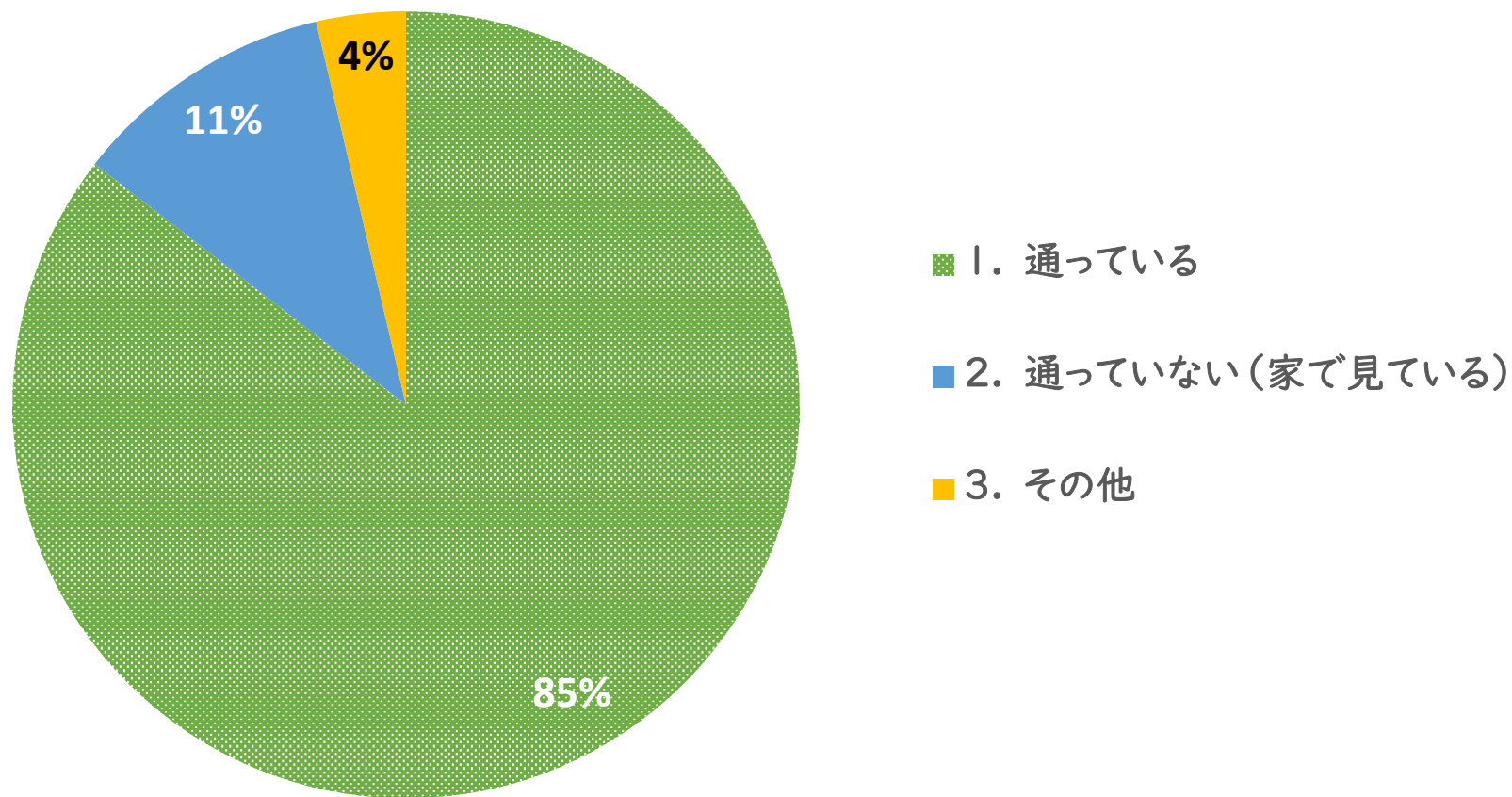
Q36 育児で困っていること、困っていたことはありますか？（あてはまるものすべてにしてください）



(N = 1,093)

6:子育て・教育について

Q37 あなたの子どもは幼稚園、保育園、小学校、中学校に通っていますか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 627)

6:子育て・教育について

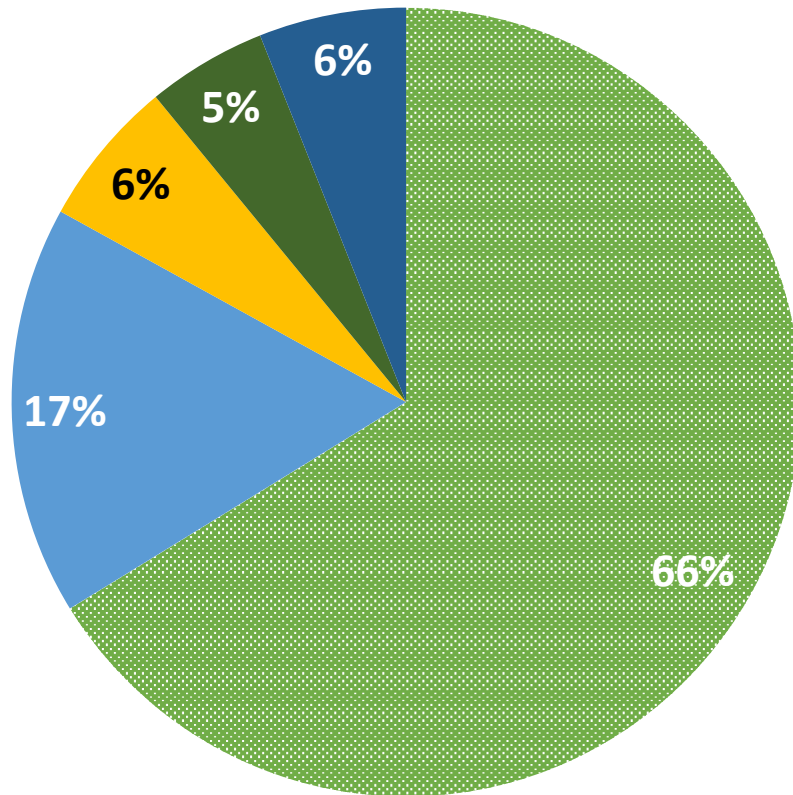
Q37 あなたの子どもは幼稚園、保育園、小学校、中学校に通っていますか？
(あてはまるものすべてにしてください)

「3. その他」の回答

回答
インターナショナルスクールに進学 (6)
ハイスクール (2)
学校を探している
義理の母
高校 (3)
自国の中学校
一時保育
プレキンダー
ベトナム
ナーサリー(保育園)の空きを探している
幼稚園を探している

6:子育て・教育について

Q38 あなたの子どもはどれくらい日本語ができますか？（ひとつにしてください）

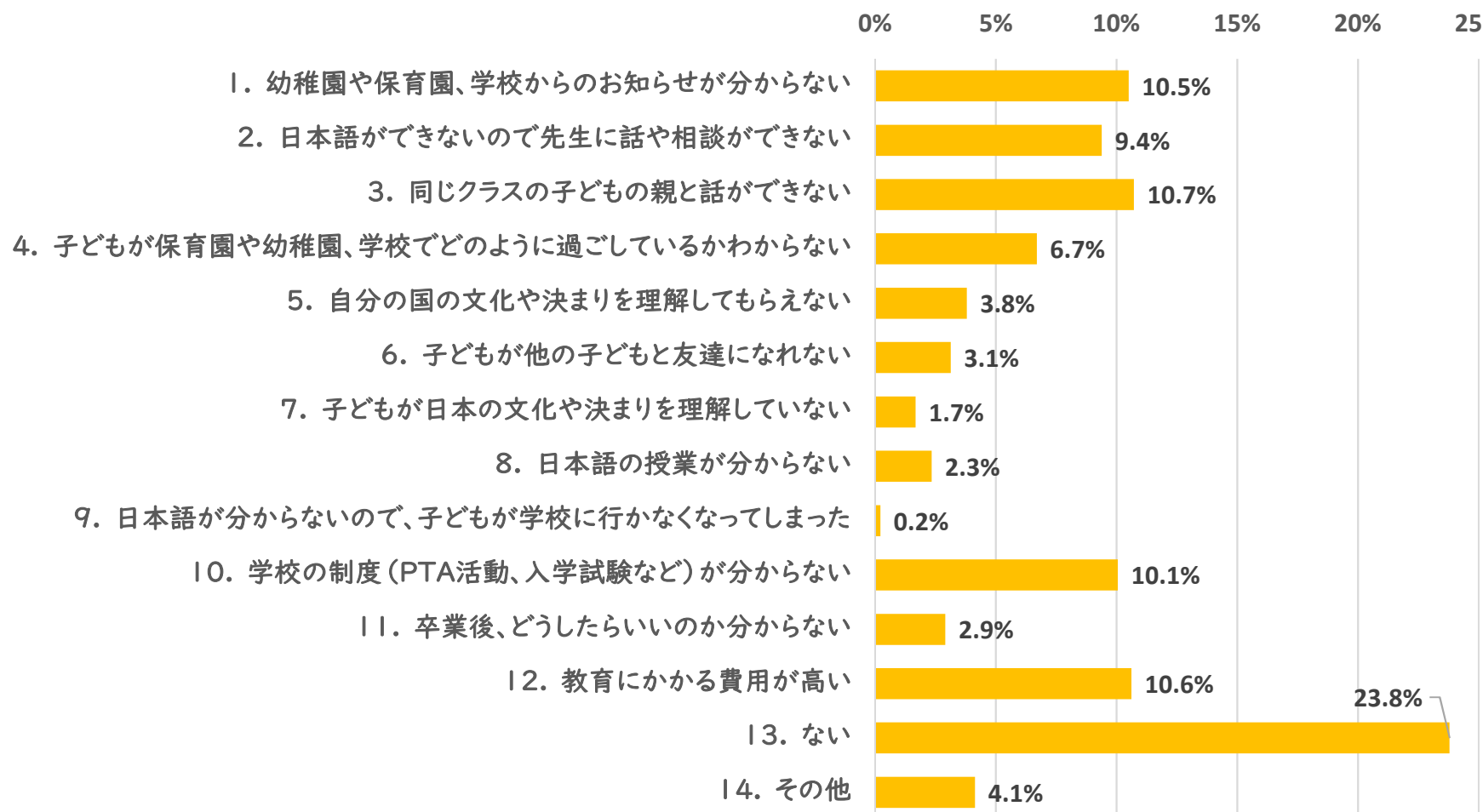


(N = 530)

- 1. 日本語での授業が理解できる（自分の国の学校での授業と同じように理解できる）
- 2. 日本語での授業は理解できないが、日常会話は理解できる
- 3. 日本語はほとんどできない
- 4. 日本語は全然できない
- 5. 日本語をどのくらいできるか分からない

6:子育て・教育について

Q39 あなたは、子どもの幼稚園や保育園、学校のことについて困っていることはありますか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 895)

6:子育て・教育について

Q39 あなたは、子どもの幼稚園や保育園、学校のことについて困っていることはありますか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

「14. その他」の回答

回答
妻が子供の学校の先生やスタッフ、他の保護者とコミュニケーションが取れない
言葉の問題で、先生とのコミュニケーションがうまくいかない
学校から送られてくる手紙が多く、減らす必要があると思う
手紙やお知らせのちょっとした問題
幼稚園やプレスクールの入学許可を得るのは、ポイント制のため非常に困難だった(妻はフルタイムの仕事をしていなかった)。これは日本の問題であり、つくばに限ったことではないが、非常に大きな問題であり、私たちにとっては大きなストレスだった。
インターナショナルスクールへの進学
学校のシステムはだいたい理解していますが、PTA活動についての説明は私の日本語能力のレベルを超えている。もっと知りたいし、自分に何ができるのか知りたい。
電子媒体(メール、PDFなど)で提供されれば、スマートフォンの翻訳ツールを使って、より早く、より簡単に翻訳することができる。

回答
小学校では、すべての通知が紙媒体であったため、理解するのが難しく、翻訳にも時間がかかった。また、英語でコミュニケーションをとれる先生がいなかったため、簡単な日本語でのやりとりはできても、複雑なことを相談することはできなかった。現在、私の子どもたちが通う中学・高校では、通知はメールやPDFで送られてくるが、Google翻訳をはじめとするウェブやアプリの翻訳機を使って、デジタルのお知らせを翻訳する方がずっと簡単で早い。また、英語を話せる先生もいて、面談では英語を話せる先生が子どもの先生と私の会話をサポートしてくれる。とても助かるし、より複雑な問題を一緒に話し合うことができる。
英語での情報が不足しているし、学校の英語レベルも全般的に低すぎる。
政府の英語学校があると良い。日本の公立学校はどこも広くて良いが、英語の私立学校はそうはいかず、お金もかかる。
まだ勉強していない
我が子に漢字を教えてほしい

6:子育て・教育について

Q39 あなたは、子どもの幼稚園や保育園、学校のことで困っていることはありますか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

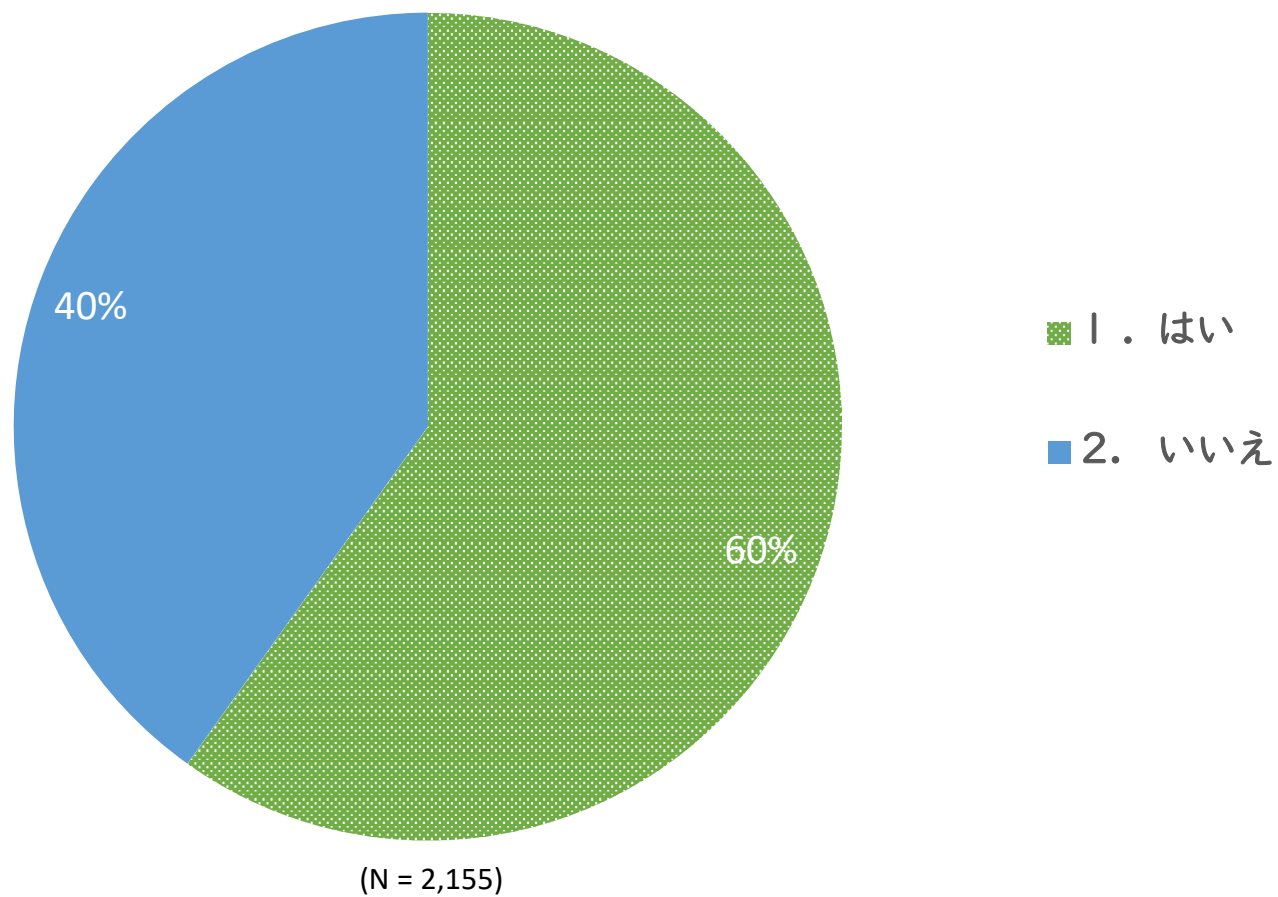
(「14. その他」の回答)

回答
PTA会議で異議があっても、反映しにくい。恒例で進む慣習が根強く、会議で異議に使う時間がほとんどない。
PTA活動は任意となっているが、非常に義務的。また、PTA関連のイベントを開催する際に、外国人の意見を考慮していないことがある。
インターナショナルスクールはないからいいが、日本の学校は親たちにPTAを強制的に参加させるとよく聞かすが、何の意味があるのか？
放課後学校の中で学べることがない
教師は留学生とより良い関係を築くために、留学生の国の文化を知り、留学生と日本人学生の間で起こりうる問題を解決できるようにしなければならない。
発達障害のある子供への教育支援が分からない
保育園の先生に対して、意見があってもどこに言えばわからない。とても優しい先生もいれば、いつも暗い顔している先生もいる。ちょっとしたことで、子供を帰そうとする。以前、熱もなく鼻水が出ただけで、勤務先に連絡が来て、迎えにくるように言われたことがあった。これは普通なら仕方ないが。

回答
私たちの子どもたちは学校で昼食がない。イスラム教徒で豚肉を食べることができないので、子どもたちは学校の昼食から除外され、ほとんどの場合、クラスメートと違うものを食べることを恥ずかしがり、昼食を食べない。給食ではこの点を考慮した方がよい。
ハラールのお弁当がない
子供が日本の幼稚園に通うことになった。我が家の生活圏に合わせて、どの小学校・中学校を検討すべきかという情報はどこから得られるのか？
いじめ、嫌がらせ(3)
保育園の先生に差別されたことがある

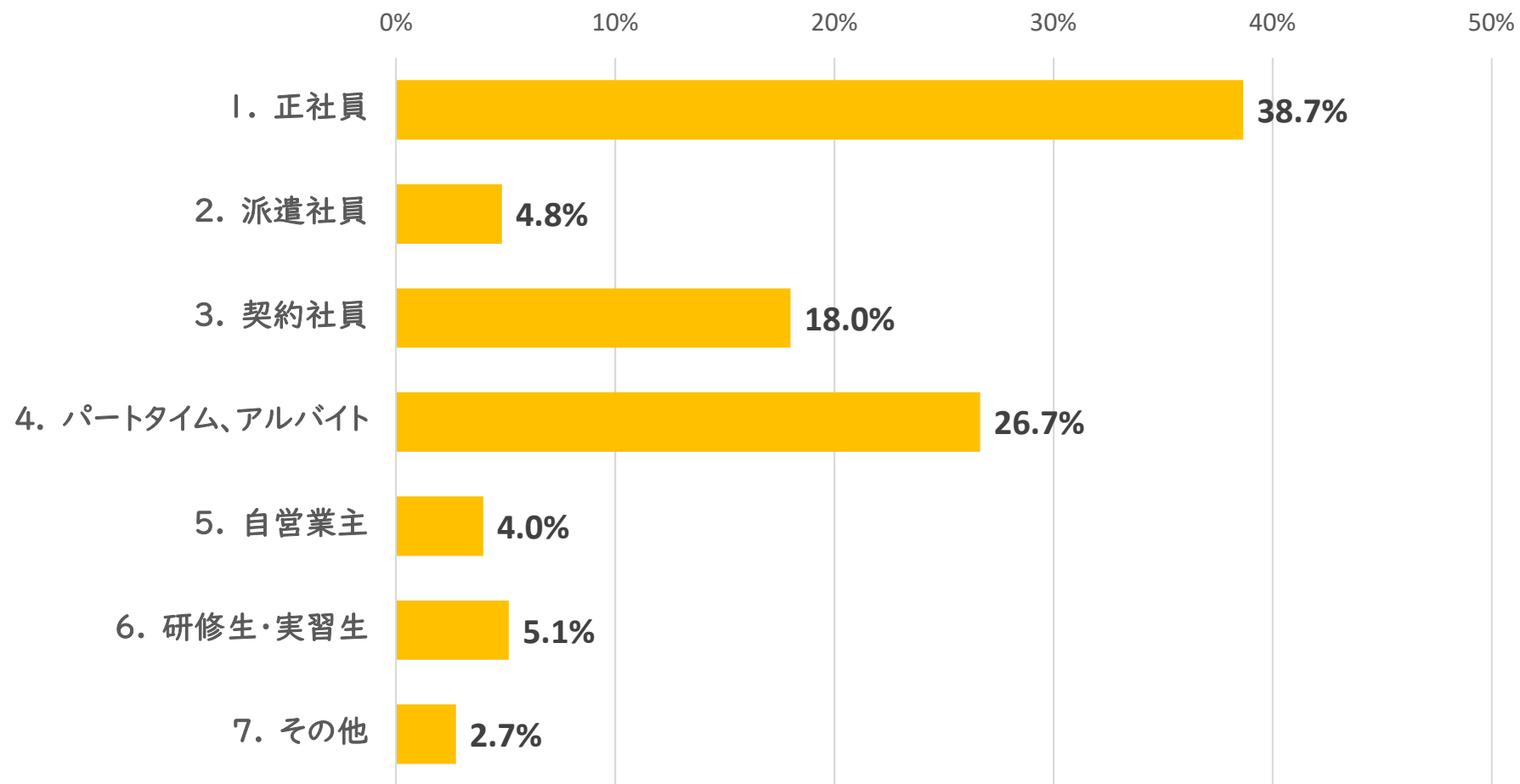
7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

Q40 あなたは今、働いていますか?(1つにしてください)



7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

Q41 あなたの主な雇用形態を教えてください。(1つにしてください)



(N = 1,283)

7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

Q41 あなたの主な雇用形態を教えてください。(1つにしてください)

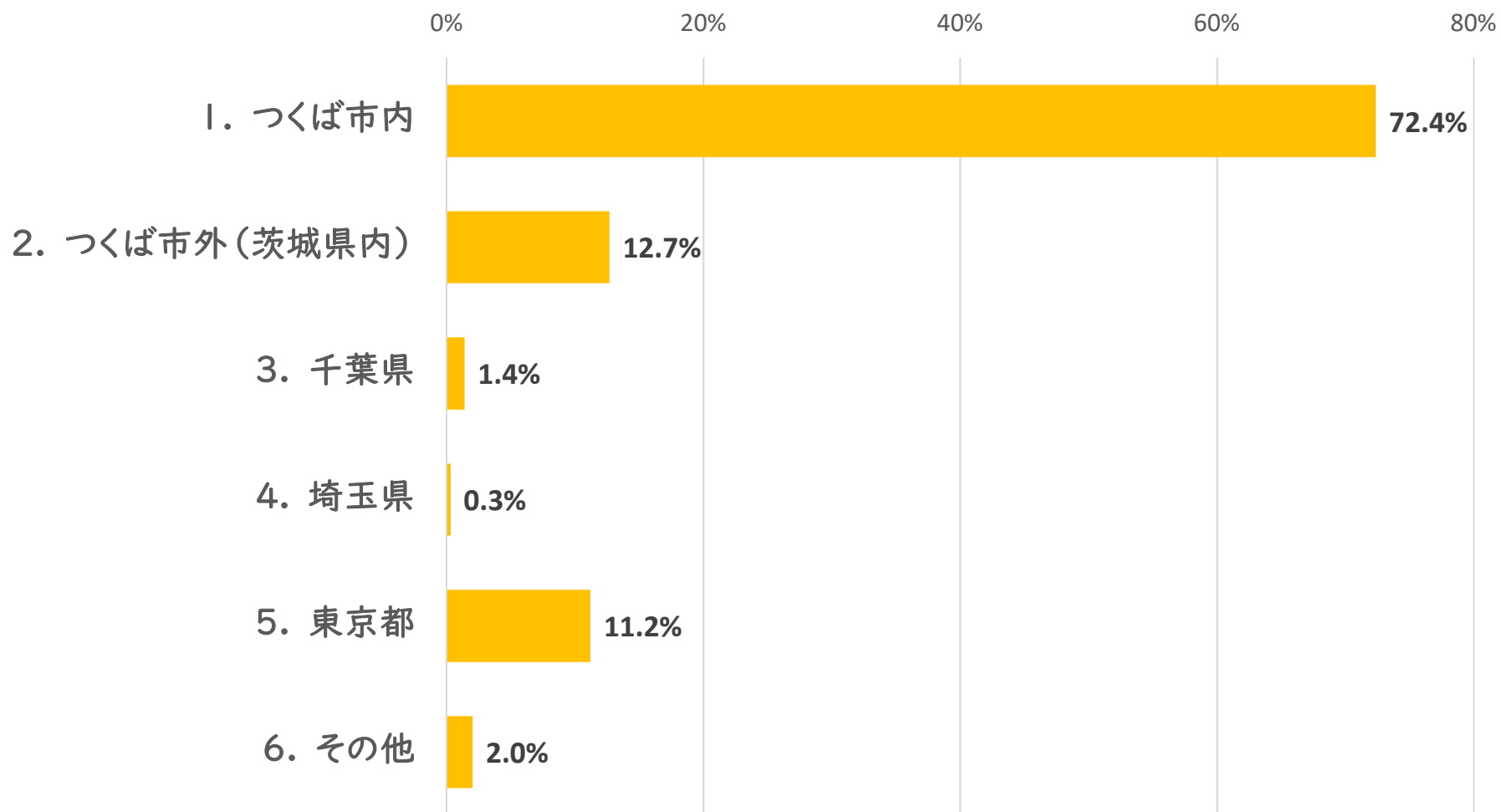
「7.その他」の回答

回答
JSPSポスドック
TA,RA
アソシエイト
セミリタイアしていても働いている
なし(2)
ポスドック(3)
任期制
任用職員
共同設立者
博士後期課程在学中
博士生
博士課程学生
外国人特別研究員
大学リサーチアシスタント
大学教授

回答
大学研究員
学生(3)
客員研究員
役員
株式会社代表取締役
無職
特定技能者
研究員
研究者
大学のサバティカル期間中、筑波大学で外国人招聘研究者として
非常勤
非常勤研究員(3)

7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

Q42 あなたは、主に、どこで働いていますか。(1つに☑してください)



(N = 1,285)

7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

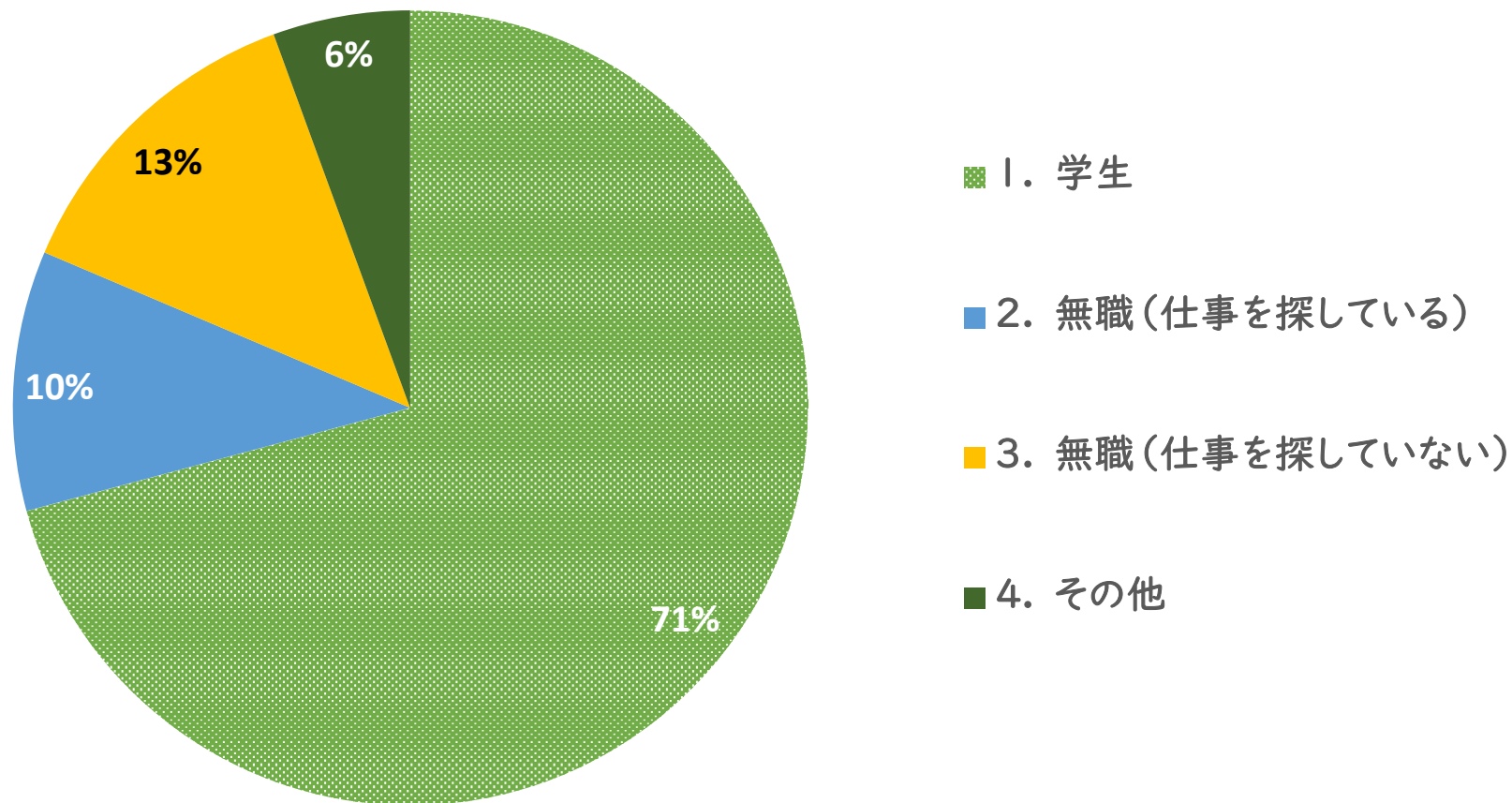
Q42 あなたは、主に、どこで働いていますか。(1つにしてください)

「6. その他」の回答

回答
2020年3月以降、無期限のリモートワーク
オンライン-京都
オンラインチューター
つくばと土浦
一応は東京だが、コロナでほぼ100%在宅勤務
元々は東京、現在は在宅(2)
土浦(2)
在宅ワーク(5)
栃木県・宇都宮(4)
岐阜県
福岡県
神奈川県
石岡市
中国
海外

7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

Q43 あなたの現在の状況を教えてください。(1つにしてください)



(N = 860)

7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

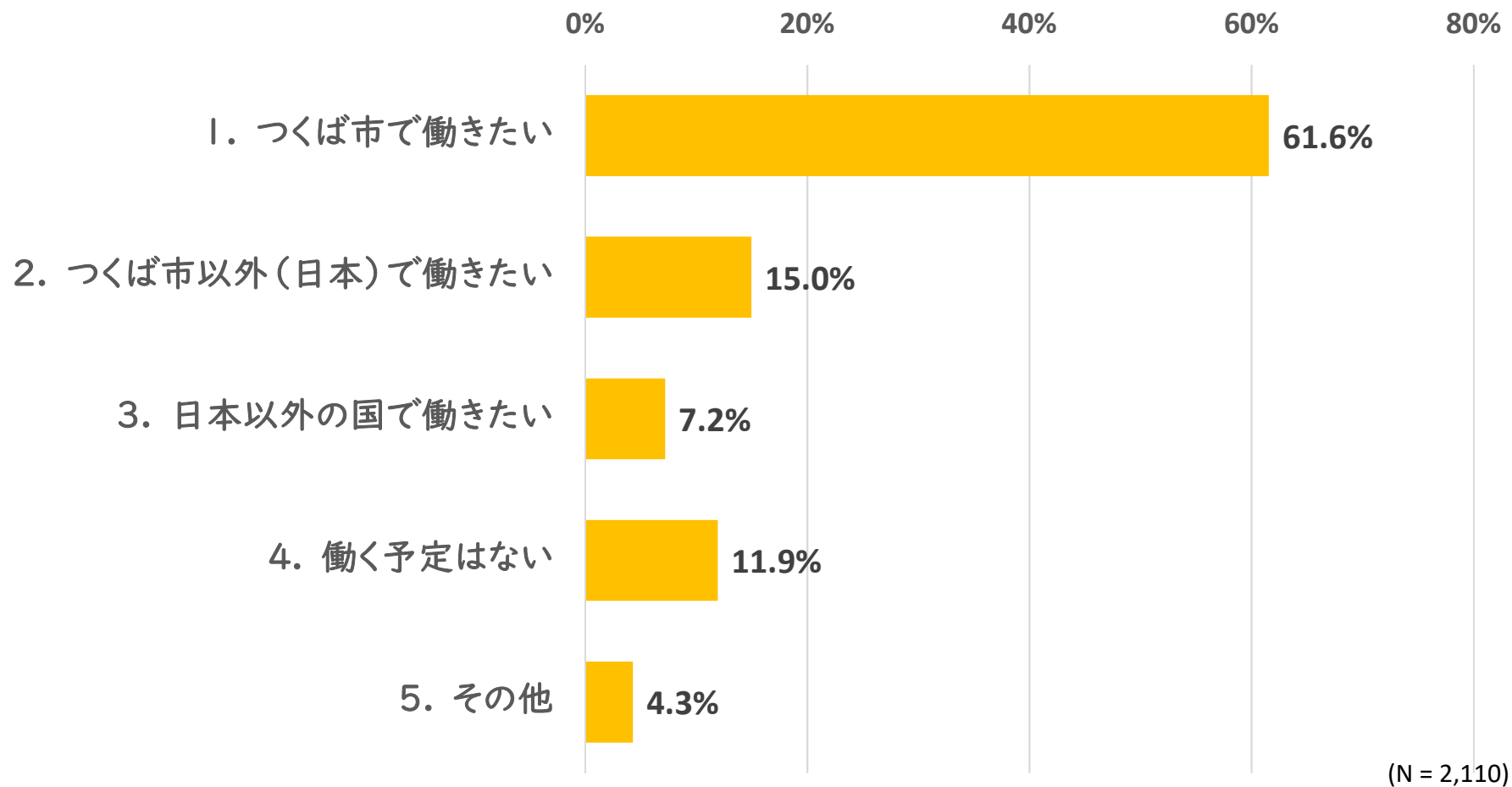
Q43 あなたの現在の状況を教えてください。(1つにしてください)

「4. その他」の回答

回答
アルバイト
したい仕事に関係するボランティア活動に参加している
しばらく仕事を休んでいる
チームスタッフ
産休中
妊娠中(2)
子供に母国語を教えている
定年退職(6)
専業主婦(20)
無色で日本語学校に通っている
小さい子供がいるため、仕事ができない
病気療養中
新しいビジネスの計画
これから就職活動を予定
博士課程の学生で就職先を探したが難しく、母国に戻った
無職で日本語学校に通っている。

7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

Q44 あなたは将来、つくばで働きたいと思いますか?(1つに☑してください)



7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

Q44 あなたは将来、つくばで働きたいと思いますか?(1つにしてください)

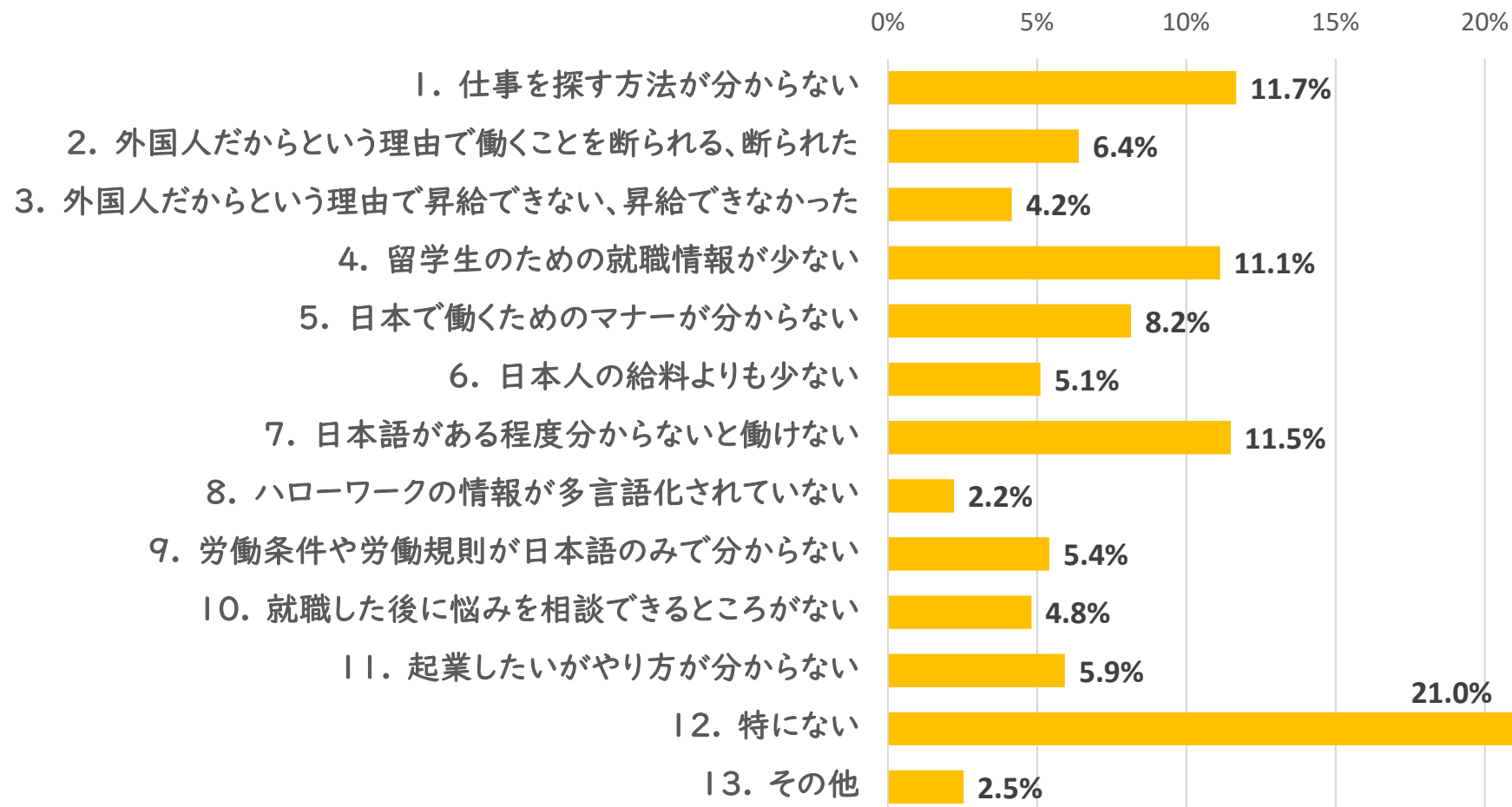
「5.その他」の回答

回答
可能であれば、どこかで働き、経験したい
もうすぐ契約が終わるので、すぐに母国へ帰る
故郷・自分の国に帰る(4)
卒業したら国に帰らなければならない(2)
つくば、東京、またはその近郊であればどこでもよい
つくばで働きたいが、志望先の勤務地はほとんどつくばではない
つくばには仕事がないので、近くの街で仕事を探さなければならない
つくばには私のスキルセットに合った企業がない
つくばや日本で働くことは可能だが、今のような上司のもとでは働けない
つくば市内・外どちらでもよい
どこでもいい・こだわらない(6)
まだわからない(25)
やり甲斐ある仕事なら、どこでもよい
日本国内であればどこでもよい
交通の便が良ければどこでもよい
家から通えるところならこだわらない
今の仕事に満足しているので、特にない
今のところ転職の予定はない(3)
迷っている(3)

回答
リモートワークで北海道に移住したい
仕事の内容や待遇にもよる
提案されたポジションによる
仕事場による。どこに住んでも構わない
収入が良いところで働きたい(2)
会社の許可があれば、リモートワークを永続的に行う
会社の都合に合わせて働きたいと思っている
会社次第(2)
文化や宗教的なことを理解頂いたら是非働きたい
日本が外国人にとってよりフレンドリーになるために多くの努力がなされているが、実際のところ、私たちは非常に遠い存在であり、認めがたいことだが、日本の保守的な文化的背景が、理論的な努力をすべて無にしている
住む場所の近くで働きたい
日本のつくば以外の場所が理想だが、つくばで働くことに抵抗はない
自分の専門分野に関連した仕事があればそうする。それ以外の場合は、遠隔地で働きたい
転勤があるため不明

7:仕事について(パートタイム、アルバイトを含みます)

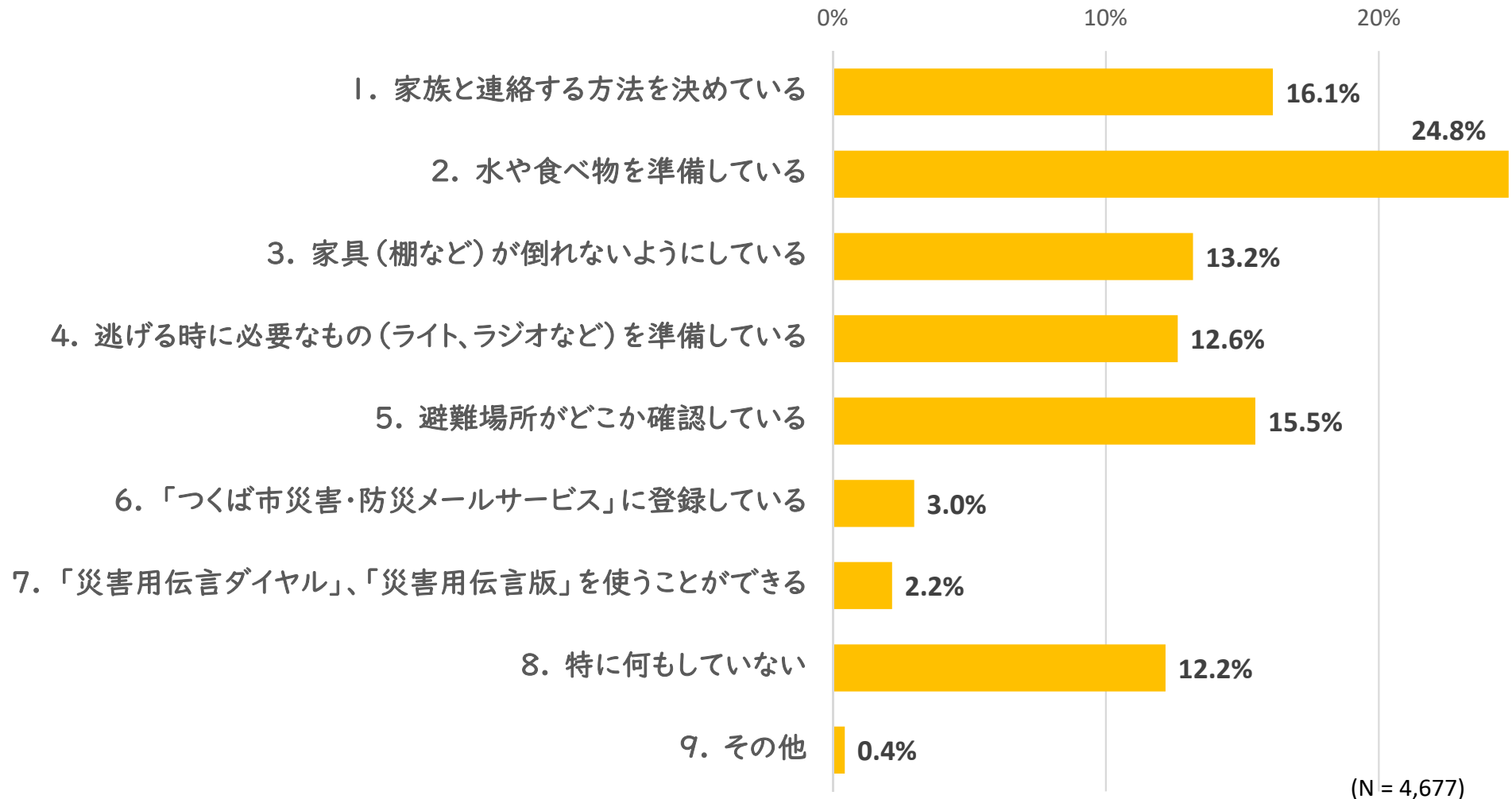
Q45 働く際に困ったこと、または、現在、困っていることはありますか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 3,656)

8:災害時のことについて

Q46 あなたは、地震や台風などの災害に対して、どのような備えをしていますか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 4,677)

8:災害時のことについて

Q46 あなたは、地震や台風などの災害に対して、どのような備えをしていますか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

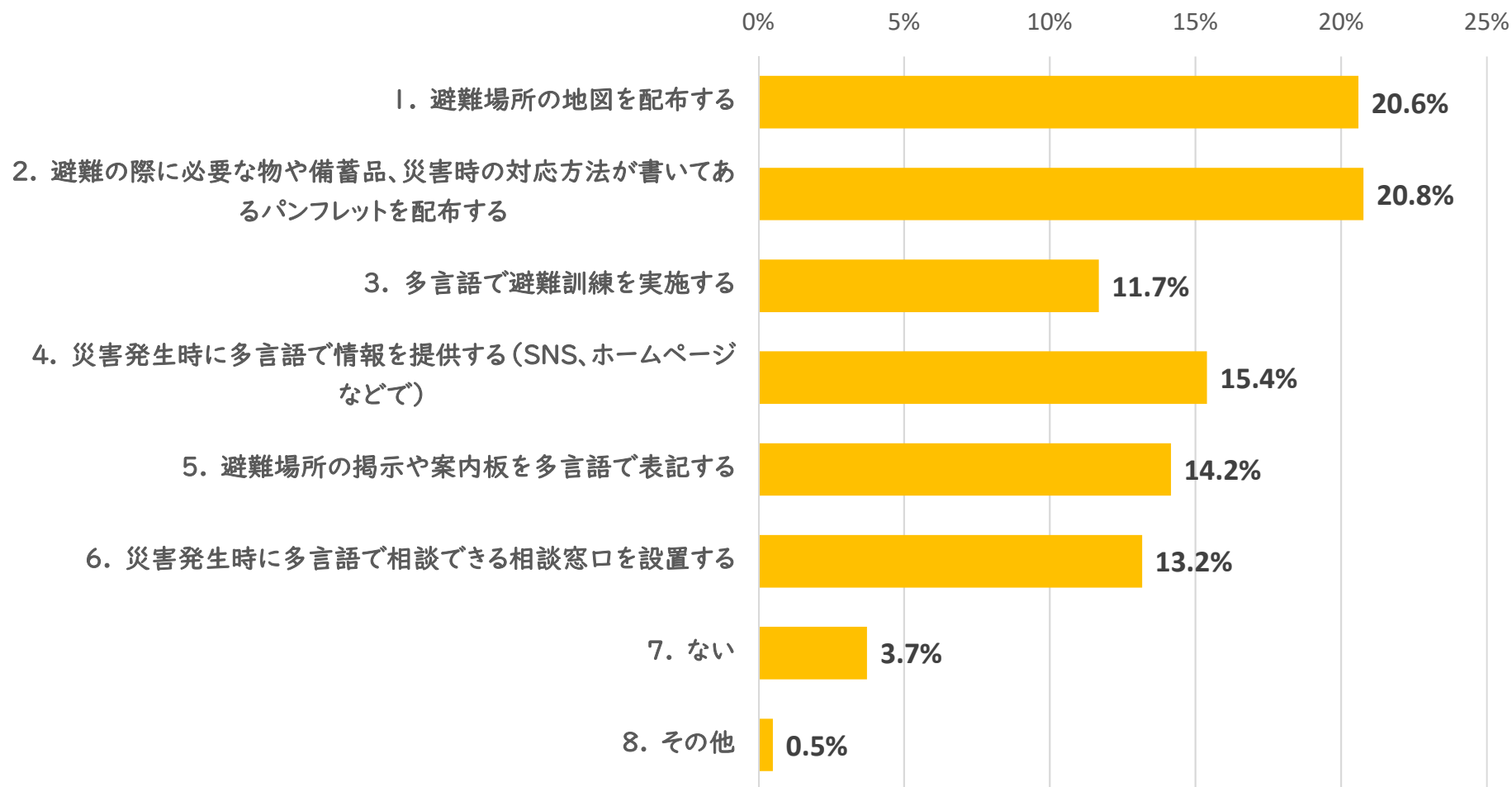
「9.その他」の回答)

回答
2011年の東日本大震災の経験者なので、ある程度は準備している
災害が教える安全な過ごし方
災害時にどこに避難したらいいのか、何をしたらいいのかわからない
災害時に備えて、重要な書類を一か所にまとめて持ち歩いている
災害に備えて何をすべきか知っているが、何もしていない
災害時に実践的で強力な指示を受けたことがないので、何かあったときにどう行動していいのかわからないのが本音。また、ポルトガル語で書かれた情報を見ても、翻訳がうまくいっていないと意味がわからなかったり、逆の行動を示したりすることがある
地震を知らせるアプリ「ゆれくるコール」をインストール
災害の前取るべき基本的な注意事項を知らないので、余分な食料を蓄えておく以外の災害対策をしていない。基本的なサバイバルキットのようなもの
避難場所については、近所の人しか知らない
友人や職場の人に聞いてみるといい

回答
大学では、日本の災害について真剣に説明してくれなかった。市役所もそうだった。すべての外国人が自分の国で地震、台風、津波に遭うわけではない。これは冗談ではなく、真剣に受け止めるべき
地震が起きたとき、私は直接机の下に隠れた。外に出るべきかどうか迷ったこともあった。
自分の職場で
職場での恒例行事
日本人の奥さんにまかせている
災害アプリどのように言っているのか分からない
職場の安否確認連絡
自分の家は大丈夫と信じている

8: 災害時のことについて

Q47 地震や台風などの災害発生前及び発生時の対策として、つくば市に何をしてほしいですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 5,657)

8:災害時のことについて

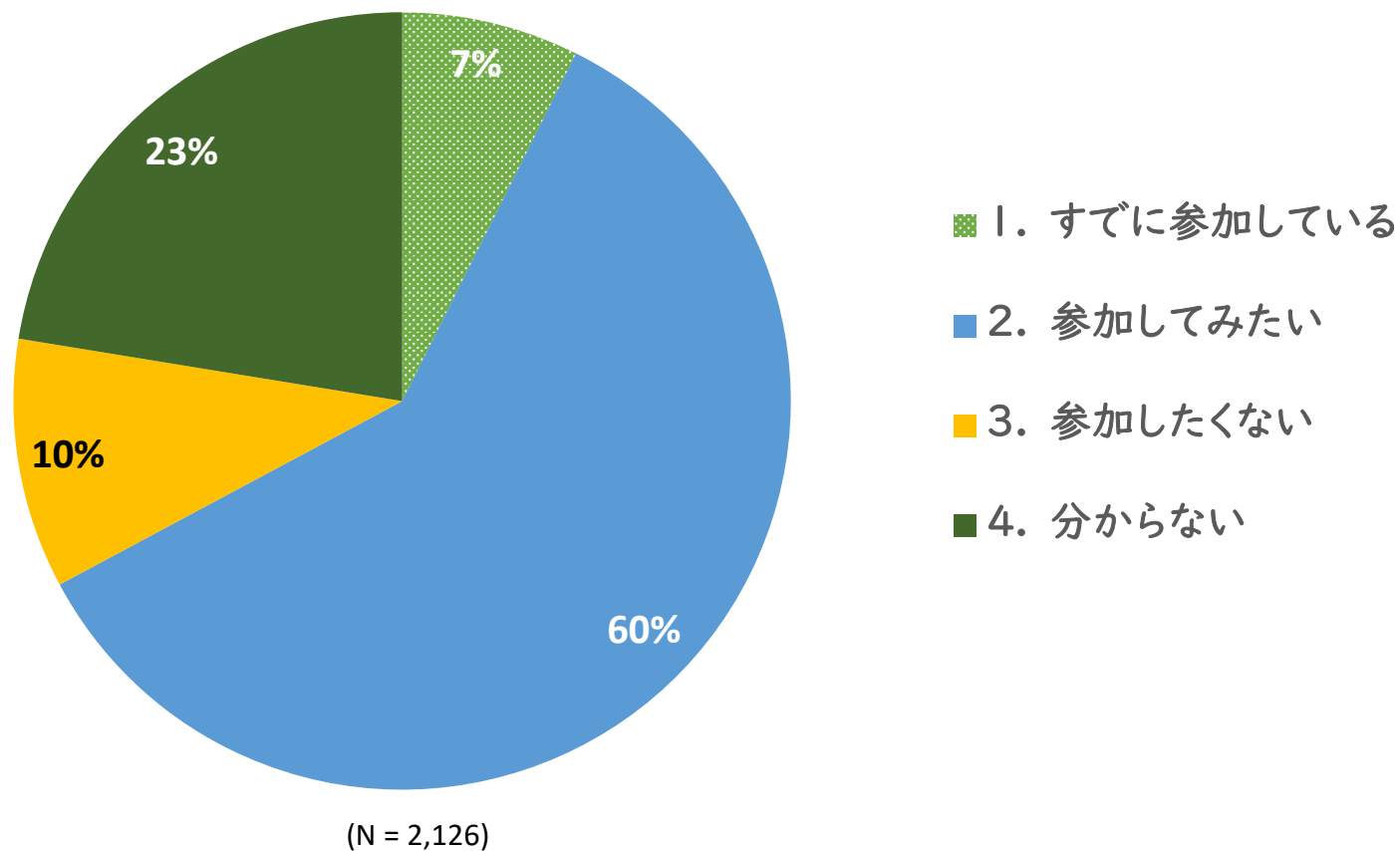
Q47 地震や台風などの災害発生前及び発生時の対策として、つくば市に何をしてほしいですか？
(あてはまるものすべてにしてください)

「8. その他」の回答

回答
災害時のSNSでのタイムリーな情報発信
給付金などの制度構築
考えた事はない
災害の時に、外国人にとって一番足りないのは、情報。特に日本語が上手くないとかなり不安になりやすい
迅速な情報共有と対応
避難場所で十分な避難用備蓄品を提供する

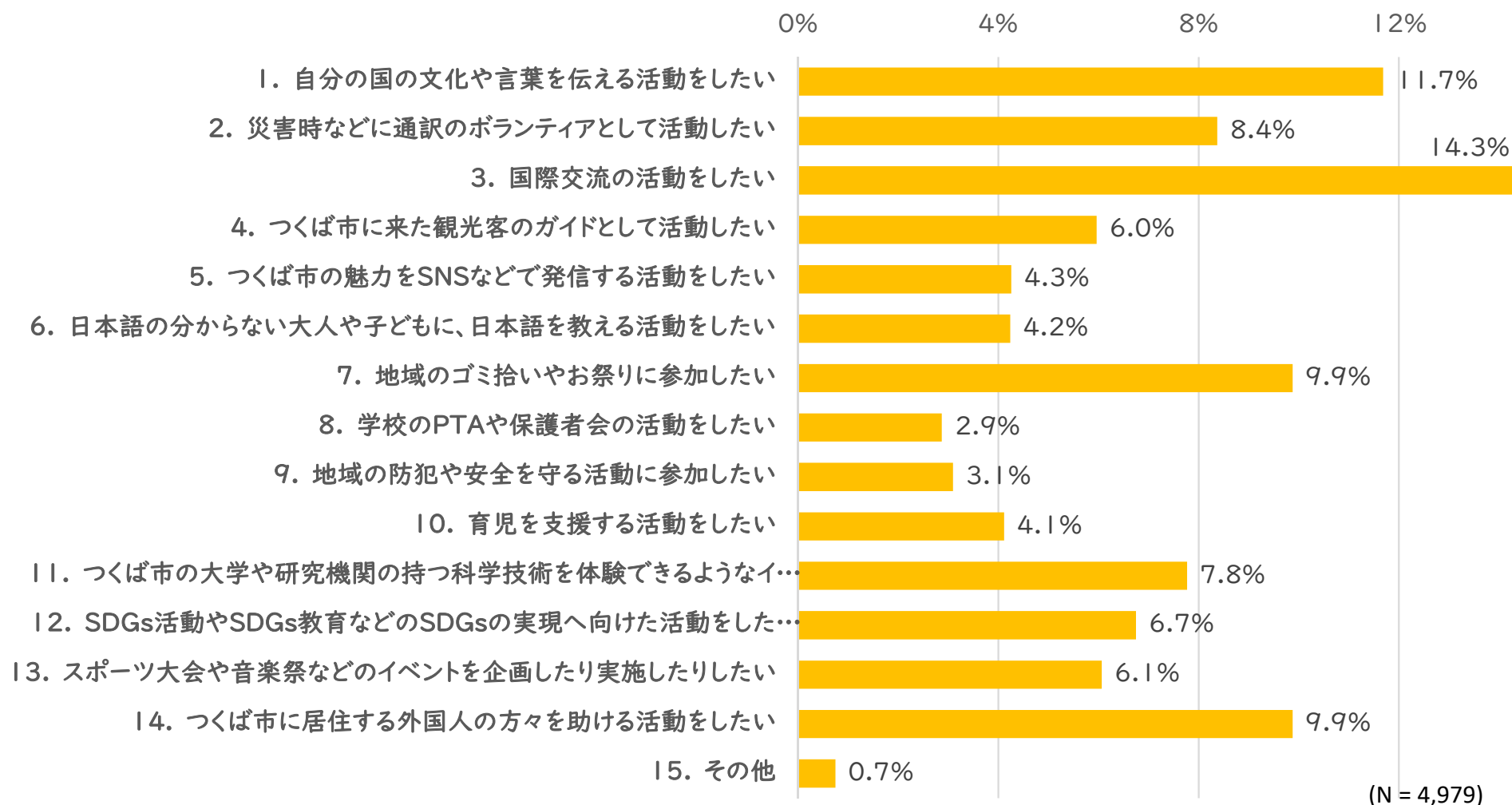
9: 地域活動、まちづくりへの参加について

Q48 つくば市では、あなたの能力や経験を生かして、地域で活躍してほしいと考えています。
あなたは地域活動やまちづくり（お祭りや地域でのごみ拾いなど）に参加してみたいと思いますか？
（1つにしてください）



9:地域活動、まちづくりへの参加について

Q49 あなたが今、参加している活動、または、これから参加してみたい活動は何ですか？
 (あてはまるものすべてにしてください)



(N = 4,979)

9:地域活動、まちづくりへの参加について

Q49 あなたが今、参加している活動、または、これから参加してみたい活動は何ですか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

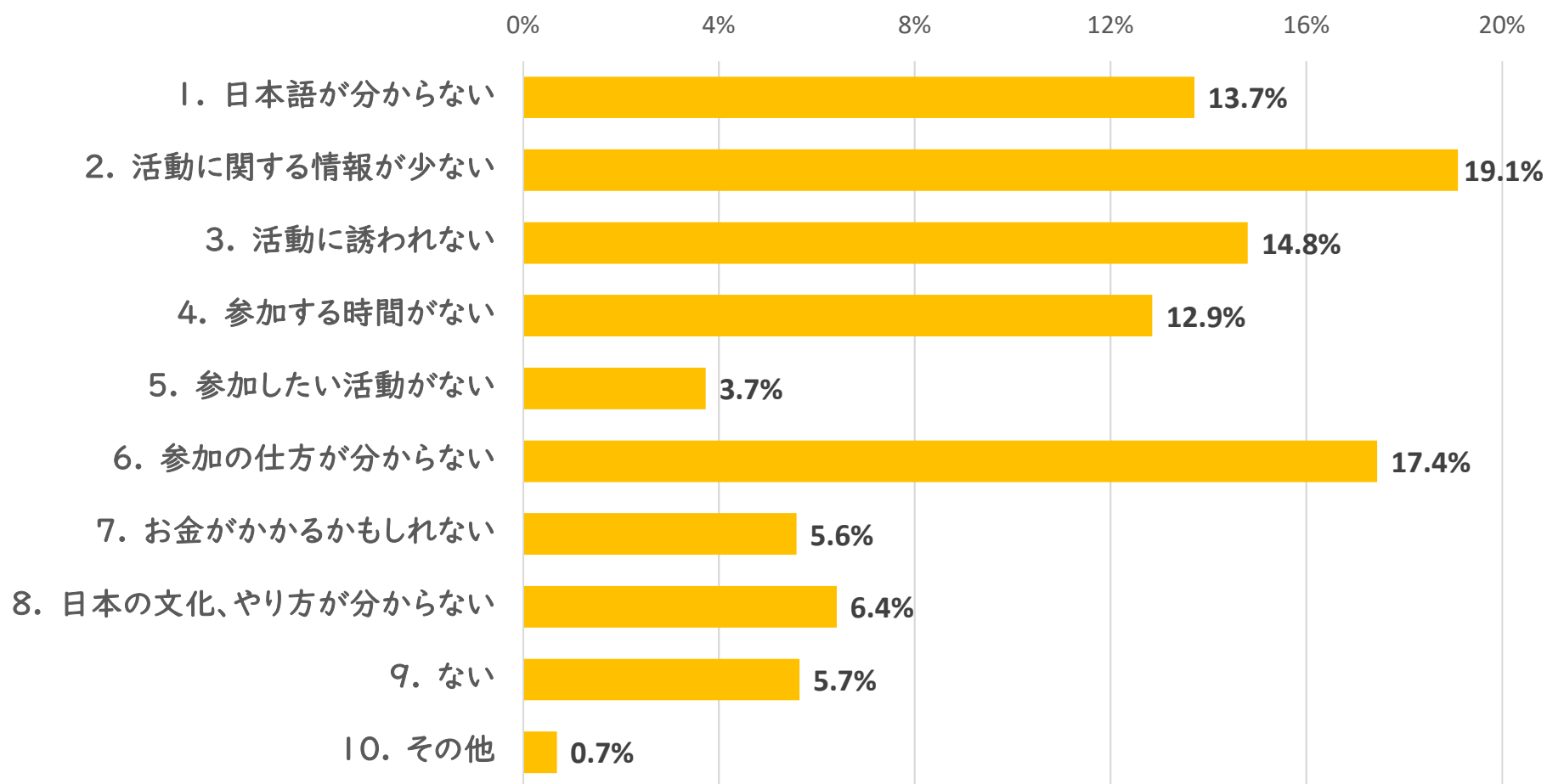
「15. その他」の回答

回答
日本の活動や文化にもっと参加する
日本文化紹介
昆虫や植物に関する活動
時期や条件によって異なる
私はPTAに参加したことがあり、以前は自治会でも役割を果たしていた。喜んでこれらの活動を再開したい
ヨガインストラクターの資格を持っているが、COVID時代の今、とても必要とされている医療サービスに何らかの形で貢献したいと思っている。英語でも日本語でも指導することができる。市役所を通じて、つくば市民や外国人居住者にヨガのセッションを提供できたらよい
病院のフロントで通訳として働く
人が水彩画、アクリル画、油絵を学べる絵画教室やイベントの開催
自分の家族も一緒にできる活動ならしたい。家族との時間を減らしたくない
虐待や動物遺棄を減らすための動物福祉・教育プログラム
韓国語を教えたい
学びたい人に英語を教える
小学生の放課後に英語を教える。

回答
アメリカで写真教室の講師をしていたので、住民向けの教室を開きたい
アメリカで医療研修を受け、免許を取得したので、医療関連のボランティア活動をしたい(予防接種や地域の健康増進活動など)
特になし(5)
したくない(3)
スポーツイベントの開催
つくばでの生活をより良くするための健康増進活動
わからない
仕事で時間がない
何もしていない
既にボランティア活動を行っている
老人ホームでボランティア活動
写真撮影
地域のハイキングクラブの活動に参加する
地域開発やまちづくりのNPOに参加する。
外国人永住者にも選挙権が欲しい。その活動に参加したい

9:地域活動、まちづくりへの参加について

Q50 あなたが地域活動やまちづくりなどの活動をするときに、困ると思うこと、または、今、困っていることは何ですか？
(あてはまるものすべてにしてください)



(N = 3,026)

9:地域活動、まちづくりへの参加について

Q50 あなたが地域活動やまちづくりなどの活動をするときに、困ると思うこと、
 または、今、困っていることは何ですか？
 (あてはまるものすべてにしてください)

「10. その他」の回答

回答
家から遠く離れた場所にあるアクティビティ
COVID-19のせいで、活動を楽しめない
COVID-19のせいで、ここ1年半ほど、 unnecessaryな活動に参加しないようにしている
アニマルシェルターでボランティアをしているが、仕事が忙しくて時間が取れないことがある
天久保周辺のゴミ拾いなどの清掃活動に参加してみたい。単独で行っていいのか、集めたゴミをどこに捨てればいいのか分からない
交通手段がない・交通の便が悪い(2)
参加しない
経験がない
これまで私が参加したアクティビティは、各大学が企画したものだった。つくばの活動にも参加したいと思っている

回答
通常、私の国籍に関わらず、外国人として扱われ、コミュニティの一員ではない
日本人との交流に孤立感や恥ずかしさを感じることが多い。人々は私に話しかけるのを恐れ、英語を間違えるのを心配する。孤立感が強い
なるべくゴミ拾い等に参加しているが、仕事との両立が難しい
参加したくても、車ないからどうやって辿り着けばいいかわからない
参加方法が面倒な場合が多い。簡単に気軽に参加できると良い
外国人だから分からない、通じない、面倒くさいと即断されたくない
時間
活動が継続できる仕組みがまだ見えていない

<参考>

つくば市の 「国際化」と「グローバル化」

【グローバル化】

人・金・物・文化・経済・知識などが地球規模で一体となり、国という枠組みを超えて移動すること

【国際化】

自国と他国の違いを前提としたうえで、活発な交流を行うこと。明確に国境をもち、自国対他国の関係性を有する

「第2次つくば市グローバル化基本指針」に基づき、
つくば市の国際化の取組を一体的に推進

つくば市の
国際化の取組

つくば市の
国際化の取組

つくば市の
国際化の取組

つくば市の
国際化の取組

つくば市の
国際化の取組

つくば市の
グローバル化

つくば市らしい国際化の取組を一体的に進めることで、将来的にグローバル化の実現を目指す

つくば市の特徴を反映した
「つくば市らしい」国際化の取組